

# 京都市内遺跡立会調査概報

平成11年度

2000年3月

京都市文化市民局

## ごあいさつ

京都は、世界に誇る数多くの歴史遺産に恵まれた大都市であります。市内の埋蔵文化財包蔵地には、年代ごとに幾層にもわたり積み重ねられ、歴史の重みをもつ遺跡が数多く存在いたします。

このような埋蔵文化財は、我が国の歴史や文化の成り立ちを知ることができる国民共有の貴重な財産であり、将来にわたって保存すべきものであります。

近年、埋蔵文化財包蔵地内における土木工事等による開発行為は、これらの埋蔵文化財に少なからず影響を及ぼしており、先人が残した埋蔵文化財を引き継いだ私達は、その保存と開発との調和を図りながら、これを後世に伝承していく責務があると考えております。

本報告書は、平成11年度に本市が文化庁の国庫補助を得て実施した埋蔵文化財調査の結果をまとめた概要報告書であります。調査のうち、試掘調査は京都市埋蔵文化財調査センターが実施し、発掘調査及び立会調査は、財団法人京都市埋蔵文化財研究所へ委託し実施したものであります。

結びに、今年度の各調査の実施に当たりまして、御理解と御協力を賜りました市民の皆様をはじめ、御指導と御助言を賜りました関係機関の皆様へ深く感謝申し上げますとともに、本報告書が京都の歴史を知るための一助として、お役に立てれば幸いに存じます。

平成12年3月

京都市文化市民局長

坪 倉 譲

## 例 言

- 1 本書は京都市文化市民局が財団法人京都市埋蔵文化財研究所へ委託して実施した、文化庁国庫補助事業に伴う平成11年度の京都市内遺跡立会調査概要報告である。
- 2 本書の編集は菅田 薫、吉本健吾を中心に、加納敬二、近藤章子、長戸満男、西村洋子、平尾政幸、モンベティ恭代、電子正彦が調整・作成実務を担当した。
- 3 各報告については文末に執筆者を記した。
- 4 写真撮影は村井伸也と幸明綾子が担当し、遺跡の一部は調査担当者が行った。
- 5 遺物復元・彩色は村上 勉、出水みゆきが担当した。
- 6 本書で用いた土壌色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。
- 7 本書で使用した遺構の略記号は、奈良国立文化財研究所の用例に従った。
- 8 個々の調査地での計測値は、宅地の場合は仮の「水準点」を±0mとし、道路の場合には現行道路面を地表面(±0m)としている。なお、本書中で使用している方位および座標の数値は、平面直角座標系VIにより、標高はT.P.(東京湾平均海面高度)による。その際の測量基準点は、京都市遺跡発掘調査基準点を使用し、調査地における測量基準点の設置は宮原健吾が行った。
- 9 調査一覧表では各時代の「時代」は省略しており、調査日については簡略に記しているものもある。遺跡名は平安宮・京跡については、官衙・条坊を優先した。
- 10 なお、本書を作成するにあたって、木簡の判読は井上満郎氏・西山良平氏・吉野秋二氏に、瓦の分類・解釈は浅田昌久氏に御教示いただいた。記して謝意を表したい。
- 11 本書で使用した地図は京都市長の承認を得て同市発行の都市計画基本図(縮尺：1/2,500)を複製して調整したものである。

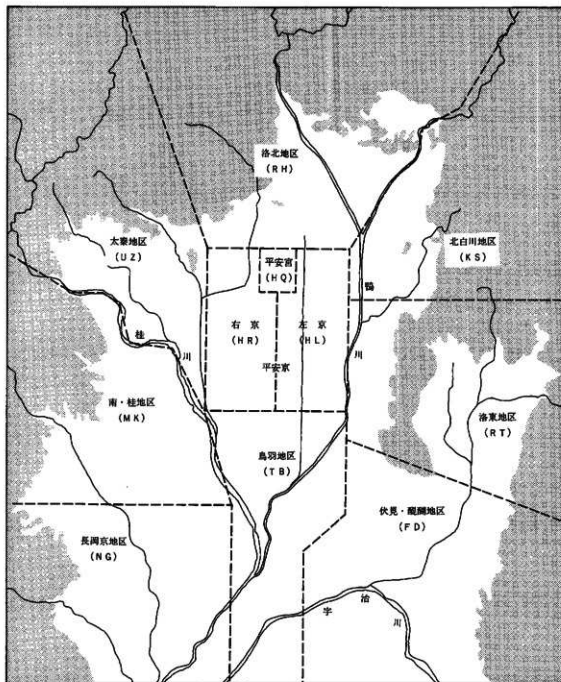
都市計画基本図は、縮尺を調整して以下のものを使用した。

平安宮・京跡 図版1～13 8,000分の1 (船岡山、衣笠山、花園、聚楽廻、御所、山ノ内、壬生、三条大橋、西京極、島原、五条大橋、中河原、梅小路、京都駅)

その他の遺跡 図版14～28 10,000分の1 (村松、岩倉、西賀茂、幡枝、三宅八幡、鷹峯、植物園、北嵯峨、宇多野、衣笠山、船岡山、相国寺、田中、大覚寺、鳴滝、花園、聚楽廻、御所、吉田、太秦、山ノ内、三条大橋、岡崎、松尾、上桂、五条大橋、清水寺、安祥寺、桂、京都駅、今熊野、山科、小山、岡新田、中山、川島、吉祥院、上鳥羽、勧進橋、勧修寺、大原野、石見、寺戸、久世、城南宮、竹田、大亀谷、醍醐、粟生、向日町、久我、下鳥羽、丹波橋、桃山、石田、長岡、羽東師、横大路、中書島、木幡池、日野、神足、納所、円明寺、淀)

各報告の「調査位置図」5,000分の1

- |            |            |              |
|------------|------------|--------------|
| 図1 (御所)    | 図2 (御所)    | 図15 (壬生)     |
| 図18 (五条大橋) | 図23 (島原)   | 図29 (西京極、島原) |
| 図74 (植物園)  | 図81 (花園)   | 図86 (中書島)    |
| 図97 (納所)   | 図101 (北嵯峨) |              |



地区設定概念図



# 本文目次

I	調査概要	1
II	平安京跡	3
1	平安京左京北辺四坊二町、一条三坊十六町、四坊一・九・十・十一・十四町 (98HL348・375、99HL125)	3
2	平安京左京四条二坊九町 (99HL69)	8
3	平安京左京六条三坊八町 (99HL183)	10
4	平安京右京五条一坊六町 (99HR44)	12
5	平安京右京七条二坊二・三・六・七・十・十一町・西市跡・衣田町遺跡 (98HR347)	15
6	平安京大路・小路の路面および側溝 (99HL126・127・58・321・227・214、 99HR198・124・104・63・54、98HR369・363、99HR91)	17
III	その他の遺跡	26
1	植物園北遺跡 (99RH18)	26
2	北野遺跡 (99RH132)	30
3	伏見城跡 (98FD394)	34
4	長岡京跡 (97NG384)	41
5	嵯峨七ツ塚古墳群 (98UZ286)	45

# 表目次

調査一覧表	48
報告書抄録	67

## 図版目次

### 図版 1～28 調査位置図

- 図版 1 平安宮
- 図版 2 平安京左京北辺～三条 一・二坊
- 図版 3 平安京左京北辺～三条 三・四坊
- 図版 4 平安京左京 四～六条 一・二坊
- 図版 5 平安京左京 四～六条 三・四坊
- 図版 6 平安京左京 七～九条 一・二坊
- 図版 7 平安京左京 七～九条 三・四坊
- 図版 8 平安京右京北辺～三条 三・四坊
- 図版 9 平安京右京北辺～三条 一・二坊
- 図版 10 平安京右京 四～六条 三・四坊
- 図版 11 平安京右京 四～六条 一・二坊
- 図版 12 平安京右京 七～九条 三・四坊
- 図版 13 平安京右京 七～九条 一・二坊
- 図版 14 1 北山蓮台寺境内・尊重寺跡 2 相国寺旧境内 3 北野麁寺・北野遺跡 4 聚楽第跡
- 図版 15 1 岩倉中在地遺跡 2 北白川麁寺・上終町遺跡・池田町古墳群  
3 岩倉忠在地遺跡 4 嵯峨七ツ塚古墳群 5 植物園北遺跡・神宮寺跡
- 図版 16 広隆寺旧境内・常盤仲之町遺跡・村ノ内町遺跡・仁和寺院家跡
- 図版 17 1 史跡仁和寺御所跡・円宗寺跡・円乗寺跡 2 上ノ段町遺跡
- 図版 18 田中櫓之跡・白河街区跡・得長寿院跡・尊勝寺跡・延勝寺跡・岡崎遺跡
- 図版 19 1 法成寺跡 2 中街道遺跡・灰方城跡 3 吉祥院竹尻城跡  
4 革鳴館跡 5 松尾十三塚古墳群
- 図版 20 六波羅政庁跡・法住寺殿跡・南日吉町遺跡・鳥辺野
- 図版 21 1 旭山古墳群・鳥辺野 2 中臣遺跡・中臣十三塚 3 法興院跡  
4 法観寺旧境内 5 大塚遺跡 6 安朱遺跡
- 図版 22 鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡・下鳥羽遺跡
- 図版 23 1 法界寺旧境内 2 醍醐麁寺 3 深草寺跡・寺本城跡 4 小栗栖遺跡 5 深草遺跡
- 図版 24・25 伏見城跡・金森出雲遺跡・黄金塚 1号墳
- 図版 26 1 下三栖遺跡 2 久我殿遺跡 3 久我東町遺跡 4 長岡京跡・

淀城跡

図版27 1 長岡京跡・上里北ノ町遺跡 2 長岡京跡・中久世遺跡・大蔵遺跡

図版28 長岡京跡・長黒遺跡

図版29～40 主要な出土遺物

図版29 平安京左京四条二坊九町 (99HL69)

平安京右京五条一坊六町 (99HR44)

植物園北遺跡 (99RH18)

図版30～39 伏見城跡 (98FD394)

図版40 伏見城跡 (98FD394)

嵯峨七ツ塚古墳群 (98UZ286)

# 挿 図 目 次

## 98HL348・375、99HL125

図1	京都御所調査位置図	3
図2	大宮・仙洞御所調査位置図	3
図3	No.1 遺構位置図	4
図4	No.2 遺構位置図	4
図5	No.2 遺構断面図	4
図6	No.3 遺構位置図	5
図7	石組溝断面図	5
図8	No.5 遺構位置図	6
図9	No.6 出土遺物実測図	6
図10	No.2 溝状遺構	6
図11	No.1 石敷	7
図12	No.3 東西溝	7
図13	No.4 東西溝	7
図14	No.5 南北溝	7

## 99HL69

図15	調査位置図	8
図16	出土遺物実測図	8
図17	落込	9

## 99HL183

図18	調査位置図	10
図19	遺構平面図	10
図20	SD 3 出土遺物実測図	10
図21	調査区全景	11
図22	SD 3 頭蓋骨出土状況	11

## 99HR44

図23	調査位置図	12
図24	遺構位置図	12
図25	No.3 遺構断面図	12
図26	No.2 出土遺物実測図	13
図27	木簡実測図	13
図28	No.3 断面	14

## 98HR347

図29	調査位置図	15
図30	No.1 遺構位置図	15
図31	No.1 遺構断面図	15
図32	No.2 遺構位置図	16
図33	No.2 遺構断面図	16
図34	No.2 南北溝	16

## 99HL126・127・58・321・227・214、

## 99HR198・124・104・63・54、

## 98HR369・363、99HR91

図35	右京二条三坊八町内南北溝	17
図36	皇嘉門大路路面	17
図37	No.1・2 遺構位置図	18
図38	No.1 遺構平面・断面図	18
図39	大炊御門大路北側溝	18
図40	No.3 遺構位置図	18
図41	No.3 遺構断面図	19
図42	朱雀大路東側溝	19
図43	No.4 遺構位置図	19
図44	No.4 遺構断面図	19
図45	三条大路路面	19
図46	No.5 遺構位置図	20
図47	No.5 遺構断面図	20
図48	東京極大路路面および溝	20
図49	No.6 遺構位置図	20
図50	No.6 遺構断面図	21
図51	四条大路北側溝および路面	21
図52	No.7・8 遺構位置図	21
図53	No.7・8 遺構断面図	21
図54	無差小路西側溝	21
図55	No.9・10 遺構位置図	22
図56	No.9・10 遺構断面図	22

図57	春日小路北側溝	22
図58	No.11遺構位置図	22
図59	No.11遺構断面図	23
図60	錦小路北側溝	23
図61	No.12・13遺構位置図	23
図62	No.12遺構断面図	23
図63	六条坊門小路北側溝	23
図64	No.14・15遺構位置図	24
図65	皇嘉門大路に伴う溝	24
図66	No.14・15遺構断面図	24
図67	No.16遺構位置図	24
図68	No.17遺構位置図	24
図69	No.16・17遺構断面図	25
図70	左女牛小路北側溝	25
図71	No.18遺構位置図	25
図72	No.18遺構断面図	25
図73	道祖大路路面および道祖川東肩	25

#### 99RH18

図74	調査位置図	26
図75	遺構位置図	26
図76	No.1遺構断面図	27
図77	No.2 竪穴住居平面・断面図	28
図78	出土遺物実測図	29
図79	No.2 竪穴住居	29
図80	No.2 土器出土状況	29

#### 99RH132

図81	調査位置図	30
図82	調査区配置図	30
図83	遺構平面図	31
図84	1区全景	32
図85	2区全景	32

#### 98FD394

図86	調査位置図	34
図87	遺構位置図	34
図88	No.4石垣断面図	35
図89	軒丸・道具瓦拓影・実測図	36
図90	軒丸・道具瓦実測図	37
図91	軒平・道具瓦拓影・実測図	38
図92	軒平・道具瓦実測図	39
図93	道具瓦実測図	39
図94	No.2瓦堆積層	40
図95	No.4石垣断面	40

#### 97NG384

図96	No.4柱状断面図	41
図97	調査位置図	42
図98	No.3出土遺物実測図	43
図99	No.3土器出土状況	44
図100	No.5・6全景	44

#### 98UJ286

図101	調査位置図	45
図102	出土遺物実測図	46
図103	No.4南北溝	47
図104	No.4土器出土状況	47

## I 調査概要

(財)京都市埋蔵文化財研究所では京都市文化市民局の委託を受けて、京都市内の遺跡を対象とした文化庁国庫補助事業による立会調査を実施している。本書では平成11年度概要報告として、1999年1月5日から3月31日までの平成10年度分と、同年4月1日から12月27日までの平成11年度分を合わせて報告する。調査件数は1999年1～3月期の平成10年度残り分が103件、4～12月期が340件であった。京都市内を便宜的に地区分けした調査件数は下表のとおりである。

地区	99年度1～3月	99年度4～12月	小計	地区	99年度1～3月	99年度4～12月	小計
平安宮(HQ)	19	71	90	南・桂地区(MK)	2	6	8
平安京左京(HL)	28	107	135	洛東地区(RT)	9	16	25
平安京右京(HR)	19	64	83	鳥羽地区(TB)	4	13	17
洛北地区(RH)	5	20	25	伏見地区(FD)	6	15	21
太秦地区(UZ)	3	4	7	長岡京地区(NG)	7	11	18
北白川地区(KS)	1	13	14	計	103	340	443

本年度の傾向としては平安京と重なる上京区・下京区などの京都市中心部では前年度までとはほぼ同数の立会調査件数であるが、近隣の山科区・左京区などでは昨年度に比べ約20%立会調査件数の減少がみられた。また、阪神大震災以降耐震性のガス管や上水道の老朽化に伴った布設替え工事も継続され、既設管の再掘削される箇所も多く、特に平安宮域では民家などの小規模開発が大半で、掘削深度も浅く顕著な発見は少なかった。

遺跡別の調査件数は平安京・宮が308件、長岡京が18件あり、その他の遺跡では神宮寺跡、尊重寺跡、北山蓮台寺境内、岩倉中在地遺跡、嵯峨七ツ塚古墳群、上ノ段町遺跡、常盤仲之町遺跡、広隆寺旧境内、法成寺跡、北白川麁寺、池田町古墳群、岡崎遺跡、延勝寺跡隣接地、尊勝寺跡、得長寿院跡、中街道遺跡、松尾十三塚古墳群、革鳴館跡、灰方城跡、上里北ノ町遺跡、法興院跡、法親寺旧境内、鳥辺野、旭山古墳群、南日吉町遺跡、安朱遺跡、吉祥院竹尻城跡、深草遺跡、下三栖遺跡、久我殿遺跡、深草寺跡・寺本城跡、淀城跡、小栗栖遺跡、法界寺旧境内、黄金塚1号墳、金森出雲遺跡各1件、相国寺旧境内、聚楽第跡、岩倉忠在地遺跡、円宗寺跡・円乗寺跡、仁和寺院家跡・村ノ内遺跡、田中構え跡、上終町遺跡、大塚遺跡、下鳥羽遺跡、麗闍廡寺各2件、白河街区跡、中久世遺跡各3件、法住寺殿・六波羅政庁跡5件、北野遺跡・北野麁寺6件、植物園北遺跡9件、鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡10件、中臣遺跡・中臣十三塚11件、伏見城跡14件である。本書では成果の良い調査の中から11件についてその概要報告を行い、その他の調査は一覧表としてまとめた。

古墳時代以前の遺跡では衣田町遺跡(98HR347)、植物園北遺跡(99RH18)、嵯峨七ツ塚古墳群(98UZ286)の調査を報告する。衣田町遺跡では弥生時代後期の竪穴住居と考えられる落込を

検出しており、1980年調査の七条中学校検出の方形周溝墓とあわせ、注目できる成果を得た。植物園北遺跡では古墳時代前期の竪穴住居を検出している。また、嵯峨七ツ塚3・4号墳付近の農道・用水路拡張整備工事では7世紀初頭の土壌を検出した。七ツ塚古墳群は6世紀中頃から後半にかけての古墳群であり、新たな知見を得た。その他、中久世遺跡では弥生時代中期の石包丁を採集している。

平安時代以前の遺跡では醍醐鹿寺・北野鹿寺・長岡京跡などを調査しているが、当該期の遺構の検出はない。

平安時代の遺跡は多くの遺構・遺物を検出したが、右京五条一坊六町(99HR44)、植物園北遺跡(99RH18)、北野遺跡(99RH132)、嵯峨七ツ塚古墳群(98UZ286)を報告する。右京五条一坊六町の調査では「細工所飯肆×」と墨書された木簡が出土し、伴出遺物から平安時代前期に比定できることから、文献資料では平安時代後期以降にあらわれる細工所の研究に貴重な資料となる。嵯峨七ツ塚古墳群の調査では平安時代前期の南北方向の溝を確認している。先立って実施した京都市埋蔵文化財調査センターの試掘調査でも同時期の遺構を確認しており、大覚寺の前身の嵯峨院との関係が考えられ、当該地域での今後の調査に期待される。

中世の調査では左京六条三坊八町(99HL183)、長岡京跡(97NG384)の調査を報告する。左京六条三坊の調査では、室町時代に比定できる樋口小路北側溝および築地内溝を検出している。この調査ではヒトの頭骨、イノシシの下顎骨などが樋口小路北側溝に推定できる溝内から出土しており、平安京の調査でははじめての例となった。

近世の調査では左京四条二坊九町(99HL69)、伏見城跡(98FD394)と、京都御苑内(98HL348・375、99HL125)の調査を報告する。京都御苑内の調査は京都御所、大宮御所・仙洞御所での埋設管布設に伴う立会調査であるが、御所造営の変遷を考えるうえで貴重な考古学的成果を得ている。伏見城跡(98FD394)では石垣の一部と瓦溜を検出した。当地は前田利家邸と平松八右衛門邸の境界付近に推定でき、多量の金箔瓦が出土した。

条坊に係わる成果は多数得ている。前述の樋口小路のほか、左京で5地点、右京8地点の成果を報告する。検出した遺構は大炊御門大路北側溝(99HL126・127)、三条大路路面(99HL321)、四条大路北側溝と路面(99HL214)、春日小路北側溝(99HR124)、錦小路北側溝(99HR63)、六条坊門小路北側溝(99HR54)、左女牛小路北側溝(98HR363)、東京極大路路面(99HL227)、朱雀大路東側溝(99HL58)、皇嘉門大路路面(98HR369)、道祖大路路面(99HR91)、無差小路西側溝(99HR198)である。

なお、本年度の立会調査の内、植物園北遺跡(99RH18)・北野遺跡(99RH132)・大炊御門大路(99HL126・127)については工事中にもかかわらず施主・施工業者の理解により、調査に時間を割いて頂きました。

(菅田 薫)

## II 平安京跡

### 1 平安京左京北辺四坊二町、一条三坊十六町、四坊一・九・十・十一・十四町 (98HL348・375、99HL125)

#### 調査経過 (図1・2)

調査は、上京区京都御苑1・2番地の京都御所・大宮御所・仙洞御所での埋設管工事に伴うものである。当地は平安京左京北辺四坊二町、一条三坊十六町、四坊一・九・十・十一・十四町に位置し、近世以降の御所・女院御所・仙洞御所の敷地内にあたる。

調査は、京都御所の下水道工事が1月26日から3月5日まで、電気配線工事が2月22日から3月10日まで、仙洞御所・大宮御所の上水道工事が7月15日から8月24日まで行われ、御所・女院御所・仙洞御所に関連する遺構を検出した。

#### 遺構 (図3～8・10～14)

##### 御所

##### No.1の遺構

基本層序は、-0.75mと-1.20mで焼土を含む整地層、-1.40mで板状の石が敷かれており、ここまでが近世の御所に伴う層と考えられる。-1.77mで時期不明の土師器を含む褐色砂泥層。-1.95m以下で褐色砂泥の地山となる。

板状の石は長さ0.3m以上、幅0.43m、厚さ0.1mで東西方向に敷かれている。石は南側にも一枚あり、北側にも一枚据えられていたような痕跡があり、幅1.20m程の石敷が東西方向にあ

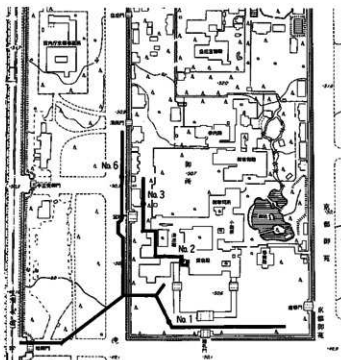


図1 京都御所調査位置図 (1:5,000)



図2 大宮・仙洞御所調査位置図 (1:5,000)



ったと想定できる。この北側で立会調査巡回前に工事業者が多数の切石を掘り上げており、石の間に割石をかませた石垣状のものが、東西2列あったとのことであった。この地点は、寛政期造営(1790年)以前の宝永期造営(1709年)段階までの御所の南側築地推定部分にあたり、検出した

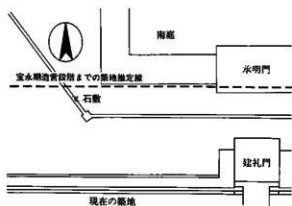


図3 No.1遺構位置図(1:1,000)

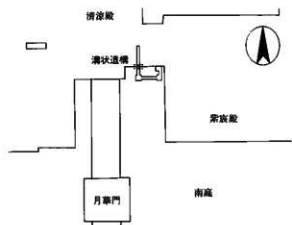


図4 No.2遺構位置図(1:1,000)

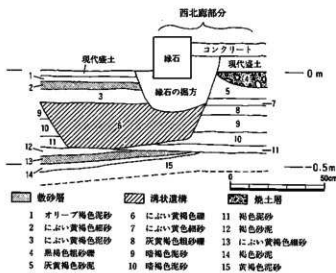


図5 No.2遺構断面図(1:20)

た板状の石と切石類はそれに伴う遺構と考えられる。出土した切石の大きさは、片方の端部の一辺にずれ止めの幅0.1m、厚さ0.03mの突起を施した長さ約0.8~0.9m、幅約0.46~0.5m、厚さ0.46mの面取りした直方体が3個、長さ0.8~0.9m、幅0.41~0.48m、厚さ0.35mの直方体が2個、この直方体の石の1個には端部に墨書で丸に「一」が書かれている。その他長さ1.78mで一方の端部が幅・厚さ共に0.46mでもう一方の端部が幅・厚さ共に約0.25mの長方体が1個、一辺が0.44mで高さ0.47mの四角錐が1個、石敷の部分に使用されていたと考えられる長さ0.83m、幅0.4m、厚さ0.1mの板状が1個、他に0.6~1.2m大の不定形の石が7個である。これらの石が長さ4~5m、幅約1m、深さ1.7mの掘削工事の範囲から出土したのであるから、かなり大きな石組の築地の基礎があった可能性が指摘できる。

#### No.2の遺構

紫宸殿と清涼殿をつなぐ西北廊の緑石の部分、

-0.17mで幅0.95m、深さ0.24mの礎を多量に含んだ溝状遺構を検出した。埋土からは土師器、瓦片が出土している。緑石より内側の回廊部分では、0mで焼土混じりの層を検出しており、嘉永の大火(1854年)の層と考えられる。緑石より南では砂層を-0.08mと-0.43mで、南へ2.15m地点の-1.30mで3層を検出した。これは紫宸殿の南庭の敷砂と考えられ、敷砂を破壊せず盛土して造営を行っていたと仮定すれば、-0.08mの砂層が安政期(1855年)、

-0.43mの砂層が寛政期、-1.30mの砂層が宝永期造営の層と想定できる。

#### No 3 の東西溝

宜秋門の北側にある団体休所東側の通路部分、-0.57mで幅0.4m、深さ0.35mの石組の東西溝を検出した。側石は0.2~0.45m大で一段のみを確認、底石は0.45m大で厚さ0.2mと大きなものである。側部・底部とも石の間が大きく開いている。溝の埋土からは土師器が出土している。ここは、宜秋門から参内できなかった位の低い大名などが溝所門から入り通る地点で、この付近には番所が置かれ塀と木戸が設けられていた。この塀と木戸の位置は造営の度に位置を変え、検出した溝の位置は、寛政期造営の塀と木戸の位置にあたり、この施設に付随する溝と考えられる。

#### 仙洞御所・女院御所

#### No 4 の遺構

No 4 の-0.2mで幅0.5m・深さ0.45mの石と漆喰で作られた東西溝を検出した。側石は花崗岩と砂岩の0.2m大で二段を確認、石と石の間に漆喰で固めている。底部は漆喰のみで0.08mの厚さで固め、板状に敷き詰めている。検出地点から0.8m南の-0.4mで幅1.10m、深さ0.6m以上のグリ石が密集した築地の基壇と考えられる土壌を検出した。この地点は現在の大宮御所と仙洞御所の境界にあたるが、寛政期造営の御指図では建物部分にあたり、安政期造営か、それ以後の境界築地とそれに付随する溝と考えられる。

#### No 5 の南北溝

No 5 の-0.1mで幅0.3m、深さ0.21mの石組の南北溝を検出した。側石は花崗岩の0.2m大で一段のみ、底石は0.1m大で厚さ0.05mの平石を敷き詰めている。花崗岩がほとんど

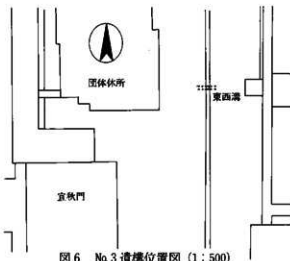


図6 No.3 遺構位置図 (1:500)

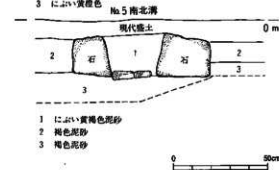
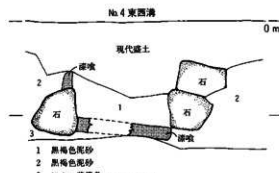
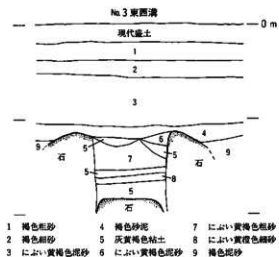


図7 石組溝断面図 (1:20)



図8 Na 5 遺構位置図 (1:1,000)

ており、上層は江戸時代以降の東洞院通の路面であることがわかった。土壌からは大量の土師器と貝殻・炭などが出土した。

#### 遺物 (図9)

すべてNa 6の江戸時代の土壌から出土したものである。(1~6)は土師器皿。(1・2)は口径が6.5cm・7.5cmと小型の皿で底部の中央が盛り上がっている。(3~6)は口径が10.1~10.4cmと大型の皿である。(7)は下半が欠損した土師器の脚付きの皿で、皿部は手づくねのような粗い作り、脚部と皿部との接合部は指オサエが明瞭に残り、胎土も含め全体に粗製な作りである。

#### まとめ

今回の調査では、御所で宝永期造営の南側築地に伴う遺構、紫宸殿と清涼殿をつなぐ西北廊部分で溝状遺構、同地点では寛政期造営と、宝永期造営の可能性をもった紫宸殿の南庭の白い敷砂、また秋叶門付近では寛政期造営の塀と木戸に付随する東西溝を検出した。仙洞御所・女院御所では安政期造営以後の境界築地とそれに付随する東西溝、宝永・寛政期造営の御文庫の雨落ち溝を検出した。

(吉本健吾・電子正彦)

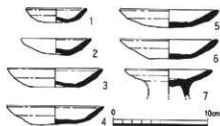


図9 Na 6 出土遺物実測図 (1:4)

どであるが砂岩が1個混じっている。この地点は宝永・寛政期造営の御指図によると仙洞御所建物群の一番東の御文庫の東端にあたり、検出した溝は御文庫の雨落ち溝に想定できる。

#### Na 6の路面

御所の西側の道路、-0.2mのバラス直下から-0.85mまで、路面およびそれに伴う整地層を検出し、11面の路面を確認した。この地点は平安京の東洞院大路にあたるが、-1.0mで幅1.0m、深さ0.1m以上の江戸時代の土壌を検出し



図10 Na 2 溝状遺構 (東から)

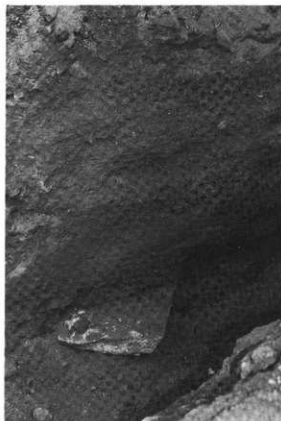


図11 No.1 石敷 (西から)



図12 No.3 東西溝 (南から)



図13 No.4 東西溝 (東から)



図14 No.5 南北溝 (南から)

## 2 平安京左京四条二坊九町 (99HL69)

### 調査経過 (図15)

調査地は中京区六角通油小路西入越後町185番地に所在し、堀川通と六角通の交差点から25m東に入った位置にある。1999年5月26日から6月3日まで調査を行い、平安時代から中世にかけての遺構の遺存状態は良くないが、池状遺構から江戸時代の遺物が良好な状態で出土した。

### 遺構・遺物 (図版29、図16・17)

敷地の北西部の-1.65mで江戸時代の落込の北屑を検出した。落込は規模が幅0.7m以上、

深さ1.45mで、底面は地山の砂礫層に達し南側へ向かって深くなり、池状を呈していた。埋土は上下2層に分かれ、上層は砂泥粘質層、下層は水分を多く含んだ泥土層である。

下層の泥土層からは、土器類と多量の木製品が出土し、土器類としては土師器皿、陶器播鉢、染付碗、白磁碗、焼塩壺、木製品では漆器、曲物、下駄、板状木製品、木片があり、特に漆器の碗・皿・膳が、木地は軟弱な状態であったが、良好に残存していた。

(1・2)は土師器皿で、口径は11.1cm (1)、10.8cm (2)である。(1)は底部内面に布目痕が残る。(3)は白磁碗で、丸い体部に強く外反する口縁がつく。釉はやや青みを帯び、全面に細かい貫入が走る。高台内面だけが露胎である。(4～6)は染付碗で、口径が10.2cm (4)、10.4cm (5)、11.2cm (6)である。(7)は丹波系の播鉢で、6本一単位の播り目を施す。胎土

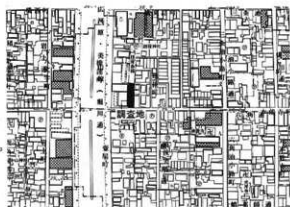


図15 調査位置図 (1:5,000)

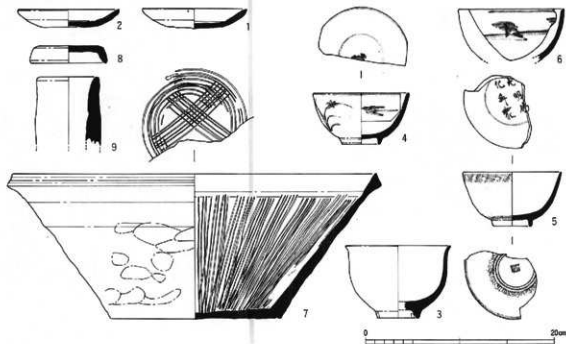


図16 出土遺物実測図 (1:4)

は橙色を呈する。底部外面の端部に3箇所の目跡が残り、位置から計4箇所と思われる。(8・9)は焼塩壺で、蓋(8)は内面の布目痕をナデ消し、身(9)は体部外面にヨコナデを施し内面に布目痕が残る。蓋のほぼ全面と身の内面から口縁端部にかけて、赤褐色から赤橙色を呈する。胎土は灰白色で砂粒が多い。

(10~13)は漆器類で、(10)の椀は、変形しており口径・器高は不明であるが、高台径は5.5cmである。内面は赤漆地で、外面は極暗褐色の漆地に赤漆で文様を描く。(11・12)の皿は(11)が口径は11.0cm、器高は3.1cmあり、内面が赤漆で外面は黒漆の地に赤色とオリーブ黒色の漆と金泥で文様を描く。(12)は内外面とも赤漆地で体部外面に黒漆で松の文様を描く。(13)は脚付きの膳で隅部分の一部である。膳部分の縁と脚の端部が欠けている。脚は四隅だけに付く。膳の上面が赤漆で、それ以外は黒褐色の漆地である。

#### まとめ

出土遺物から考えて、池の下層の時期は江戸時代前期後半ごろと比定される。この時期に当地に屋敷を構えていたのは、江戸時代前期の絵図を参考にすると、前期前半代は永井信濃守と瑞蓮寺、前期後半代は福知山藩三万二千石の朽木伊予守の名前が記載されている。時期と場所を考慮すると、調査地は瑞蓮寺と朽木伊予守が想定される。出土した漆器類は寺あるいは大名の食事の膳と椀・皿のセットと考えられ、当時の華やかな生活の一端が垣間見られる。(竜子正彦)



図17 落込(南から)

### 3 平安京左京六条三坊八町 (99HL183)

#### 調査経過 (図18)

京都市立修徳小学校跡地の南部に京都市消防局によって耐震防火水槽が新設されることになった。同校跡地は左京六条三坊八町の南西部に該当するが、この調査区の北側では京都市保険福祉局による施設建設に伴う発掘調査が進行中で、古墳時代から江戸時代にかけての遺構・遺物が多数検出され、当地における遺跡の遺存度の高さが確認されていた。当然隣接した今回の防火水槽設置予定地でも同様の状況が予想され、

水槽分の直径約9.0mの狭い範囲ではある

が、十全な調査の必要性が認識された。しかし、

水槽設置予定地が進行中の調査の現場事務所の出入りに近接した位置にあたるため調査作業の支障になること、さらに

工期の関係でこの北側の調査終了直後に開始予定の建設工事により同校跡地北東部にある既設の防火水槽の撤去が決まっております、

設備の性格上、それまでには新設の水槽が完成している必要があることなどの条件があり、

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

調査期間をできる限り短期に設定せざるを得なかった。ただ水槽設置予定地が敷地南端に位置し、八町南限推定位置に該当するため、側溝や築地の検出が期待された。そこで北側で調査している八町内の遺構との関連も考慮してここでは条坊関連遺構の確認を主眼におき調査を実施することにした。

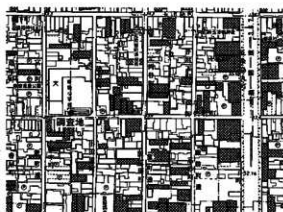


図18 調査位置図 (1:5,000)

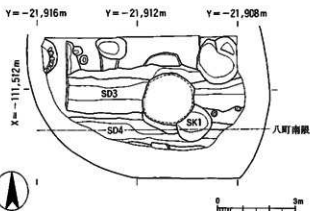


図19 遺構平面図 (1:150)

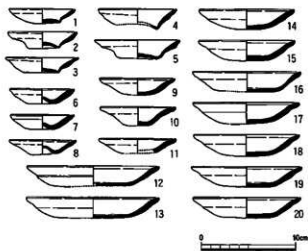


図20 SD3出土遺物実測図 (1:4)

#### 遺構・遺物 (図19~22)

調査対象地にはかつて小学校の水泳プールがあり、その基礎撤去により予想以上の深さまで破壊が及んでいた。しかし、コンクリート片などの混じった整地土を除去し

た地表下約2.0mで樋口小路北側溝および内溝と思われる東西方向の溝2条（SD3、SD4）のほか近世後半の井戸や土壌などを数基検出した。室町時代前半以前の遺構については調査区北側で鎌倉時代の遺物包含層を認めたほか明瞭なものは検出できなかった。また大半の遺構が上部を著しく削平されており、詳細は不明である。2条の溝はいずれも16世紀前半に位置づけられるが、出土土器類の比較からSD3の廃絶がやや早いと思われる。遺物はSD3の土師器のほかSD4やSK1からも同様の土器類が出土している。SD3からは、土器類のほかほぼ完全なヒトの頭蓋骨、イノシシの下顎骨、イヌの歯や肢骨などが出土した。

#### ま と め

検出した溝2条は位置的に見て樋口小路の北側溝および内溝と思われるが、いずれも室町時代後期に属するものでそれ以前の時代の条坊関連遺構については不明である。隣接する北東部の調査では平安時代の町尻小路の側溝や路面が数時期にわたり確認されているが、この調査区ではそうした状況は認められなかった。

（平尾政幸）



図21 調査区全景（西から）

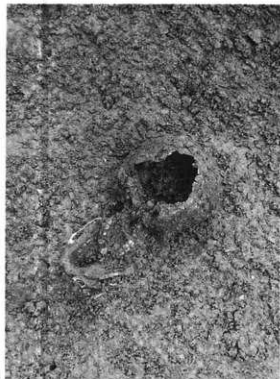


図22 SD3頭蓋骨出土状況



#### 4 平安京右京五条一坊六町 (99HR44)

##### 調査経過 (図23)

調査は、中京区壬生松原町53-4番地でのマンション建築工事に伴うものである。当地は平安京右京五条一坊六町の東側中央部に位置し、調査地北側の1986年の立会調査では平安時代前期の遺物を含む北東から南西方向に西傾をもつ池沼状堆積を検出している。この遺構の続きが今回の調査で検出されると考えられた。

調査は、5月10日から20日のうち5日間行われ、前述の遺構に関連する平安時代前期の遺物を含む池状堆積を検出した。



図23 調査位置図 (1:5,000)

##### 遺構 (図24・25・28)

調査地の基本層序は、No.1では、-0.4mで耕作土、-0.6mで灰色砂礫層、-0.9m以下で黄褐色砂礫の地山となる。No.2では、-0.47mで耕作土、-0.72mと-1.02mで中・近世の包含層と考えられる層、-1.15mで池状堆積、-1.57m以下は暗褐色砂礫の流れ堆積となり、掘削深-1.84mまで地山は確認できなかった。

検出した池状堆積は、調査地の中央から西側では全域に広がっている。No.3で検出した東層は、北東方向へ続いていることが確認できた。埋土は2～3層に分かれるが、出土した遺物は

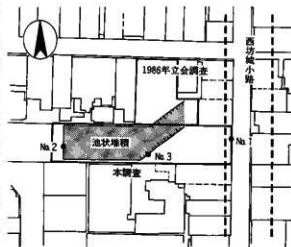


図24 遺構位置図 (1:1,000)

- 1 灰褐色砂土 (耕作土)
  - 2 明褐色砂礫
  - 3 灰質褐色泥土
  - 4 灰褐色泥砂
  - 5 灰褐色泥土
  - 6 暗緑灰色泥土
  - 7 灰褐色砂礫
  - 8 暗緑灰色泥土
  - 9 黄褐色砂礫
  - 10 褐色粗砂
- 池状堆積  
 地山

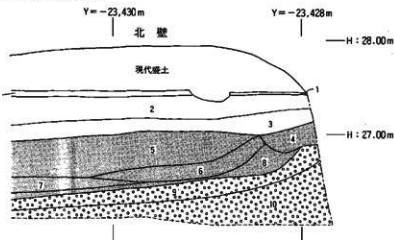


図25 No.3 遺構断面図 (1:40)

上層も下層も時期差のない平安時代前期の土師器皿、須恵器杯・甕、黒色土器碗、瓦、木製品(木筒等)が出土している。

#### 遺物 (図版29、図26・27)

(1～7)の遺物はNa2の池状堆積層から出土している。(1～5)は土師器である。(1)は皿で口径が14.4cm、外面がヘラケズリ、内面にヨコナデを施している。(2)は蓋で口径が18.0cm、外面にはヨコケズリの後に往復するヘラミガキを施す。(3～5)は杯で、(3)は口径が12.6cmと小型で、口縁端部が外反し、同内面に沈線がめぐり、内外面に強くヨコナデを施している。(4)は口径が15.4cmで、外面にヘラケズリを施し、全面に煤が付着している。(5)は口径が13.8cmで、外面の底部から体部にかけて指オサエが残っている。(6)は須恵器の壺の底部で、体部外面に煤が付着している。

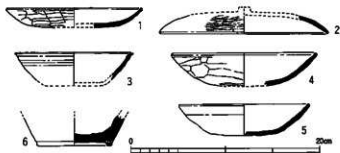


図26 Na2出土遺物実測図(1:4)

(7)は木筒で、残存長が8.1cm、幅2.2cm、厚さ0.2cmあり、上端は尖り下部は焼損している。両面に墨書がある。釈文は以下のとおりである。



図27 木筒実測図(1:2)

・「細工所飯肆」×

・「大原」

表は長岡京跡出土の木筒の例からみて「肆」の後に「升」が続くものと思われるが、裏は上端から約3cmで「大原」が始まり、その下は黒変し、また定型がなく文字が続くかどうかは不明である。共伴する土器は9世紀前半のものである。

#### まとめ

今回の調査では、平安時代前期の遺物を含む池状堆積が調査地の西側で全域に広がり、中央部南側から北東方向に東肩が続いていくことが確認できた。調査地北側の立会調査で検出した平安時代前期の遺物を含む北東から南西方向の西肩をもつ池沼状堆積と同じものと考えられ、池状堆積が調査地中央部から幅約6mの流路状の形状で北東方向に続いていくことが確認できた。この部分が池のどの部分にあたるかは不明であるが、池に流れ込む遣り水の部分、池の肩が入り組んでできた入江の部分、島と肩の間の部分などが想定できる。

池状堆積で出土した木筒「細工所飯肆」×は、長岡京左京二条二坊六町の溝SD1301で出土した木筒「考所飯肆升」などと同じ形式の讀飯文書と考えられる。細工所という名称は、平安時代前期の文獻からは現れてこないが、「類聚三代格」、「延喜式」などに内匠寮の中に工人の一種と

して細工の名が現れており、細工所は細工人たちの工作所と考えることができる。調査地の右京五条一坊六町の地が細工所であるとは断定できないが、この地が内匠寮の施設および内匠寮に関係する人物の邸宅跡と想定することができる。(吉本健吾・竜子正彦)

註1 久世康博「主要な出土遺物」『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和61年度 京都市文化観光局 1987年

註2 『向日市埋蔵文化財調査報告書第十五集 長岡京木簡一 図録(解説付)』向日市教育委員会 1984年

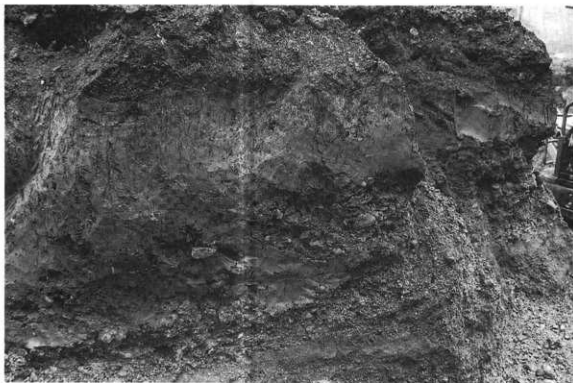


図28 No.3断面(南から)

## 5 平安京右京七条二坊二・三・六・七・十・十一町・西市跡・衣田町遺跡 (98HR347)

### 調査経過 (図29)

調査は、西大路通と御前通間の七条通の北二本目と三本目の道路の水道管埋設工事に伴うものである。当地は平安京右京七条二坊の中央部に位置し、三・六町は西市にあたり、二・七・十一町は西市の外町に位置し、また工区の西側を除く大半が衣田町遺跡にあたる。

調査は、1999年1月26日から開始し、本管掘削工事の終了する3月2日まで実施した。調査の結果、弥生時代の竪穴住居と考えられる落込と西大宮大路西側溝を検出した。

### 遺構・遺物 (図30～34)

調査地の基本層序は、-0.24mで耕作土、-0.38mで褐色砂泥の地山となる。No.1の弥生時代の竪穴住居と考えられる落込やNo.2の西大宮大路西側溝は、いずれもこの地山を掘り込み成立している。

落込は、No.1の-0.14mで西屑を検出し、東に約1m確認したが、東屑は確認できなかった。埋土からは弥生時代の壺が出土した。

西大宮大路西側溝は、No.2で西屑を検出し、東へ2.3mの地点で東屑を検出した。深さは、この地点の工事掘削深が0.54mと浅く、底部までは確認できなかった。埋土からは平安時代の土師器高杯、須恵器壺が出土した。この西側溝の東屑からさらに東へ0.25mの地点で落込の西屑を確認した。堆積は砂礫層の流路状となり、西大宮川に関連する遺構の可能性も考えられる。

### まとめ

今回の調査区は、地山の検出面が-0.38mと浅く、ある時期に削平された様相がうかがわれる。また粘土層の地山も、いたる所で流路状の砂礫層で寸断されていたが、弥生時代の竪穴住居と考えられる落込と西大宮大路西側溝が検出できた。

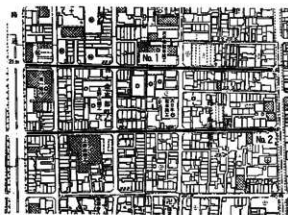


図29 調査位置図 (1:5,000)

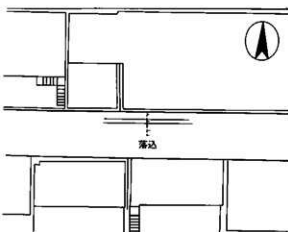


図30 No.1 遺構位置図 (1:500)

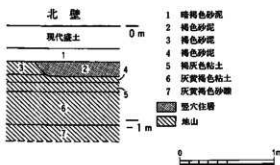


図31 No.1 遺構断面図 (1:40)



図32 No.2 遺構位置図 (1:500)

衣田町遺跡に関する調査では、1980年の七条中学校の発掘調査で方形周溝墓を2基検出しているが、竪穴住居の検出例はなく、今回のNo.1の落込が竪穴住居であるならば初例となろう。また西大宮大路西側溝は、検出幅が2.3mと大路側溝計画幅の1.2mよりかなり大きくなっており、溝の中心線は西大宮大路西側築地心の推定線より東へ約2.6mに位置している。

(吉本健吾)



図33 No.2 遺構断面図 (1:40)

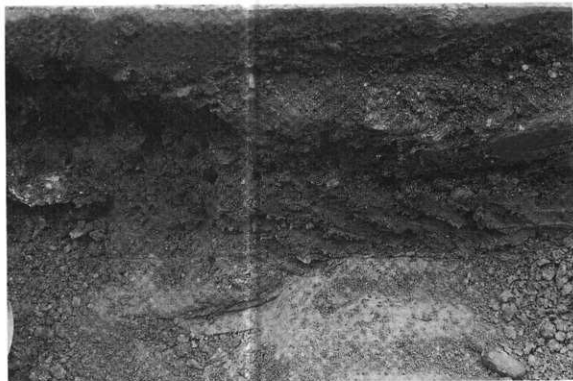


図34 No.2 南北溝 (北から)

## 6 平安京大路・小路の路面および側溝

### 調査経過

1999年の平安京における大路・小路の推定地における路面および側溝の検出は26箇所を数えた。しかし、その内の半数以上は、近世以降の遺物が出土するか、遺物を含まない遺構である。平安時代から鎌倉時代前期の遺物を含む遺構は12箇所であり、溝が11箇所、路面が1箇所であった。

検出した溝は、側溝推定線上に検出されたのは4箇所(大炊御門大路北側溝・朱雀大路東側溝・四条大路北側溝・西大宮大路西側溝)のみで、その他は築地推定線上で検出したものが3箇所(無差小路西側溝・春日小路北側溝・左女牛小路北側溝)、道路上で検出したものが4箇所(東京極大路・錦小路北側溝・皇嘉門大路・道祖川)であり、推定線と違う様々な地点で検出している。しかし、埋土には平安時代の遺物が含まれており、平安時代当時に推定とは違う溝が存在していたことをうかがわせており、今後の課題となるものばかりである。この章では5章で記述した西大宮大路西側溝を除く10箇所と時期不明の六条坊門小路北側溝を記述した。

路面は5箇所記述しているが、平安時代の遺物が出土しているのは三条大路の路面のみである。他は側溝に伴って検出した3箇所(東京極大路・四条大路・道祖大路)と同じ調査区内で検出した1箇所(皇嘉門大路)であるが、いずれも遺物は出土せず時期は不明である。

這構断面図の遺構・地山は以下の通りである。

溝・河川 路面 築地 柱穴 地山



図35 右京二条三坊八町内南北溝(南から)

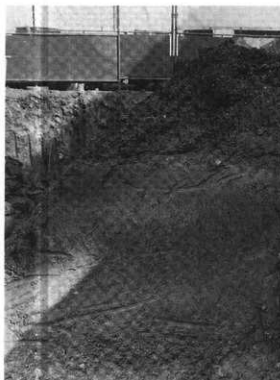
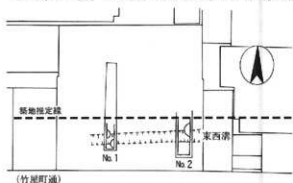


図36 皇嘉門大路路面(南から)

大炊御門大路北側溝 (左京二条四坊七町 99HL126・127 図37~39)

No 1 の-1.3mで幅1.65m、深さ0.93mの東西溝を検出した。さらにNo 2でも-1.15mで幅1.5m、深さ0.36mの規模で延長部を検出。大炊御門大路北側築地推定線から溝の心までNo 1で約2.8m、No 2で約2.5mであり、北側溝と考えられる。埋土からは平安時代後期から末期の土師器皿、白土器高杯・椀、瓦器椀、緑釉陶器、白磁、青磁椀、滑石製鍋、瓦が出土している。No 1の側溝の



大炊御門大路

図37 No 1・2 遺構位置図 (1:500)

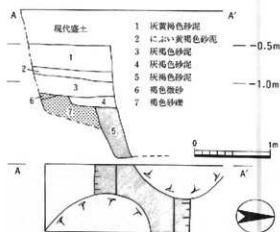


図38 No 1 遺構平面・断面図 (1:50)

北側では約3mの幅で高まりが見られ、さらに約2mに渡って深さ0.2m程のくぼみが確認された。この高まりが築地、くぼみが内溝と想定することもできるが、断定はできなかった。また南側でも-1.1mで褐色微砂層を検出するが、路面と特定することはできなかった。



図39 大炊御門大路北側溝 (東から)

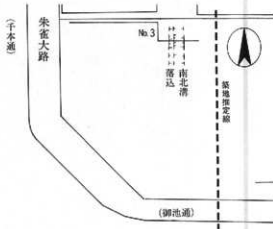


図40 No 3 遺構位置図 (1:500)

朱雀大路東側溝 (左京三条一坊二町 99HL58 図40~42)

No 3 の-0.41mでにぶい黄褐色砂礫の地山を切って、幅0.8m以上、深さ0.59mの落込の西肩を検出した。その落込を切って、-0.9mで幅1.23m、深さ0.26mの土塙を検出した。上層は攪乱を受けている。土塙の埋土からは平安時代の土師器、須恵器、瓦が、また落込からは平安時代の瓦が出土している。朱雀大路東側築地の推定線から土塙の心まで約4.7mあり、落込・

土壌は2期の東側溝と考えられる。しかし、出土した遺物の量が少なく、また落込の方は瓦のみの出土であるため、2つの遺構の時期差の特定はできなかった。

また、No.3の西側では路面に関する遺構は検出できなかった。

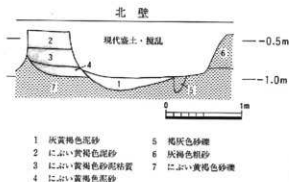


図41 No.3 遺構断面図 (1:50)



図42 朱雀大路東側溝 (南から)

### 三条大路路面 (左京三条二坊五町 99HL321 図43~45)

No.4の-0.57mと-0.69mで路面を2層検出した。上層は砂泥に礫を多量に含む層であるが、下層は10cm大の石と須恵器甕の破片や瓦を敷き詰めて路面を形成している。下層はにぶい褐色砂泥の地山である。この地点は三条大路に当たり、下層の路面は、敷き詰められていた遺物が平安時代のものであるので、平安時代以降の路面であると考えられる。

No.4の北側では近世の擾乱を受け、三条大路北側溝および築地は検出できなかった。なお、300m西の99HL24の調査では側溝推定線に近世の東西溝を検出している。

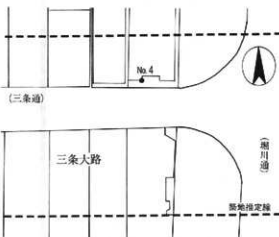


図43 No.4 遺構位置図 (1:500)

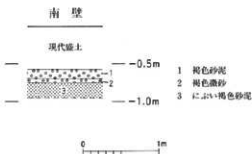


図44 No.4 遺構断面図 (1:50)



図45 三条大路路面 (北から)



東京極大路路面および溝 (左京三条四坊十三町 99HL227 図46~48)

No 5 の-1.6~-1.85mで路面を4層検出した。また、その下層-1.9mで幅0.5m以上、深さ0.65mの南北溝を検出した。埋土からは平安時代後期から末期の土師器皿・高杯が出土している。この南北溝は東京極大路の中央に位置し、この溝を側溝と仮定すれば、平安時代後期から末期には大路の幅は半分であったことになる。1996年の右京一条四坊の発掘調査で、西京極大路が法金剛院に占有される形で推定の半分の幅で検出されている。No.5に関しても、大路の東側には平安時代に京極寺があったと推定されており、寺による占有でこの地点に東京極大路の東側溝が形成された可能性は否定できない。



図46 No.5 遺構位置図 (1:500)

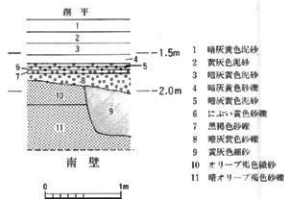


図47 No.5 遺構断面図 (1:50)



図48 東京極大路路面および溝 (北から)

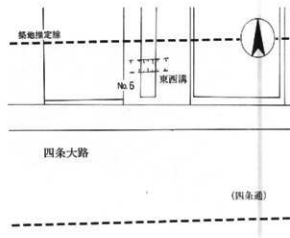


図49 No.6 遺構位置図 (1:500)

四条大路北側溝および路面 (左京四条三坊十三町 99HL214 図49~51)

No.6 の-1.17mで幅1.63m、深さ1.16mの東西溝を約2mに渡って検出した。埋土からは平安時代末期の土師器皿が出土している。この溝の南側では、-1.17mで暗褐色砂泥とオリーブ褐色微砂の路面を2面検出した。北側では、-1.1mで黄褐色砂泥と暗灰黄色砂泥の整地層を検出している。これらは四条大路北側溝・路面・築地の整地層と考えられる。

南北溝の北側の部分に-0.9mで幅1.07m、深さ0.7mの室町時代の土師器を含む土壌を検出しているが、これも東西溝の可能性があり、溝であれば室町時代の四条通の北側溝と考えられる。

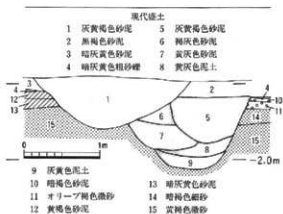


図50 No.6 遺構断面図 (1:50)



図51 四条大路北側溝および路面 (西から)

**無差小路西側溝 (右京一条四坊十二町 99HR198 図52~54)**

No.7の-0.85mでふい黄橙色砂礫の地山を切って、幅1.5m、深さ0.3mの南北溝を検出した。埋土から平安時代後期の土師器皿を検出している。この地点は無差小路西側築地の推定線に位置するが、西側溝と思われる。

No.8の-0.62mで褐灰色微砂の地山を切って、幅0.35m、深さ0.22mの柱穴を検出した。この地点は無差小路東築地の中心に位置し、築地の柱穴と考えられるが、埋土からの遺物を確認することができず時期は不明であり、断定はできない。

一条四坊十二町の邸宅地内では、-0.89m以下で平安時代中期の遺物(土師器皿)を含んだ池状堆積(深さ0.6m以上)を検出している。



図52 No.7・8 遺構位置図 (1:500)

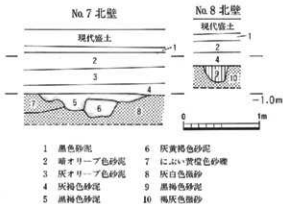


図53 No.7・8 遺構断面図 (1:50)



図54 無差小路西側溝 (南から)

春日小路北側溝 (右京二条三坊七・八町 99HR124・104 図35・55~57)

Na 9 の-0.44mで灰黄色粘土の地山を切って、幅2.45m以上、深さ0.3mの東西溝を検出した。埋土からは平安時代中期の土師器高杯、須恵器甕、褐釉陶器が出土している。この地点は、春日

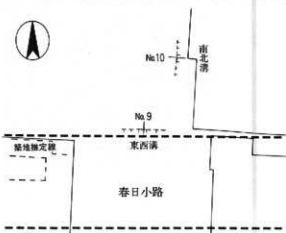


図55 Na 9・10遺構位置図 (1:500)

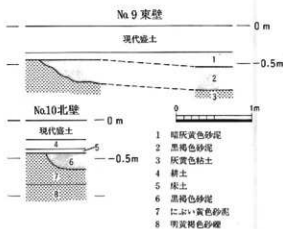


図56 Na 9・10遺構断面図 (1:50)

小路北側の築地線上に位置し、また幅約2.5m以上とかなり大規模であることから、北側溝が氾濫等で両肩が崩れ広くなり、築地位置まで侵食したものと考える。

二条三坊八町の邸宅地内では、Na10の-0.43mでにおい黄色砂泥の地山を切って幅0.5m以上、深さ0.2mの南北溝の西肩を検出している。埋土から平安時代中期の土師器杯・高杯が出土している。他にも時期不明の南北溝1条、柱穴3基、井戸1基を検出している。



図57 春日小路北側溝 (西から)

錦小路北側溝 (右京四条二坊六町 99HR63 図58~60)

Na11の-0.31~0.56mで平安時代前期の遺物を含む暗褐色砂泥層を西方向に約11mに渡って検

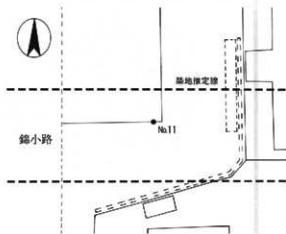


図58 Na11遺構位置図 (1:500)

出した。下層は灰黄褐色微砂の地山である。この地点は錦小路北側築地線から約4m南に位置し、包含層は北側溝と考えられる。溝の埋土は2層に分層でき、遺物は下層から多量に出土した。出土遺物は土師器皿・杯・高杯・甕、須恵器壺・鉢、緑釉陶器皿・椀、瓦で平安時代前期である。

四条二坊六町の邸宅地内では、-0.15~0.6mで中世の遺物(土師器皿、陶器甕)を含んだ池状堆積を検出している。

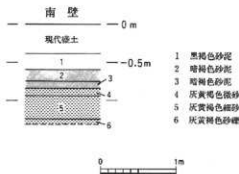


図59 Na11遺構断面図 (1:50)



図60 錦小路北側溝 (北から)

六条坊門小路北側溝 (右京六条一坊十町 99HR54 図61~63)

No12の-0.69mで幅1.55m、深さ0.43mの東西溝を検出した。六条坊門小路の北築地の推定線から溝の心までが3.8mに位置し、北側溝と考えられる。しかし、溝の埋土からは遺物が出土せず、時期の特定はできなかった。この溝は同じ調査区の西端、No12より西へ16.8mの地点 (No13) でも溝幅1.7mで検出しており、延長部が確認できた。六条坊門小路の北側溝の推定線に17mに渡って明確に検出できたので、時期不明の溝であるが報告することにした。

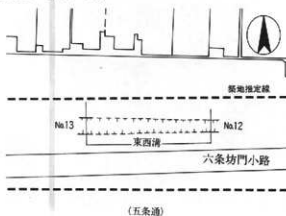


図61 Na12・13遺構位置図 (1:500)

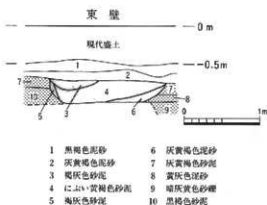


図62 Na12遺構断面図 (1:50)



図63 六条坊門小路北側溝 (西から)

皇嘉門大路に伴う溝および路面 (右京七条一坊六町 98HR369 図36・64~66)

No14の-0.6mで幅0.84m以上、深さ0.37mの東西溝を2mに渡って検出した。埋土から平安時代前期の土師器皿・杯、須恵器壺・甕が出土した。この地点は皇嘉門大路の東築地推定線より西



図64 Na.14・15遺構位置図 (1:500)



図65 皇嘉門大路に伴う溝(東から)

へ1.5~3.5mに位置し、築地に平行する南北方向ではなく、東西方向であることから、築地内の邸宅から大路側溝への排水の溝が想定できる。

Na.15の-0.56mで路面を検出している。この地点は皇嘉門大路の道路内であるが、路面から遺物が出土せず、時期は特定できなかった。

また皇嘉門大路東側溝推定線の上に平安時代以前の幅4.8m以上の南北流路を検出している。

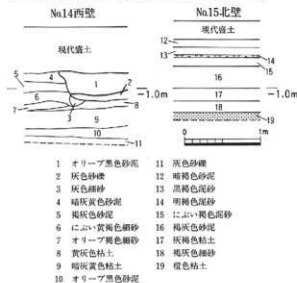


図66 Na.14・15遺構断面図 (1:50)

#### 左女牛小路北側溝(右京七条二坊八・十町 98HR363 図67~70)

Na.16の-0.8mで平安時代の遺物包含層を東西方向約8mに渡って検出した。この地点は左女牛小路北側築地から約1m南に位置し、包含層は北側溝と考えられる。溝の埋土は3層に分層でき、遺物は中層から出土した。出土遺物は土師器皿、灰軸陶器である。

Na.17の-0.62~0.83mで平安時代の遺物包含層を検出した。下層はにぶい褐色砂礫の地山であ

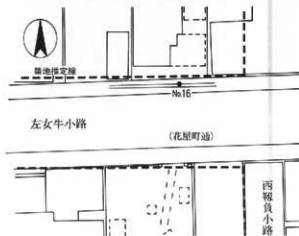


図67 Na.16遺構位置図 (1:500)

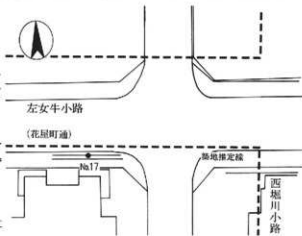


図68 Na.17遺構位置図 (1:500)

る。この地点は左女牛小路南側築地から約1m南に位置するが、包含層は南側溝か内溝と考えられる。溝の埋土は粘質で土師器皿、須恵器蓋が出土した。

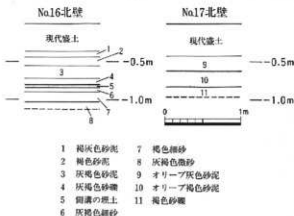


図69 No.16・17遺構断面図 (1:50)

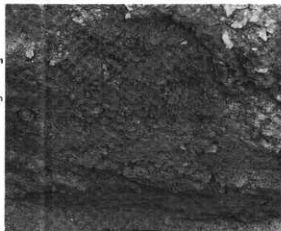


図70 左女牛小路北側溝(南から)

道祖大路路面および道祖川 (右京七条二坊十三町 99HR91 図71~73)

No.18の-1.05mで路面を切って幅0.6m以上、深さ0.25mの落込の東肩を検出した。落込の埋土からは平安時代から鎌倉時代の土師器皿、瓦器鍋、平瓦が出土している。この肩は道祖大路東築地から西へ9mの地点に位置し、落込は道祖大路の中央を流れていた道祖川の東肩と考えられる。路面の層は0.05mの厚さで緩やかに東へ傾斜している。路面から遺物は出土していない。下層は暗オリーブ色微砂の地山である。

(吉本健吾・電子正彦)



図71 No.18遺構位置図 (1:500)

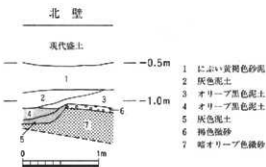


図72 No.18遺構断面図 (1:50)



図73 道祖大路路面および道祖川東肩(南西から)

### III その他の遺跡

#### 1 植物園北遺跡 (99RH18)

##### 調査経過 (図74・75)

本調査は、北区上賀茂岩ヶ垣内町100番地で行われたマンション建築工事に伴う立会調査である。

1999年4月14日、基礎工事の際の掘削断面の観察により、竪穴住居と思われる落込が良好に遺存していることが明らかになった。このため、京都市埋蔵文化財調査センターおよび施工業者との話し合いにより、工事を一部中断して遺構が残存している範囲について調査を実施することとなった。

竪穴住居は2箇所を確認し、1棟は敷地北西角の西側境界断面 (No1) で検出し、実測調査に留めた。もう1棟は敷地北西部の独立基礎の中間部 (No2) で検出した。調査は4月15日に工事業者側の重機によっていわゆる地山面までの土層を排除・搬出し遺構の調査を行った。

調査地は、弥生時代から古墳時代を中心とした植物園北遺跡の中央部のやや東寄りに位置する。近辺の主要な調査では、北側の1990年度調査で古墳時代前期の竪穴住居9棟と平安時代後期の掘立柱建物などを検出している。

##### 遺構 (図75～77・79・80)

層位は現代盛土層、耕作土層、遺物包含層、地山となる。現代盛土層は0.06～0.1m、耕作土層は0.25mの厚さを持ち、遺物包含層は褐色砂泥で平安時代の土師器皿、須恵器壺を含み、約0.15mの厚さで北側へ行くと耕作土層に削平されている。地山は上層は褐色砂泥で0.36mの厚さを持ち、下層にはよい黄褐色砂礫である。平安時代の遺物包含層までを重機により除去した。



図74 調査位置図 (1:5,000)

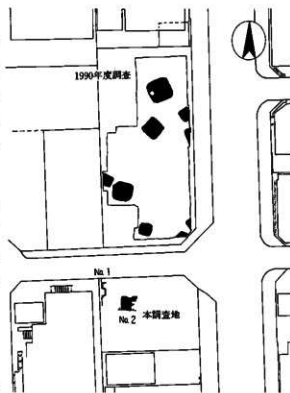


図75 遺構位置図 (1:1,000)

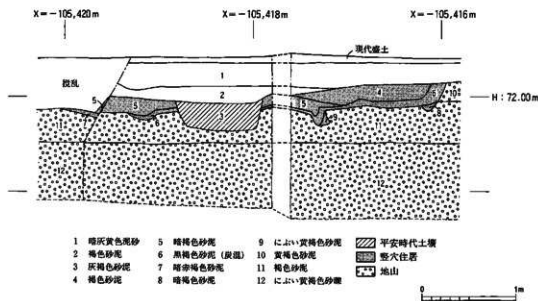


図76 No.1遺構断面図 (1:40)

#### No.1の竪穴住居

敷地の北西角の西側境界の断面で確認したもので、標高72.13mで幅4.1m以上を検出した。南側を現代擾乱土壌、中央部を平安時代の土壌で削平されており、住居の形状は不明である。検出面から床面まで約0.25mあり、床には入れ土を施した形跡は認められず、地山を平坦に掘り込み、そのまま床として利用している。住居北壁から1.45m南の地点にある掘込(幅0.18m・深さ0.15m)は、柱穴になる可能性をもつ。また同じく住居北壁から3.08m南の地点にある掘込(幅0.31m・深さ0.07m)には焼土がみられ、上層に炭が含まれるところから炉と考えられる。周壁溝は北側でのみ検出し、幅0.17m、深さ0.07mである。埋土からは古墳時代前期の土師器甕が出土している。

#### No.2の竪穴住居

敷地北西部の独立基礎の中間部で検出した竪穴住居は、すでに四周を基礎工事で標高70.9mまで削平を受けており、住居の南壁以外はすでに失われていた。

住居の形状は南壁が直線であることから方形と考えられる。規模は南北3.9m以上、東西4.3m以上である。検出面から床面まで約0.2mあり、No.1の竪穴住居と同じく床には入れ土を施した形跡は認められず、地山を平坦に掘り込み、そのまま床として利用している。柱穴・炉跡などは検出できなかったが、南壁の付近で貯蔵穴と考えられる掘込を検出した。東側はすでに壊されており、部分的な検出である。掘込の0.15m西側には周壁溝から北へ1.1m伸びる幅0.15m、深さ0.05mの南北溝がある。周壁溝は南側でのみ検出し、幅0.1~0.16m、深さは床面から0.05~0.07mである。埋土からは古墳時代前期の土師器甕・壺・高杯などが出土している。

#### 平安時代の遺構

平安時代の遺構はNo.2の竪穴住居を切って溝が1条、No.1の竪穴住居を切って土壌を1基検出している。溝は幅1.0m、深さ0.15~0.4mで、西から東へ深くなっている。底部には0.1~0.15



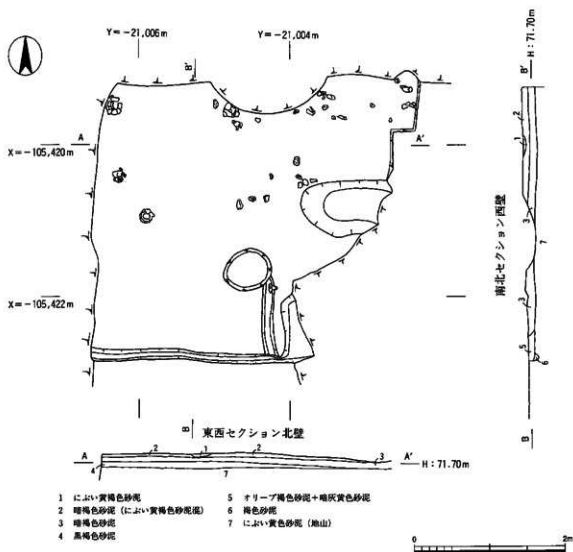


図77 No.2 竪穴住居平面・断面図 (1:50)

m大の石が多量に含まれ、遺物は平安時代の土師器甕・高杯、須恵器甕などが出土している。土壌は幅0.93m、深さ0.32mで逆台形を呈する。これも東西溝の可能性もある。埋土からは平安時代中期の土師器皿、須恵器、緑釉陶器椀、瓦などが出土している。

#### 遺物 (図版29、図78)

遺物は整理箱に3箱出土した。古墳時代の土器には内容としては土師器甕・壺・高杯・器台・小型丸底土器がある。(1~7)はすべてNo.2の竪穴住居から出土したものである。(1)は甕で、外面はハケメ、内面は頸部の直下から指オサエ。(2~4)は甕で、(2)は体部外面をハケメ、内面の頸部の直下まで横方向のケズリを施す。(3)は内面を全面横方向にハケメを施し、外面はヨコナデで口縁部の一部に横方向のハケメが残る。(4)は内面の頸部から下を横方向にケズリ、それ以外の部分はヨコナデを施している。(5)は小型丸底土器で鉢形をしている。外面はナデを施してあるが、内面は磨減していて不明。底部外面が黒変している。(6)は器台で脚部の端部が欠損している。受部は外面を横方向にミガキ、内面はナデ調整。脚部は外面を斜めにミガキ、内面は中ほどを横方向にハケメを施している。脚部の中央部に3箇所、外側から丸く穿孔している。(7)は高杯の脚部で外面は縦方向にミガキ、内面は中央部の一部を横方向にケズリ

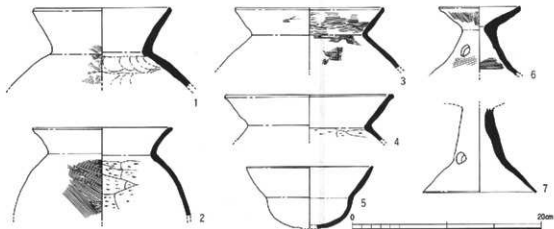


図78 出土遺物実測図(1:4)

を施し、中央部に3箇所外側から丸く穿孔している。胎土は(3・5)が橙色で精良、その他は灰白色で砂粒が多い。

#### まとめ

今回の調査では、古墳時代前期の竪穴住居2棟と平安時代の溝1条、土壇1基を検出した。竪穴住居は北側の1990年度調査で検出した古墳時代前期の集落の一部になると考えられる。

(吉本健吾・竜子正彦)

註 高橋 潔「植物園北遺跡」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年



図79 Na 2 竪穴住居(東から)



図80 Na 2 土器出土状況(北から)

## 2 北野遺跡 (99RH132)

### 調査経過 (図81・82)

本調査は上京区一条通御前西入西町所在のマンション建設事に伴う遺跡調査であり、1999年7月19日から29日にかけて実施した。

調査地点は北野遺跡の南東部に属しているが、西側の北野麁寺(常住寺)とは紙屋川を挟んで隣接し、また平安京右京北辺二坊四町の北で、一条大路と西堀川小路の交差部から約80mと近接しているところから、各遺跡の関連遺構が交錯して残存する地域に位置している。

調査所在地は1990年11月9日に試掘調査(90RH25)を実施した地点と同一敷地内で、調査では平安時代の南北溝、柱穴などが検出された。今回はこれらの遺構を完掘し、さらに関連遺構の有無を確認することを目的として実施する運びとなった。

調査では2箇所に調査区(1・2区)を設けた。1区は試掘3トレンチで検出した南北溝の追認調査、2区は試掘1トレンチ検出の柱穴の延長部の確認調査を目的に設定した。調査面積は、1区が35㎡(東西7m×南北5m)、2区が15㎡(東西2.5m×南北6m)、計50㎡となった。

### 遺構 (図83～85)

調査地の現地地形は今出川通に面した北側間口から南側敷地内にかけてやや急な勾配で低くなっており、落差は約1m以上を測る。標高では北側の2区北端が60.3m、南側の1区南端が59.1mで、調査区間でも落差1.2mを測る。

基本層位は1区では厚さ0.1～0.2mの盛土、次に近代の積土と考えられる厚さ0.1～0.4mの暗オリーブ褐色泥砂層が堆積しており、以下の標高58.8m(地表下0.3～0.5m)前後に江戸時代から平安時代までの遺構面が残存していた。遺構面では平安時代の整地層と考えられる暗褐色泥砂層が西側に、黄褐色粘質土層が東側にみられた。地山は標高58.5m(地表下0.6～0.8m)から現われ、標高57.8m(地表下1.3～1.5m)までに明黄褐色粘質土層、以下に黄褐色砂礫層が堆積していた。2区では最上層に上記の現地地形を形成する厚さ0.3～0.6mの盛土が観察され、この急勾配の造成は比較的近年のものと思われる。以下に厚さ0.2m前後で暗褐色砂泥層が堆積し、標高



図81 調査位置図 (1:5,000)

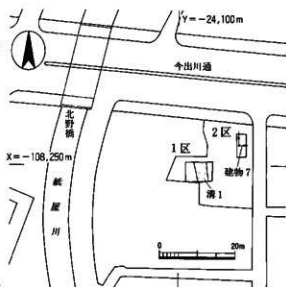


図82 調査区配置図 (1:1,000)

- |                |            |       |
|----------------|------------|-------|
| 1 现代盛土         | 8 暗褐色泥砂    | 溝 1-2 |
| 2 暗オリーブ褐色泥砂    | 9 暗褐色砂泥    | 溝 1-2 |
| 3 褐色泥砂 土層 6    | 10 明黄褐色砂泥  | 溝 1-3 |
| 4 黄褐色砂泥 溝状遺構 3 | 11 暗褐色泥砂   |       |
| 5 暗褐色泥砂 溝状遺構 5 | 12 暗褐色泥砂   |       |
| 6 黑褐色泥砂 溝 1-1  | 13 黄褐色粘質土  |       |
| 7 褐色細砂 溝 1-1   | 14 明黄褐色粘質土 | 地山    |

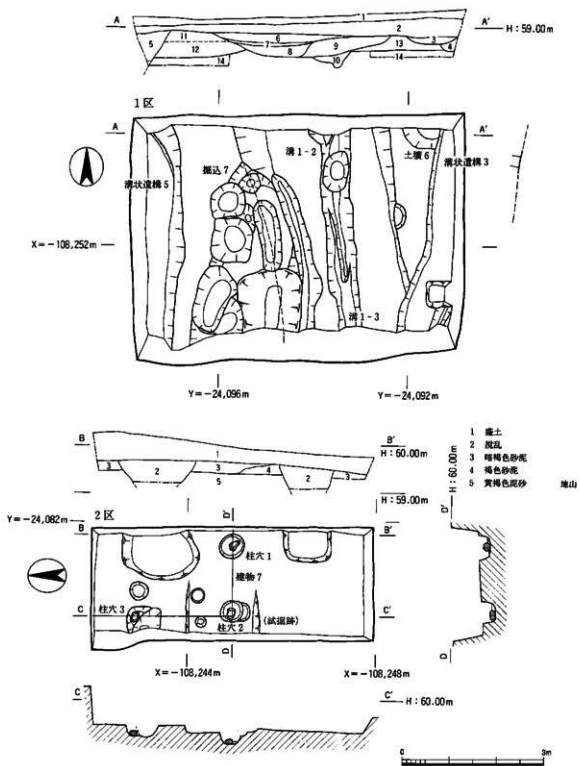


図83 遺構平面図 (1:80)



図84 1区全景(東から)



図85 2区全景(北から)

59.3~59.4m(地表下0.5~0.8m)で黄褐色泥砂層面(地山)となる。遺構はこの地山上面で検出した。

遺構の残存状況は遺構数が少ないながらも比較的良好であるが、1区の検出状況などから考えて遺構成立面はかなり削平されたと推測される。

遺構は1区で平安時代の溝1、掘込7、近世の溝状遺構3・5、土壇、ビットなど、2区で室町時代の建物7、ビットなど、合わせて14基を検出した。以下、時期の古い主な遺構から順を追って概述する。

溝1(1区)は南北方向の溝で、長さ4.3m、幅3.2m、深さ0.5mを検出した。断面は浅い皿状を示し、北壁断面から推定すると幅は3.7mになる。底部は北から南に向けて落差0.1m前後、傾斜角 $1^{\circ}20'$ で低くなっており、方向は東に $10^{\circ}$ 程振れていた。溝内の中間層位では水の流れた痕跡と考えられる褐色細砂の水平状の堆積や、土器の貼り付いた様な出土状況が認められたことから一時期の底部であると判断され、ここ

までの上層部を溝1-1、下層部を溝1-2として扱い、溝1は開削時期を含め3時期に区別できると判断した。平安時代前期の後半代の遺構であるが、溝1-1は後半代末期、溝1-2はこれより一時期古い様相を示していた。溝内中央では幅約0.6m、深さ0.4mの小溝(溝1-3)を併走する状態で検出した。断面は箱形を示し、底部の南北落差は約0.3m、傾斜角 $3^{\circ}59'$ 、方向の振れは約 $5^{\circ}$ であった。この小溝は水流の調整を目的にした溝と推測される。

掘込7(1区)は溝1西肩部で検出した小規模な掘込群である。遺構の性格が明らかでなく、溝1との関連性も想定されるが、別遺構として扱った。溝1と同様、平安時代前期後半代の遺構である。

建物7(2区)は3基の柱穴を検出した。建物本体の南西隅部の柱穴と推定された。柱穴は径0.5m前後、深さ0.2~0.3mの規模で、10~20cm大の礎石を伴っていた。柱間は東西1.5m(五尺)、南北2.1m(七尺)であった。室町時代後期の遺構である。

溝状遺構5(1区)は調査区西壁沿いに南北方向の東肩部だけ長さ4.7mを検出した。底部は未検出であるが、探索棒で確認したところによれば深さは検出面下約0.7mであった。桃山時代

の遺構で、位置関係から御土居の内溝の可能性が想定される。

溝状遺構3(1区)は調査区東壁沿いに南北方向の西肩部から底部にかけて長さ4.3m、深さ0.1~0.3mを検出した。底部は北から南に向けて落差0.3m前後、傾斜角3°59'で低くなっており、肩部の方向は溝1とは逆で、西に約10°振れていた。南東隅では溝1-3に類似した水流調整用と考えられる小溝を部分的に長さ0.5m、幅0.3m、深さ0.2mで検出した。江戸時代後期の遺構である。なお、調査の終了段階で断ち割って確認したところ、西肩部から約1.8mの位置で一部分ながら東肩部を検出した。

#### 遺物

出土遺物は整理箱にして約1箱分に相当する。大半が平安時代前期の溝1出土遺物で、他に室町時代後期から江戸時代後期にかけての遺物が少量出土した。

溝1出土の遺物内容は平安時代前期後半代の土器類であり、土師器(杯・皿・碗・高杯・甕)、須恵器(杯・碗・鉢・壺・甕)、黒色土器(碗・甕)、白色土器(碗)、緑釉陶器(碗・皿)、灰釉陶器(碗・鉢・皿・壺)など、この時期の基本的な各器種各器形がほとんど出土しているが、その中に須恵器の短頸壺(菜壺)などがみられ、溝1の遺構の性格をやや特徴づけている。溝1-1は後半代末期(平安京Ⅱ期新段階)、溝1-2はこれより一時期古い様相(平安京Ⅱ期中段階)を示していた。

#### まとめ

平安時代前期後半代の南北溝(溝1)について検討しておきたい。溝1はその規模から考えても大型の部類に入る区画溝と判断されるが、周辺部でこの時期の関連した遺構としては当地点から北西90m程に位置する北野麩寺第12次調査で検出された遺構<sup>11</sup>があげられる。この遺構は常住寺の東限と推定される築地状の土壇とこれに伴う内外溝で、溝の規模は外溝が幅3.6m、深さ0.8m、内溝が幅2.1~2.6m、深さ0.5mである。外溝の規模は今回検出した溝1の規模とかなり類似している。

現在、北野麩寺(常住寺)の東限は紙屋川以西と推定されている。この現状では溝1を断定的に位置づけることは難しいが、遺構の規模や性格、遺物の時期や様相、地理的な位置関係などから溝1は常住寺に関連した遺構であると推定される。従って紙屋川より東側にも常住寺の寺域が広がっていたことが想定され、本調査は貴重な成果をもたらしたといえる。

北野遺跡では1978年以降実施された調査件数は極めて少なく、立会調査5件、試掘調査2件、発掘調査2件の計9件に留まる。これと比較して北野麩寺では立会調査3件、発掘調査16件、計19件である。件数だけで1/2以下、発掘調査では1/8と格段に少ない。遺跡内で平安時代の具体的な様子がそれ程明確でない理由の一つであり、今後の当遺跡の調査件数増加に期待したい。

(長戸満男)

註 木下保明「北野麩寺」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1991年

### 3 伏見城跡 (98FD394)

#### 調査経過 (図86)

調査は、伏見区桃山筑前台町32-1番地での住宅建築工事に伴うものである。当地は伏見城大手門の西に位置し、城下町大名屋敷地区にあたる。「伏見城御城絵図」(1776年)によれば前田利家・平松八右衛門邸が当地と推定される。この付近の発掘調査では、1989年に西側で奈良時代から近世に至る遺構を検出しており、今回の調査でも、これらに関する遺構・遺物の出土が期待された。

調査は、3月10日から4月28日まで行われ、伏見城に伴う大量の瓦類と石垣と考えられる石を検出した。特に瓦類には、金箔を施したものが多量にみられた。

#### 遺構 (図87・88・94・95)

調査地は、北から南に傾斜する地形に盛土を施し立地しており、南側では隣地より3m以上高くなっている。敷地南側および東側の中程より南の部分では、現代盛土の下層で敷地境界に沿ってL字状に斜面が形成され、斜面上に大量の瓦を含んだ層(No1・2)を検出した。この瓦は、伏見城に関係すると思われる近世の瓦であった。

さらに敷地中央部に斜面を形成する粘土層の下層(-3.20m)から東西幅14.8m、南北幅5.3m、深さ0.8m以上の瓦溜(No3)を検出した。この瓦溜の瓦も伏見城に関係すると思われる近世の瓦である。この瓦溜の上層-2.5mで炭を多量に含んだ層を検出している。

この瓦溜より北へ7.3mの地点(No4)の-2.88mで高さ0.7m以上、幅0.8mの石を検出した。石の西側には深さ1.2m以上、幅1.1mでグリ石の層があり、また石の東側は幅3m以上にわたって瓦溜となり、その底部が一部で-3.18mの高さで検出されており、この石は、東を面にした石垣の基底部の一石と考えられる。またこの面は南延長がNo3の瓦溜の西端に続くと考えられる。



図86 調査位置図 (1:5,000)

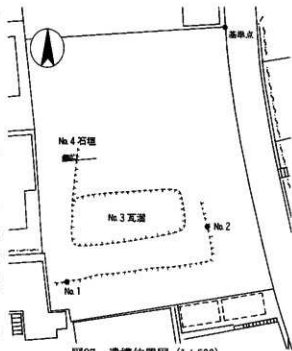


図87 遺構位置図 (1:500)

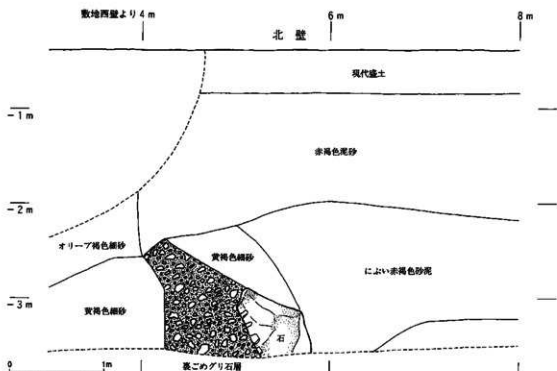


図88 No.4 石垣断面図 (1:40)

#### 遺物 (図版30~40、図89~93)

出土遺物は遺物整理箱に20箱を数え、そのほとんどが瓦類である。出土地点はNo.2の斜面から(3・6・8・17・20・23・28・32・35・36・49・50・52・61・64・72・74・76・79~81・83)22点で、それ以外はすべて掘土からの採集である。

軒丸瓦と棟込瓦は(1・3~37)の36点である。瓦当文様は(1・3~7)が桐文、(8)は宝輪文、(9~14)は巴文、(15~37)が菊花文である。菊花文には周縁をもつもの(15~29)と無いものがある。瓦当面の花卉の部分に(25)は「人」字状、(22)は「ト」の逆字状が印刻されている。金箔を施したものは(4~8・13・14・16~34)の26点である。図化していない瓦当面の直径は(16)13.6cm、(17)13.1cm、(19)12.2cm、(23)15.5cm、(26)15.8cm、(28)18.0cm、(30)14.0cm、(31)12.2cm、(32)12.8cm、(33)13.9cm、(34)13.3cmである。

軒平瓦は(38~64・66~68)の30点である。瓦当文様は(38~47)が中心飾りに対向C字形をもち、唐草を二重突線で表す唐草文、(48~61・63)は一重突線で表した唐草文、(62・64)は中心に花を飾り、葉っぱを左右に配する花文、(66~68)は小振りの花を横に並べた花文である。金箔を施したものは(39・40・43~46・48・50・51・54・55・57・63・64・66~68)の17点である。

道具瓦は、棟込瓦以外に鳥伏間・隅瓦・屋根瓦・鬼瓦・獅子口・飾り瓦などが出土した。

鳥伏間は(2)の1点である。瓦当文様は(1)と同范の桐文で、鳥除けに棒を立てたと考えられる穴が瓦当部上端に2箇所みられ、おそらく頂点と両側の3箇所あったと思われる。金箔を施している。



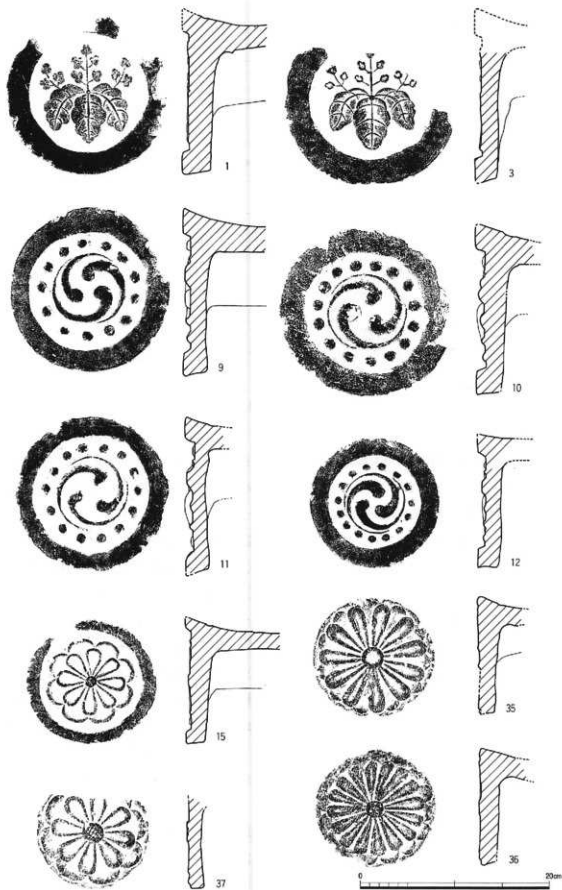


图89 軒丸·道具瓦拓影·实测图 (1:4)

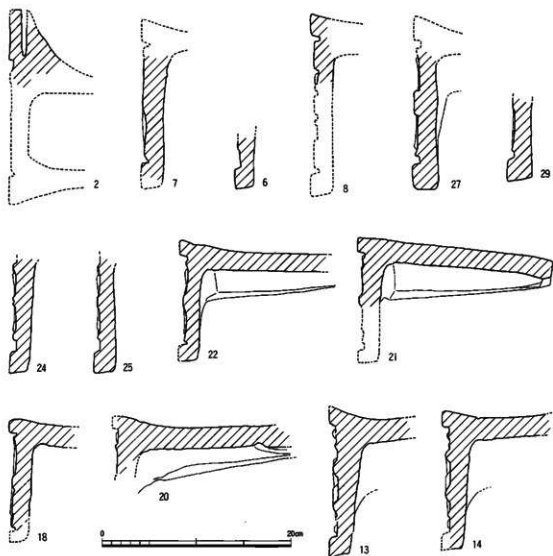


図90 軒丸・道具瓦実測図 (1:4)

隅瓦は (65) の1点である。瓦当文様は中心に花を飾り、左右に配する唐草を二重突線て表す花文で金箔を施している。

屋根瓦は (69) の1点である。文様は、剣花文の四弁で横長の菱形に表している。

鬼瓦は (70-75) の6点である。(70) は、沢瀉文鬼瓦の上半分のみである。裏側には竜頭と呼ばれる把手がついていた痕跡がある。残存横幅は38.5cmである。(71) は、獅子と思われる四足の動物が立ち上がった状態を表し、下方の接合できなかつた破片に笹と思われる植物が配している。これも裏側に竜頭がついている。残存計は高さ62.0cm、幅31.0cm、奥行き18.0cmである。(72・73) は、周縁の部分の破片である。残存計は (72) が高さ34.5cm、幅24.5cm、奥行き13.0cm、(73) が高さ22.5cm、幅24.0cm、奥行き11.5cmである。(74) も鬼瓦の一部と考えられるがどの部分かは不明である。文様は菊の葉が考えられる。残存計は高さ20.0cm、幅24.0cm、奥行き14.0cm。(75) は下方の蕪と呼ばれる部分と考えられる。残存計は高さ22.0cm、幅22.0cm、奥行き10.0cmである。(71) 以外は、すべて金箔を施している。

獅子口は (76) の1点である。菊花文の中央に穴を確認できるが、裏面に突き抜けていない。

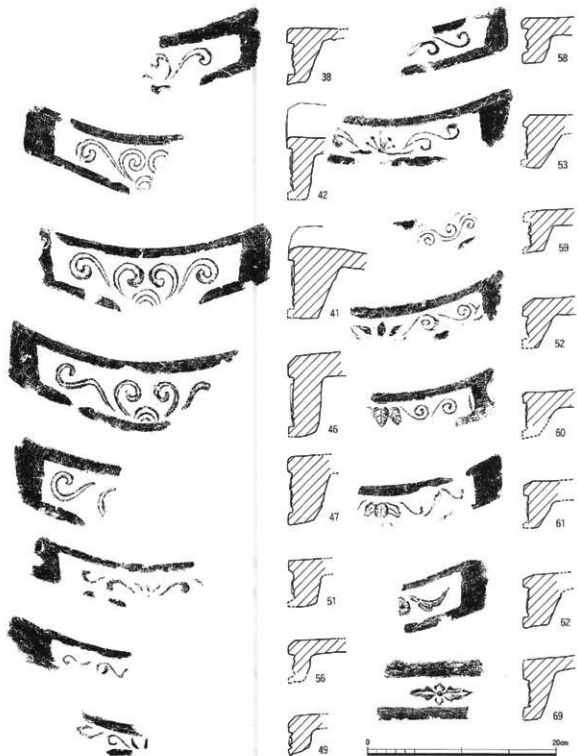


図91 軒平・道具瓦拓影・実測図 (1:4)

金箔を施している。

飾り瓦は (77~82) の6点である。(77~80) は軒丸瓦の瓦当部分を大きくした円形の菊花文である。(78)には裏側に竜頭がつき、残存計は高さ30.2cm、幅24.5cm、奥行き7.7cmである。(81)は方形の面に菊花文を施したもので、残存計は高さ17.7cm、幅15.5cm、奥行き4.1cmである。(82)は桐文で、残存計は高さ26.0cm、幅31.0cm、奥行き5.0cmである。

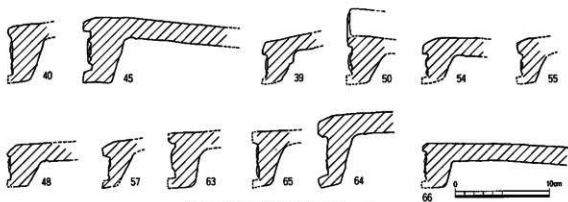


図92 軒平・道具瓦実測図 (1:4)

他に (83・84) は立体的に何かの形状を模したものと考えられるが、不明である。(83) は鬼の牙風の突起である。残存計は高さ12.0cm、幅11.2cmである。(84) に関しては植物の葉っぱの一部と考えられる。残存計は高さ17.6cm、幅24.2cm、奥行き10.5cmである。

#### まとめ

今回の調査地では、伏見城に関係する大量の瓦が出土し、石垣と考えられる遺構を検出した。特に瓦には、金箔を施したものが多量に含まれ、また鬼瓦、飾り瓦は他の遺跡から出土したものより巨大なものも出土している。

No.4 で検出した石垣は南北方向に続いていたと考えられ、この地点に南北方向の区画の境があったと想定できる。「伏見城御城絵図」によれば前田利家邸と平松八右衛門邸の南北境界が

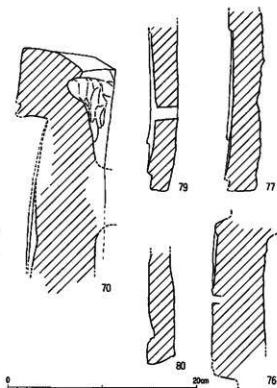


図93 道具瓦実測図 (1:4)

この付近にあたる。また石垣の形成されていた時期は、現在の地形とは全く違って、西から東への傾斜を持っていたことがわかった。そして石垣の廃棄された時期に石垣前の瓦溜やNo.3の大きな瓦溜土壌が形成され、その上に盛土が施され現在に近い地形となり、その後No.1・2の斜面に瓦が投棄され瓦の層が形成されたことになる。しかしNo.1・2で検出した斜面の瓦の層とNo.3で検出した大きな瓦溜土壌は、明らかに時期の違うものであるが、出土遺物から時期差を問うことはできなかった。今後の近辺の調査に大きな期待をしたい。(吉本健吾)

註 内田好昭他「伏見城跡」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年



図94 No.2 瓦堆積層 (南から)



図95 No.4 石垣断面 (南から)

## 4 長岡京跡 (97NG384)

### 調査経過 (図97)

調査地は、伏見区羽東師古川町から淀大下津町にかけての、桂川河川敷内である。今回は1996年から継続している流水保全水利事業による暗渠工事の1997年以降の工区で調査を実施した。流水保全水利事業は高水敷に浄化施設と水路を設置することで、支川からの汚濁水を分離し、取水地点の水質を向上させる目的で実施されている。工区は、長岡京跡の南東部を、北東から南西へ斜めに横断するルートが設定されているが、桂川河川敷内のため遺構・遺物の検出があまり期待できない場所と思われていた。1996年にも試掘と立会調査をしているが、江戸時代の遺構面以外には顕著な遺構・遺物を検出していない。今回は、工事に伴う掘削断面の実測、写真撮影、遺物採取等を計8箇所で行い、その他の部分は地層断面状況の観察にとどめた。その結果、鎌倉時代の溝状遺構と江戸時代の河川を検出した。

### 遺 構 (図96・99・100)

調査を実施した8箇所はNo.1～7が長岡京跡、No.8が長岡京から東へ外れた羽東師橋（北側の仮設橋）のすぐ南側である。以下にその概要を述べる。

No.1では-3.5mまで現代盛土。

No.2では-2.0mまで現代盛土、その下から厚さ2.4mの暗オリーブ灰色泥土、厚さ1.6mのオリーブ灰色から灰色の粘土と続き、-6.0m（標高8.3m）以下は植物遺体を多量に含む黒色粘土である。

No.3では-3.6m（標高11.75m）で鎌倉時代の落込の南肩を検出した。この落込は溝になる可能性がある。この落込の底面で、径0.6m、深さ0.05mと径0.55m、深さ0.1mの円形の土壌を2基検出した。前者には長径0.5～3cmの礫が多量に入っていた。この他には-4.85mと-6.08mで時期不明の遺物包含層を検出した。

No.4では-3.83m（標高11.52m）で鎌倉時代の遺物包含層を検出した。以下、調査区から425m北西で行われた水垂遺跡の調査を参考にすると、-4.5mで平安時代、-4.6mで長岡京期から奈良時代、-5.4mで古墳時代、-7.09m以下はオリーブ黒色粘土の植物遺体を多く含んだ腐植土層で、弥生時代から縄文時代の土層と比定できる。

No.5では東壁でNo.4から約1m北の地点から江戸時代の河川堆積層の南肩が始まり、北

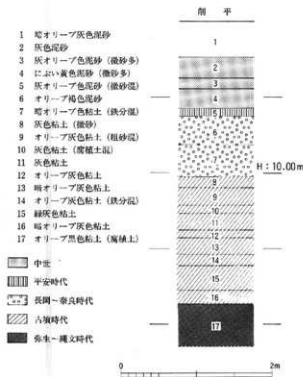


図96 No.4 柱状断面図

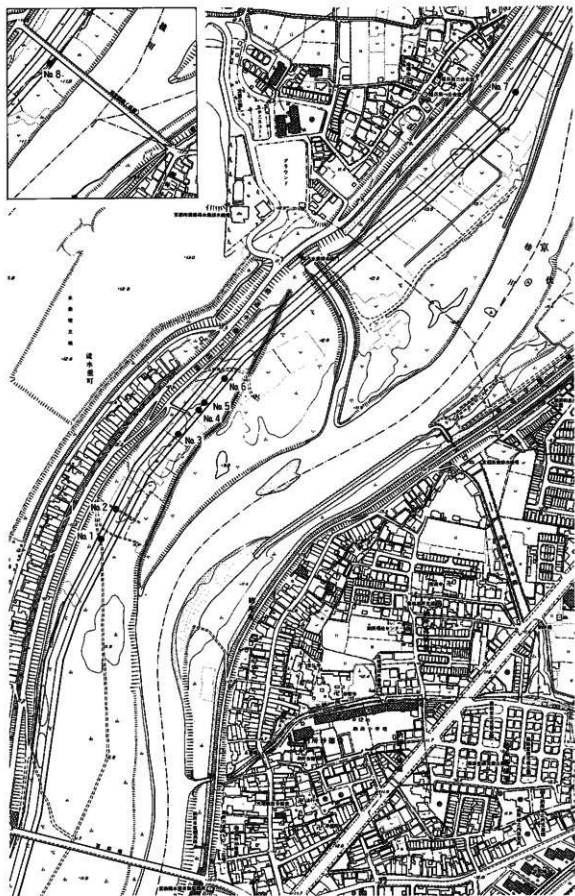


图97 调查位置图 (1 : 5,000)

へ続いていた。

No 6 ではこの河川が東壁で87.5m以上、西壁では東壁の南肩の対岸から73m北で南肩を検出し、この肩口沿いに木の枕列を確認した。この河川は南北方向で、幅25m以上あり、最深部は-6.85m (標高8.5m) であった。埋土は2層に分かれ、上層が微砂層、下層が粗砂層であった。

No 7 ではNo 6 から550m北東へ行った樋爪集落の東側で、-1.2m (標高14.5m) まで現代盛土、以下-4.55mまで砂泥と微砂の互層堆積、それから下が平安時代から中世の遺物を含む粗砂、砂礫の流れ堆積層となる。

No 8 は南と北から進行してきた工区の連結部分にあたる羽東師橋(仮設橋)のすぐ南側で、-1.2mまで砂泥層、-3.8mまで砂礫と砂泥の互層堆積層、以下-6.1mまで鎌倉時代の遺物を含む砂礫の流れ堆積層となる。No 7・8の最下層は桂川の流路部分にあたる。

#### 遺物 (図98)

遺物は整理箱に3箱あり、大部分はNo 3～5で出土した。内容としては土器類、瓦類、鉄製品があり、土器類は土師器皿・甕・羽釜、陶器甕・鉢・指鉢、瓦器皿・碗・羽釜、白磁皿・壺、青磁碗が、瓦類は軒平瓦・丸瓦・平瓦があり、鉄製品は釘がある。このほかにも混入品として古墳時代と思われる土師器、平安時代の須恵器杯・壺、灰釉陶器壺がある。遺物の時期は古墳時代から江戸時代までである。

(1～10)は土師器皿。(1～4・7～10)は小型の皿で口径が8.1～9.5cmにおさまる。(5・6)は中・大型の皿で口径が14.1cm(5)、11.5cm(6)あり、口縁がやや外反し器壁が厚い。(3・6・10)は底部外面に明瞭に粘土継痕が残る。(11～21)は瓦器類。(11・12)は皿で、(11)は平坦な底部から口縁が外反気味に立ち上がり、(12)はやや丸い底部から口縁が肥厚しながら立

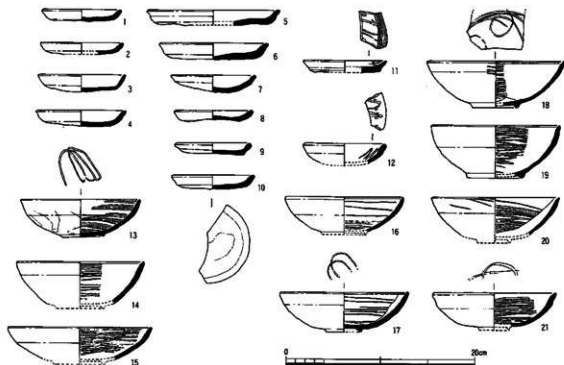


図98 No. 3 出土遺物実測図 (1:4)



ち上がる。ヘラミガキは(11)が内面の口縁は密に、底部は往復させ、(12)は内面の底部から口縁にかけて往復させている。(13-21)は椀で、口径が12.6-15.3cmである。(20・21)は口縁端部が丸くおさまり、その他のものは口縁端部内面に沈線がめぐる。(13)は体部外面に指圧痕が残る。ヘラミガキは、口縁から体部の内面に(16・17)が粗くその他は密に、外面は(18・20)のみわずかに粗く施す。底部内面には(13・17)は螺旋状、(18)は輪を連結させたように施す。楠葉産を主とすると考え。時期は平安時代末期から鎌倉時代にわたっている。(1-4・13-15)はNa3の土壌、(5-12・16-21)は同じ地点の溝状遺構から出土している。

#### ま と め

從桶爪町と淀水垂町の間にある水垂排水樋門を境にして上流と下流で土質の層序は大きく異なり、上流では、最下層に平安時代から中世の流れ堆積層がみられるのに対し、下流では中世の遺構面から下に水田耕作層が厚く重なり、最下層の縄文時代から弥生時代と思われる層まで、いずれの時期も人々が生産、生活していた地域である。

明治時代の仮製地図と大正時代の地図を比較すると、明治時代には樋門南側の水垂村から大下津村にかけての桂川右岸の堤防が東へ大きくせり出している。このため淀納所町と水垂村の間で桂川の河川敷が狭まり、増水時の流水を悪くしている。しかし大正時代では現在のように、右岸が拡幅されている。この拡幅は、3年から4年をかけて1901年(明治34年)に完成した、一連の堤防改修工事の際に施工されたものである。このとき桂川右岸の堤防が西側へ付け替えられ水垂村と大下津村の集落が移転させられている。Na1-6は付け替え前の堤防より外側の集落または水田部分に位置し、Na5・6で検出した河川は明治の地図に記載されている、右岸の東側に沿って流れる羽東師川にあたる。このことから現在河川敷内ではあっても、水垂排水樋門から南は遺構が検出される可能性が高い。

(電子正彦)



図99 Na3土器出土状況(北から)



図100 Na5・6全景(南から)

## 5 嵯峨七ツ塚古墳群 (98UZ286)

### 調査経過 (図101)

右京区北嵯峨洞ノ内町に立地する嵯峨七ツ塚古墳群の4号墳南側から3号墳東側の農道、用水路の拡張整備工事に伴う立会調査である。嵯峨七ツ塚古墳群は北西から南東に延びる台地上の中位に7基の古墳が立地する。現在、周辺は水田地帯で、北端の1号墳はすでに全壊しており残りの6基は径10~25mの墳丘が残存し、等高線に沿って3基ずつ東西に並び小グループを形成している。



図101 調査位置図 (1:5,000)

4号墳の南側が墳丘裾部と周溝に推定される

ことから、1998年11月16日、事前に試掘調査が実施された。結果、周溝は検出できなかったが、墳丘の周縁部とみられる地山の段差が確認されている。さらに段差の埋土からは平安時代前期の遺物が出土しており、西方の大沢池北に建てられた嵯峨院との関連が目玉される。

立会調査は同年11月24日から1999年2月15日まで行った。調査では新たな古墳の確認、さらに試掘調査の成果を踏まえ平安時代の遺構・遺物の検出を主目的に行った。

### 遺構 (図103・104)

調査では11箇所の壁面で断面実測、写真撮影などの記録作業と遺物採取を行った。その結果、古墳時代後期の土壌、平安時代前期の溝などを検出した。以下に遺構を検出したNo.4・8・10について概述する。

**No.4** 地表から-0.6mの地山とみられる橙色砂泥層で、北壁に幅3.35m、深さ0.5mの平安時代前期の南北溝を検出。南壁では幅5.2mと広がる。溝の埋土は2層に分かれる。上層は黒褐色砂泥、下層は褐色砂泥である。上層から平安時代前期の遺物が多く出土した。

**No.8** 地表から-0.1mで平安時代後期の包含層、-0.2mで幅2.25m、深さ0.38mの平安時代前期の土壌を検出した。土壌の埋土は黒褐色砂泥層である。

**No.10** 地表から-0.35mで西壁に幅0.85m、深さ0.2mの古墳時代後期の土壌を検出した。土壌の埋土は黒褐色砂泥層である。東壁は南北方向の現用水路のため検出できなかった。

### 遺物 (図版40、図102)

遺物は整理箱に2箱出土した。遺物には土器類、瓦類があり、ほとんどが土器類である。土器類には土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦器がある。瓦類は平瓦、丸瓦がある。出土した遺物の時期は、古墳時代後期から中世までであるが、平安時代前期が主体である。

古墳時代後期の遺物にはNo.10の土壌から須恵器杯蓋(7・8)が2個体ほぼ完形で出土している。2個体とも外面体部上半から天井部にかけてはヘラケズリを、その他は粗いナデを施してい

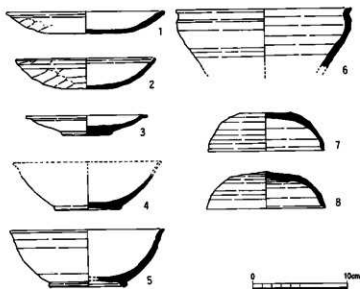


図102 出土遺物実測図(1:4)

全面に施されていたとみられる淡緑色の釉が内面に残存していた。いずれも洛北系産とみられる。灰釉陶器は碗(5)で、内面に緑灰色の釉が薄くかかる。

#### まとめ

今回の調査成果を3点に大別して以下に要約しておく。

まず第1に古墳時代後期の土壌を検出したことが挙げられる。土壌は当古墳群の3号墳の東約30m地点で、東壁に南北方向の用水路が現存していたため、西壁でしか検出できなかった。土壌から7世紀初頭の須恵器杯蓋が出土しており、両壁で検出できなかったが古墳周溝の可能性もあり、新たな古墳の存在が考えられる。ただ当古墳群は6世紀中頃から後期にかけて築造された群集墳と考えられていることから可能性だけに留めておきたい。

第2に平安時代前期の南北溝の検出がある。検出した地点は4号墳から東約12mと近接しているが、当古墳との関連よりも、平安時代前期に西方の大沢池北に建立された大覚寺の前身である嵯峨院に関わる遺構と考えられる。嵯峨院の推定地については調査例が少なく確定されていないことから、今回検出した溝は推定地に関わる遺構として貴重な検出例となった。

第3に平安時代前期から後期の遺構が良好に残存していることである。従来から当地周辺では当該期の遺物が表採され、遺構の存在が予想されていた。その予想を裏付け、上述した嵯峨院、大覚寺の推定域がさらに東に広がる可能性を示す結果となった。

当地一帯は古墳時代後期から平安時代後期の複合遺跡であることが判明した。今後、周辺の調査対象を広げ、今回の調査成果を検証することが急務であろう。(加納敬二)

る。いずれも7世紀初頭のものともみられる。

平安時代前期の遺物には、No 4の南北溝から一括で出土した土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器がある。土師器は皿(1)と杯(2)で、いずれも口縁部以下の体・底部にヘラケズリを施している。須恵器は鉢(6)で、中型の平底のタイプとみられる。緑釉陶器には皿(3)と碗(4)がある。いずれも素地が軟質で磨滅が著しいが、

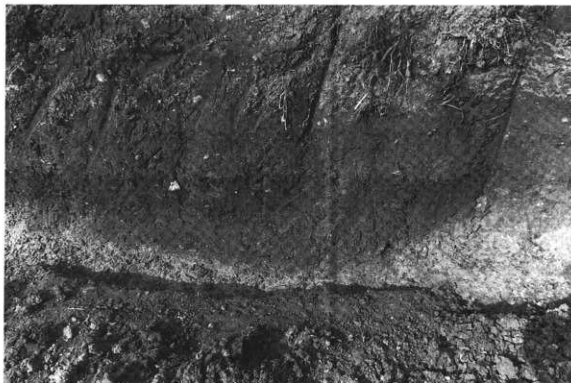


図103 No.4 南北溝 (南から)



図104 No.4 土器出土状況 (北から)

# 調査一覧表

I 1999年 1～3月期 (平成10年度)

## 平安宮 (HQ)

道 跡 名	所 在 地	調査日	調査概要	調査No	図版
大 蔵 省	上・淨福寺通一乗下る東西後原町647-12	1/18	返廊時、工事終了。	HQ339	1
大 蔵 省	上・淨福寺通中立亮下る斐丸町169-5の一部	2/16	-0.25mまで現代盛土。	HQ371	1
大 蔵 省	上・淨福寺通中立亮下る斐丸町170 正義小学校	3/8・9	-0.7mまで現代盛土。	HQ382	1
大 蔵 省	上・上長者町通千本東入信濃町479-1、斐丸町493-1	3/25	-0.15mまで現代盛土。	HQ408	1
主 殿 寮	上・智恵光院通中立亮上る西入新白丸町462-110	2/19	-0.2mまで現代盛土。	HQ370	1
茶 近 衛 府	上・中立亮通日暮東入新白丸町462-76	3/11	-0.3mまで現代盛土。	HQ396	1
右 衛 門 尉	上・御前通の上立亮上る東入殿町388-15	2/12	-0.3mで褐色泥砂を抽出。	HQ366	1
織 殿 寮	上・上長者町通千本東入二丁目山王町511-7	3/8	返廊時、工事終了。	HQ385	1
真 言 院	上・下立亮通千本西入福康町439	'98/5/2-'99/2/16	返廊時、工事終了。	HQ080	1
左 兵 衛 尉	上・日暮通下立亮上る西入分銅町572	1/13-14	-0.26mまで現代盛土。	HQ336	1
西 雅 院	上・榎木町通智恵光院西入西院町 地先	3/9	-0.8m以下、褐色泥砂の地山。	HQ386	1
豊 楽 院	中・聚楽廻西町 地先	1/28, 2/3	-0.95mで明黄褐色砂泥の地山を切って時期不明の土壌。	HQ349	1
豊 楽 院	中・聚楽廻中町44-1-2	2/12-15	-0.1mで褐色泥砂を抽出。餅土より布目瓦、磁灰岩片を採集。	HQ367	1
豊 楽 院	中・聚楽廻中町56-3	3/15	-0.2mまで現代盛土。	HQ396	1
豊 楽 院	中・聚楽廻中町56-14	3/12	-0.15mまで現代盛土。	HQ397	1
朝 霞 院	中・聚楽廻東町24-9	3/10-15-16	-0.8m以下、灰オリブ色砂泥の地山。	HQ393	1
中 務 省	上・淨福寺通丸太町下る主税町1077	1/13-20	-0.57mで幅約2.0mの平安の東西道路 (土師器皿、布目瓦多量)。発掘調査 (88HKDC) の延長を抽出。	HQ335	1
大 膳 殿	上・日暮通榎木町下る北伊勢屋町736-1	3/31, 4/1	-0.84mで近世の路面 (枕瓦、須恵器製)。	HQ413	1
兵 部 省	中・西ノ京内畑町27	3/5	-0.2mまで現代盛土。	HQ380	1

## 平安京左京 (HL)

道 跡 名	所 在 地	調査日	調査概要	調査No	図版
北辺四坊二町	上・京都御苑 1	2/22-26, 3/1-10	No.6: -0.17m、近世の溝状遺構 (土師器、瓦)。 No.9: -0.57m、近世の石組東西溝 (土師器)。 寛政期造営の堀と木戸の位置にあたり、この施設に付随する溝と考えられる。本文1ページ。	HL375	3
一条三坊一町	上・中長者町通新町西入仲之町276	3/24-30	No.1: -1.12mで裏町の包含層 (土師器)、No.2: -1.95m以下、明黄褐色砂泥の地山。	HL407	3
一条三坊十六町	上・京都御苑 1	1/26-29, 2/26-3/5	No.12: -1.4m、東西方向の板状の敷石。この地点で更に多数の巨石が出土。宝永期造営 (1709年) 段階までの御所の南側築地推定部分に当たり、抽出した板状の石と巨石類はそれに伴う遺構と考えられる。本文3ページ。	HL348	3
一条四坊十三町	上・京都御苑 3	1/25-3/26	No.100: -0.6m、明治期以降の盛土。以下、時期不明の洪水層。下層に江戸中期～後期の層。 No.119・1009: -0.6m、花崗岩の石列。No.11: -0.5m、中世の路面4層以上 (富小路、土師器)。 以下、黄褐色砂泥層の地山。No.50: 石塔3基。	HL331	3
二条二坊九町	上・油小路通丸太町上る米屋町298	'98/12/21-'99/1/12	-1.15mまで覆土。	HL317	2
二条三坊十一町	中・烏丸通竹屋町下る少将弁町225	3/23-31	-2.5m以下、明黄褐色砂泥の地山。	HL406	3
三条二坊七町	中・西堀川通御池上る地元町408-22池	2/2	-1.4m以下、ふじ明黄褐色粘土の地山。	HL354	2
三条二坊九町	中・押小路通、東堀川通-西朝院通後 地内	3/23-5/13	No.2: -0.7mで近世の包含層 (瓦)。 オリブ褐色粘土の地山。No.4: -1.5mで裏町の包含層 (土師器皿、瓦)。	HL405	2
三条二坊十五町	中・小川通御池上る下古城町385	'98/12/18-'99/1/6	-1.8mまで近世の埋込地状地積。	HL314	2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
三条四坊三町	中・高倉通御地下る亀甲屋町606	1/8・11・12	-1.65m、鎌倉の包含層(土師器)。-2.2m以下、明黄褐色砂泥の地山。	HL326	3
三条四坊三町	中・関之町通御地下る藤屋町526-1	1/14・18	-1.3m、中堂の包含層2(土師器)。	HL337	3
三条四坊七町	中・堺町通押小路下る扇屋町665	3/8	高岡時、工事終了。	HL383	3
三条四坊十六町	中・寺町通二条下る砂町寺町444-1,445-1	3/28・29・31,4/1	-1.4~-2.2m、時期不明の路面2(東京箱根大路)。 -2.2m以下、流れ堆積。	HL409	3
四条一坊十六町	中・大宮通三条下る三条大宮町	1/8	-1.1mまで現代盛土。	HL325	4
四条二坊四町	下・四条通猪熊西入立中町507	3/2	運送時、工事終了。	HL379	4
四条二坊十六町	中・小川通三条下る笹々町地内	1/12・20,3/5	-0.6mで時期不明の包含層(白色土師)。 -0.9mで平安の包含層(土師器)。 -1.6mで時期不明の包含層(土師器)。	HL330	4
四条四坊三町	中・東洞院通納藤下る元竹田町633,633-2	2/8~10	-0.95mで近世の包含層。 -1.3mで時期不明の包含層。 -1.6m以下、流れ堆積。	HL362	5
四条四坊五町	中・四条通橋馬場上る瀬戸屋町	1/6・7	運送時、工事終了。	HL324	5
四条四坊十一町	中・納高野通高小路東入油屋町141	'96/12/25, '99/1/7	-0.95mまで近世の包含層。	HL321	5
五条一坊五町	中・壬生相合町54-12	2/19~3/10, 12	-0.54mで平安後期の整地層(土師器皿、瓦)。 -0.84m以下、流れ堆積。	HL374	4
五条一坊十二町	中・壬生相合町1 松原中学校	1/20・22,2/3	-0.35mで近世の包含層。	HL342	4
五条三坊八町	下・新町通四条下る四条町 池坊短期大学	2/5・8・9	-0.8m以下、江戸の包含層(瓦、土師器)。	HL359	5
五条三坊十四町	下・仏光寺通鳥丸東入上柳町343,343-1 東洞院通仏光寺下る高橋町604,604-1	2/25,3/1・2	-1.1mで中堂の包含層(青磁片)。 -2.6mまで整地状堆積。以下、オリーブ褐色砂泥の地山。	HL377	5
五条四坊七町	下・高倉通橋小路下る竹屋町387,389-1	1/22・27	-1.0mで江戸の包含層(染付)。	HL344	5
六条三坊二町	下・五条通新町西入西餅屋町14	3/15~4/5	-0.8mで室町の土壌3(土師器、陶器、青白磁)。 -2.6m以下、黄褐色砂泥の地山。	HL398	5
六条三坊十町	下・鳥丸通五条上る藤玉子町419-1・2	2/24~3/4	運送時、工事終了。	HL376	5
六条四坊十四町	下・富小路通五条下る本塩籠町558-2	'98/12/24, '99/1/5	-1.61m、江戸の墓棺(土師器皿、染付、陶器、天目織、靑「寛水通宝」5)。 -1.88m以下、流れ堆積。	HL319	5
八条一坊八町	下・観音寺町3 梅小路小学校	1/18	-0.15mまで現代盛土。	HL340	6
八条一坊十二町	南・八条町471-5他 八条児童公園	2/2	-0.63m、近世の包含層(陶磁器、摺鉢)。 -0.88m以下、流れ堆積。	HL353	6

平安京右京 (HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査№	図版
二条二坊十一町	中・西ノ京南上合町35	3/9~30,4/19~21	No 1 : -2.2mで時期不明の包含層(土師器皿)。 -2.34mで平安の包含層(土師器皿)。 -2.97m以下、黄褐色砂泥の地山。 No 2 : -2.15mで時期不明の包含層(土師器皿、瓦)。 -2.2mで室町の落込(土師器皿)。 -2.71m以下、褐色砂泥の地山。	HR387	9
三条一坊七町	中・西ノ京永本町~西ノ京屋地町 地先	'98/12/16~'99/3/4	-1.0mで近世の溝状遺構。	HR311	9
三条一坊七町	中・西ノ京屋地町 地先	1/26~3/9	-2.8mまで埋積。	HR346	9
三条三坊四町	中・西ノ京泉原町~右・西院上花田町	3/5~10・15・16	-0.4mで路面(道根大路)。 -0.6m以下、室町の流れ堆積(陶磁器鉢)。	HR381	9
三条三坊十四町	中・西ノ京月輪町38	2/12	-0.13m~-0.4m、時期不明の包含層2(陶器、瓦)。	HR368	8
五条三坊十四町	右・西院日照町112	3/29・30	-1.7m以下、明褐色粘土の地山。	HR412	10
七条一坊六町	下・朱雀宝蔵町1,2-2	2/12・15・16	No 1 : -0.56mで東宮門大路の路面。 No 2 : -0.6mで平安前期の東西溝(土師器皿・杯、須恵器壺・甕)。 No 3 : 東宮門大路東側溝にあたる部分-1.0mで南北の道路。本文23ページ。	HR369	13
七条二坊三町	下・西七条、西石ヶ坪町~市部町 地内	1/26~3/2	No 2 : -0.38m、西大宮大路の西側溝(須恵器壺、土師器高杯)。 No 3 : -0.5m、平安の包含層(土師器鉢、黒色土師)。 No 7 : -0.24m、弥生の包含層。 -0.38m、褐色砂泥の地山を切って弥生の落込(弥生土師壺)。 No 10 : -0.4m、平安前期~中期の包含層(土師器壺、須恵器壺)。 No 11 : -0.37~-0.57m、平安前期の包含層(土師器皿・甕、須恵器杯)。本文15ページ。	HR347	13

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
七条二坊八町	下・西高尾川北邊・花園町通西側、西大路通 一御前通 地内	2/8~5/13	No 6 : -0.8m, 平安の左女小跡北側溝 (土師器皿、灰地陶器類)。No 12 : -0.62m, 平安の東西溝 (須恵器蓋、土師器)。-0.83m以下、褐色砂礫の地山。本文24ページ。	HR363	13
七条三坊十一町	右・西家福南庄境町他	3/8~17	No 1 : -1.1mで時期不明の路面2、-1.35m以下、流れ堆積。No 2 : -0.35mで耕作土2、-1.05mで路面。-1.15m以下、流れ堆積。No 3 : -0.5mで耕作土、-0.85m以下、窪地堆積。No 4 : -0.57mで耕作土、-0.89m、平安中期の包含層 (土師器皿)。	HR384	12
八条二坊二町	下・西七条石井町61 七条小学校	1/11	-0.9mまで現代盛土。	HR328	13
八条三坊一町	下・七条南月鏡町 地内	3/1~31	-1.4mで暗褐色砂礫を検出。	HR378	12
九条一坊四町	南・唐橋羅城門町50-1	3/17-18-25	-0.6m、近世の包含層。-0.7m以下、流れ堆積、窪地状堆積。	HR401	13
九条一坊十三町	南・唐橋西寺町3	2/1	巡回時、工事終了。表推で平安の軒平瓦2。	HR362	13
九条一坊十五町	南・唐橋門脇町5	3/17	-0.15m以下、近世以降の包含層。	HR402	13
九条二坊十一町	南・唐橋平垣町 JR西大橋駅	2/8-9	-1.4mまで現代盛土。	HR361	13
九条四坊七町	南・吉祥院向田西町~吉祥院新田巻ノ段町 地先	98/12/16~99/2/8	No 5 : -0.53m, 時期不明の路面2。No 6 : -0.57m, 時期不明の路面。	HR312	12
九条西坊十六町	南・吉祥院大河原町5	3/15-23-25	-1.73m以下、褐色泥砂の地山。	HR399	12

#### 洛北地区 (RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
植物園北邊跡	北・上賀茂坪+堀内町20-1	3/10	-0.1mまで現代盛土。	RH391	15-5
山蓮台寺境内	北・紫野舟岡町2 紫只小学校	3/9-10	-0.1m以下、明褐色粘土の地山。	RH388	14-1
相国寺日境内	上・今出川通烏丸東入相国寺門前町704	3/24~4/6	-0.45m、近世の包含層 (枕瓦、埴付)。-0.8m, 時期不明の包含層 (土師器)。	RH404	14-2
岩倉中在池遺跡	左・岩倉村松町60の一部	2/10	-0.3mまで現代盛土。	RH365	15-1
岩倉中在池遺跡	左・岩倉中通、府道岩倉・山崎線~洛北中学校 地内	2/16~3/30	No 3 : -1.03m以下、オリブ褐色砂礫の地山。 No 6 : -1.45m以下、暗灰色粗砂礫の地山。	RH372	15-3

#### 太秦地区 (UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
嵯峨七ツ塚古墳群	右・北嵯峨洞ノ内町	98/11/24~ 99/2/15	No 4 : -0.6m, 平安前期の南北溝。No 7 : -0.1mには平安後期の包含層。No 8 : -0.2m, 平安前期の土壌。No 10 : -0.35m, 古墳時代後期の土壌。本文45ページ。	UZ286	15-4
仁和寺院家跡・村ノ内町遺跡	右・常盤出口町14-2-31・35	98/12/3~99/1/11	No 2 : -0.33mで黒色砂泥の地山。	UZ292	16
上ノ段町遺跡	右・嵯峨野潤町1-1 峰ヶ岡中学校	1/28~2/3,12/24	No 1 : +0.1m, 時期不明の包含層 (土師器皿)。 No 2 : -0.45m以下、暗オリブ褐色砂礫の地山。	UZ350	17-2

#### 北白川地区 (KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
田中橋之跡	左・東大路通東側、叡山電鉄叡山線~今出川通 地内	2/3	巡回時、工事終了。	KS357	18

#### 南・桂地区 (MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
中街遺道跡	西・大原野北春日町 地内	2/3~7/19	No 6・7 : 土石流の堆積検出。No 13 : -0.4m, 時期不明の層。その他は砂泥又は粘土の地山のみ。	MK356	19-2

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
灰方城跡	西・大塚野灰方町	1/12~5/10	№3 : -0.08m・-0.13m、路面2。-0.18m、時期不明の包含層。-0.53m以下、明實褐色砂泥の地山。№6 : 0~-0.35mで路面4。以下、褐色泥砂の地山。№12・13・14 : -0.45m、時期不明の落込、№14と№15の間に西層があり、灰方城の東側の堀の可能性あり。№15 : -0.53m以下、暗オリーブ色砂泥の地山。	MK333	19-2

#### 洛東地区 (RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
法観寺旧境内	東・八坂上町 地内	'98/12/18~'99/1/18	№2 : -0.4m、近代の包含層 (陶器類、瓦)。	RT301	21-4
鳥辺野	東・今熊野北日吉町 豊国廟広場	1/25~27	-1.1m以下、オリーブ色砂泥の地山。	RT345	20
法住寺遺跡・六波羅政庁跡	東・妙法院前町町地	1/11~27	-1.22m以下、明實褐色砂泥の地山。	RT329	20
南日吉町遺跡	東・今熊野南日吉町 地内	2/8~3/5	№4 : -0.75m以下、旧滑石面道の路面2。	RT364	20
大塚遺跡	山・大塚野清町86 音羽中学校	1/18~20	-1.35mまで現代盛土。	RT341	21-5
大塚遺跡	山・小山中ノ川町12-1	1/21~22	-0.63mで暗赤褐色砂泥を検出。	RT343	21-5
中臣遺跡	山・東野舞台町95-13	1/29	-0.3mまで現代盛土。	RT351	21-2
中臣遺跡	山・柳辻番所ノ町38-6	2/5	-0.15mまで現代盛土。	RT358	21-2
中臣遺跡	山・勧修寺西栗栖野町114,115	3/9~10	-2.15mまで検乱。	RT389	21-2

#### 鳥羽地区 (TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
下三橋遺跡	伏・横大路下三橋辻堂町	2/5	-3.1mまで検乱。	TB360	26-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田中宮町12の一部	1/12	-0.8m以下、耕作土。	TB332	22
下鳥羽遺跡	伏・下鳥羽西芹川町 地先	1/14~28	№2 : -0.65mで養生~埋合の包含層 (養生土器、須恵磁器、瓦器類)。-0.75m、古墳以降の包含層 (須恵磁器)。-0.9m、養生の西へ下る落込 (養生土器)。	TB338	22
笠城跡	伏・淀本町168 地内	'98/12/3, '99/2/2	-0.4m、中世の遺物 (土器類、陶器、瓦器) を含む淀城の堀 (近世) 中の埋土を検出。	TB291	26-4

#### 伏見・醍醐地区 (FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
醍醐廟跡	伏・醍醐高畑町地	1/12~4/14	№2 : -0.15m以下、暗青灰色粘土の地山。№3 : -0.6m、時期不明の包含層。-0.9m以下、黄褐色粘土の地山。	FD334	23-2
法界寺旧境内	伏・日野堀町3 日野児童公園	3/10~11	-0.6m以下、明實褐色砂泥の地山。	FD392	23-1
伏見城跡	伏・南都町60、瀬戸物町746-14	'98/12/10, '99/1/6	-0.5m以下、明實褐色泥土の地山。	FD299	24
伏見城跡	伏・桃山町水井久太郎59-13	2/19~3/10	泥溜時、工事終了。	FD373	24
伏見城跡	伏・東町202-3, 204-1	3/9~12	泥溜時、工事終了。	FD390	24
伏見城跡	伏・桃山京前町32-1	3/10~23, 4/6~9, 28	№1・2 : 斜面堆積層に多量に近世の瓦を検出。№3 : -3.2m、方形の瓦類。№4 : -2.88m、石垣を検出。近世の瓦には金箔瓦が多量に含まれ、種類は軒丸、軒平の他に道具瓦が出た。本文34ページ。	FD394	24

#### 長岡京地区 (NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
北宮北辺二坊十四町	南・久世殿城町地先	1/8~21	-0.8m以下、オリーブ褐色砂泥の地山。	NG327	27-2
北宮北辺三坊五町	南・久世殿城町600-1	3/29	-0.1mまで現代盛土。	NG411	27-2
北一桑大路					
北宮三条西坊西町	伏・久我西出町12-11	3/29~4/26	-0.16m、時期不明の南北溝。	NG410	28
東三坊大路					



遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
左京四条四坊三町	伏・羽東師費川町564	3/15, 4/1	-0.2mまで現代盛土。	NG460	28
左京五条三坊十一町	伏・羽東師費川町221輪	1/5・8	-0.6mまで現代盛土。	NC323	28
左京八条西坊五町	伏・納所和泉屋 京都競馬場	2/3・5・8・15	-1.45m、近世以降の南北溝（染付、陶器）、西側に横板を伴う枕列、南北から東西へL字に曲がる枕列を検出。	NG355	26-4
右京北辺四坊六町	西・大原野上里北ノ町他	'98/5/15～ '99/5/29	No17：-0.25m、古墳時代の包含層（須恵器鉢）。 No90：-0.68m、奈良時代の包含層（土師器甕）。 No2：-1.4m、長岡京期の包含層（土師器、須恵器鉢）。No78・79：-0.25m、平安時代の南北溝（須恵器鉢）。No7・9・12・67・70・72・83で中世の包含層。上皇小学校の西側の畑から古墳～長岡京期の遺物を採集した。今回の調査区では、南部に中世の遺跡が、南東部に古墳～平安の遺跡があることを確認した。	NG054	27-1

## II 1999年 4～12月期（平成11年度）

### 平安宮（HQ）

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
藤 室	上・御前通一条下る東整町144-31	8/2・3	-0.3m以下、地山の明黄褐色砂泥。	HQ154	1
兵 庫 寮	上・一条通御前通東入町25	4/12	巡回時、工事終了。	HQ010	1
大 藏 省	上・淨福寺通中立亮下る養丸町184の一部	4/12	-0.18mで褐色砂泥を検出。	HQ012	1
大 藏 省	上・淨福寺通一条下る東西供屋町642-4	5/10～12	-0.6m、近世の包含層（陶器）。	HQ043	1
大 藏 省	上・仁和寺街道七本松東入白竹町189-1	6/28-29	敷地内に東西方向の石垣あり、観察地点は石垣下で地表面が-1.56mで縦溝際、-2.18mまで現代盛土。	HQ109	1
大 藏 省	上・愛染寺町493-1、借換町479-1	7/7・8	-0.43mまで現代盛土。	HQ117	1
大 藏 省	上・淨福寺通中立亮下る養丸町184の一部	10/5・8	-0.15m、時期不明の整地層。	HQ250	1
大 藏 省	上・淨福寺通中立亮下る養丸町184の一部	10/5・8	-0.15m、時期不明の整地層。	HQ251	1
大 藏 省	上・淨福寺通中立亮下る養丸町184の一部	10/12	-0.53m、近世の整地層。	HQ256	1
大 藏 省	上・淨福寺通中立亮下る養丸町184の一部	10/12	-0.53m、近世の整地層。	HQ257	1
大 藏 省	上・淨福寺通一条下る東西供屋町668-13	10/12	巡回時、工事終了。	HQ258	1
大 藏 省	上・七本松通一条下る三軒町69-4・5	12/28	巡回時、工事終了。	HQ344	1
主 殿 寮	上・瀧門通一条下る今新在家町206-11	4/24	No1：-0.59m以下、近世の整地層（瓦）。No2：-0.68m以下、黄褐色砂泥の地山。	HQ037	1
主 殿 寮	上・瀧門通一条下る今新在家町206-10	8/3・4	+0.16～0.04mまで現代盛土。	HQ159	1
茶 園	上・松原町通中立亮上る新白水丸町462-10	5/24	0m、近世の包含層。	HQ067	1
大 宿 直	上・瀧門通中立亮下る高院整町209-9	9/30, 10/1～6	-0.05m、焼土層、-0.3m、近世の整地層。	HQ247	1
正 親 司	上・御前通一条下る東整町144-21	5/7	-0.25mで暗褐色砂泥を検出。	HQ042	1
正 親 司	上・仁和寺街道御前東入扇塚町219	7/26	-0.15m、包含層（土師器）。-0.55m以下、に よい黄褐色砂泥の地山。	HQ142	1
右 近 衛 府	上・御前通下立亮上る仲之町285-1	4/5	-0.13m以下、黄褐色砂泥の地山。	HQ004	1
右 近 衛 府	上・御前通下立亮上る三丁目東入三輪町280-41	8/4	+0.24～0.04m、現代盛土。	HQ164	1
右 近 衛 府	上・御前通下立亮上る仲之町299-4・5	12/1	-0.25mまで現代盛土。	HQ313	1
園 書 寮	上・下長者町通七本松西入扇塚町245-57-61-62	7/22	-0.6mまで現代盛土。	HQ139	1
園 書 寮	上・下長者町通七本松西入扇塚町245-57-61-62	7/22	-0.6mまで現代盛土。	HQ140	1
園 書 寮	上・下長者町通七本松西入扇塚町245-57-61-62	8/16	巡回時、工事終了。	HQ141	1
寮 松 原	上・下立亮通七本松西入新東町386-8	7/19	-0.2mまで現代盛土。	HQ133	1
寮 松 原	上・下長者町通七本松西入扇塚町245-42	8/30～9/21	巡回時、工事終了。	HQ199	1
掃 部 寮	上・下長者町通六軒町西入利生町288-1	9/10・20	-0.95m以下、に よい黄褐色砂泥の地山。	HQ218	1
内 藏 寮	上・下長者町通千本東入草堂前之町122	6/2・3	No1：+0.5～0.14m、近世の包含層。	HQ075	1
院 本	上・下長者町通智恵光院西入山本町98-1	4/13～16	-0.4mまで現代盛土。	HQ014	1
院 本	上・下長者町通瀧門東入須崎町564-3	7/21	-0.3m、近世以降の包含層。	HQ137	1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
梨本	上・智恵光院通、中立先通～下立先通他 地内	8/10～31、9/2～ 30、10/4	No.1: -0.76m、中世の落込(土師器皿、須恵器)。No.4: -1.15m、時期不明の包含層(土師器皿)。No.5: -1.1m、近世の包含層(染付)。No.6: -1.65m以下、暗灰色砂礫の地山。No.10: -0.7m、路面2。路面を切って落込(土師器)。	HQ173	1
左近衛	府上・下長者町通大宮西入東原巴町123	6/24	-0.2m、近世の包含層(土師質陶器)。	HQ106	1
職御曹司	上・出水通智恵光院西入田村備前町221-7	8/24	-0.7mまで現代盛土。	HQ185	1
職御曹司	上・出水通智恵光院西入田村備前町208-2-5	9/6-7	-0.35m、近世層。	HQ209	1
内藤	上・淨福寺通下立先上る田中町476	5/28	-0.34m、近世の包含層。	HQ072	1
内藤	上・下立先通智恵光院西入下丸屋町492-3、 下立先通千本東入田中町476-2	6/8～11	No.1: -0.92m、近世の包含層(土師器皿)。No.2: -0.35m以下、黒褐色砂礫の地山。	HQ084	1
内藤	上・裏門通出水上る白銀町261-3	6/14-15	巡回時、工事終了。	HQ088	1
内藤	上・下立先通千本東入中務町490-74	7/16	-0.55mまで現代盛土。	HQ129	1
内藤	上・下立先通千本東入中務町490-99	12/15	-0.25mで褐色砂礫を検出。	HQ335	1
内藤	司上・千本通下長者町下る福島町384	9/13～27	-0.4m、江戸の包含層(土師器皿)。-1.2m以下、ふい、黄褐色砂礫の地山。	HQ220	1
内藤	司上・出水通千本西入尼ヶ崎横町359-4	11/9	-0.3mまで現代盛土。	HQ295	1
真宮	中・築楽廻西町166-1、下立先通七本松東入 長門町417-4	6/7～24	-0.22m、時期不明の包含層(土師器)。	HQ079	1
真宮	院中・築楽廻西町166-14	7/9	-0.15mまで現代盛土。	HQ120	1
南所	上・裏門通出水下る田村備前町243-14	7/2-5	巡回時、工事終了。	HQ113	1
西藤	院上・日暮通丸太町上る西入西院町746-14	5/21	-0.65m以下、近世の包含層。	HQ061	1
造酒司	中・築楽廻西町181-2	9/24～30	-1.05m、時期不明の整地層。	HQ238	1
造酒司隣地	中・築楽廻西町166-5	5/11	No.1: +0.4m以下、明黄褐色砂礫の地山。No.2: +0.13～0.07m、近世の包含層(土師器皿)。	HQ047	1
内匠	寮中・西ノ京左馬寮町27-9	8/18	-0.5m、近世層。-0.75m、時期不明の整地層。	HQ177	1
内匠	寮中・西ノ京左馬寮町27-8	8/18	-0.5m、近世層。-0.75m、時期不明の整地層。	HQ178	1
左馬寮	中・西ノ京左馬寮町7-31	5/11-12	No.1: -0.5m、平安の包含層(須恵器釜、平瓦)。-0.6m以下、暗灰色粘土の地山。No.2: -0.63m、平安中期の南北溝(土師器皿)。	HQ046	1
典薬寮	中・築楽廻松下町8-4	9/13～17	巡回時、工事終了。	HQ221	1
典薬寮	中・西ノ京車坂町3-7	10/20	-0.27m以下、黄褐色砂礫礫の地山。	HQ271	1
典薬寮	中・築楽廻松下町3-28	12/15-16	巡回時、工事終了。	HQ336	1
豊楽院	中・築楽廻中町56-17	7/29	-0.2mまで現代盛土。	HQ150	1
豊楽院	中・築楽廻西町～東町 地先	8/19～11/17	No.17: -0.23m、豊楽院榎遺構の基礎の整地層。この土層を切って時期不明の落込(炭、瓦)の底面に石が1個埋まる。No.27: -0.95m、南北方向の石組の水路。	HQ181	1
豊楽院	中・築楽廻中町56-16	10/5	-0.38mまで現代盛土。	HQ252	1
豊楽院	中・築楽廻西町183-2	10/18-19	-1.3mまで現代盛土。	HQ267	1
豊楽院	中・築楽廻中町56-15	10/29、11/1	-0.2mまで現代盛土。	HQ279	1
朝堂院	中・築楽廻中町～築楽廻東町 地先	8/3～25	-0.15～0.6m、黄褐色砂礫の地山(築楽土)。	HQ162	1
中務省	上・下立先通千本東入下る中務町490-9-91	4/16	-0.1mまで現代盛土。	HQ022	1
中務省	上・千本通丸太町東入中務町491-7	8/10・12	-1.25mまで埋込。発掘調査地点。	HQ174	1
主水司	上・日暮通丸太町上る西入西院町747-24	4/26・27	-0.9m以下、褐色砂礫の地山。	HQ033	1
大膳	職上・日暮通橋木町下る北伊勢屋町734-2	12/7～10	No.1: -1.1m以下、ふい、黄褐色砂礫の地山。No.2: -0.3m、ふい、黄褐色粘土の地山を切って近世の落込(陶器)。	HQ324	1
大炊寮	上・日暮通丸太町下る南伊勢屋町763	6/25	-0.35mまで現代盛土。	HQ108	1
大炊寮	上・日暮通丸太町下る南伊勢屋町767	7/6-7	-0.55m、近世の整地層。	HQ116	1
大炊寮	上・日暮通丸太町下る西丁目802-8	8/24	巡回時、工事終了。	HQ189	1
大炊寮	上・丸太町通黒門東入築楽町536-64	10/12	-0.4m、近世の包含層。	HQ259	1
宮内省	上・竹屋町通千本東入主税町1218-3	12/13	-0.6m、固く締まった整地層。	HQ334	1
太政官	上・竹屋町通千本東入主税町824、824-5の一部	11/2	-0.36mまで現代盛土。	HQ283	1
刑部省	中・西ノ京内畑町18-24	7/19	-0.2mまで現代盛土。	HQ134	1
刑部省	中・西ノ京内畑町15-9-31	7/28-29	-0.13m、南北方向の近世溝。-0.3m以下、明黄褐色粘土の地山。	HQ148	1

平安京左京 (HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
一条大路	上・千本通一条下る北伊勢御講町682-1	9/14-17	-1.05mまで現代遺土。	HL224	1
北辺二坊三町	上・中立売通堀川西入段人町251-8他	7/26-8/4	-2.65mまで近世の整地層。	HL143	2
北辺二坊六町	上・中立売通池小路西入東横詰町76-1	9/27-10/8	-0.2m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。	HL239	2
北辺三坊一町	上・一条通西側院東入元真如堂町378	8/4-6	№1:-1.93m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。 №3:-1.23m、鎌倉-室町の包含層(土師器)。 -1.68m、平安後期の包含層(土師器)。-2.0m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。	HL163	3
一条二坊八町	上・殿屋町通上長者町下る番屋町527,520の一部	9/14・17・27	№1:-0.88m以下、オリーブ褐色砂泥の地山。 №2:+0.17m、近世の包含層(土師器)、-0.15m、室町の包含層(土師器)、-0.35m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。№3:-0.84m、近世の包含層(九瓦、土師器皿、瓦質火鉢、陶器類)。 -1.04m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。HL233と同一調査。	HL225	2
一条二坊八町	上・番屋町通上長者町下る番屋町526,520の一部	9/14-22-27	№1:-0.88m以下、オリーブ褐色砂泥の地山。 №2:+0.17m、近世の包含層(土師器)、-0.15m、室町の包含層(土師器)、-0.35m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。№3:-0.84m、近世の包含層(九瓦、土師器皿、瓦質火鉢、陶器類)。 -1.04m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。HL233と同一調査。	HL233	2
一条三坊五町	上・衣箱通下立売下る門跡町274	4/13-19	-1.32m、近世の包含層(土師器)。	HL015	3
一条三坊八町	上・中長者町通室町西入東長者町540	11/5-8-9	-1.02m、中世の包含層(土師器)、-1.36m、室町の包含層(土師器)、-1.64m以下、灰黄褐色砂泥の地山。	HL289	3
一条西坊八町	上・京都御苑1	9/27,10/18	-0.15m、嘉永の大火の焼土を含む整地層(八弁の小菊文の軒丸瓦)。	HL241	3
一条西坊十町	上・京都御苑2	7/15-8/24	№3:-0.2m、近世の東西溝、-0.4mで築地の基壇。№16:-0.1m、近世の石組の南北溝。本文3ページ。	HL125	3
二条一坊十五町	中・寺町通竹屋町上る下御堂前町638-1	4/19-21	-1.5m、鎌倉の包含層(土師器皿)。	HL023	3
二条二坊二町	上・猪熊通(丸太町~竹屋町通)	4/13-8/3	-0.15m以下、近世以降の猪熊小路路面II。	HL016	2
二条二坊十町	中・丸太町通池小路西入丸太町17	5/21-25	-1.4m以下、褐色細砂の地山。	HL062	2
二条二坊十五町	中・小川通丸太町下る中之町81-3	7/26-29	-1.2mで江戸の包含層(土師器皿、フイゴの羽口)。№3:-1.3m、室町の包含層(土師器)。	HL144	2
二条三坊二町	中・釜座通丸太町下る朝屋町159	5/24-6/9	-0.56m、室町一橋山の包含層(土師器皿)、-0.73m、中世の包含層(土師器皿、須恵器鉢、緑釉陶器、青磁)。	HL096	3
二条三坊三町	中・竹屋町通新町西入指物屋町373	5/31,6/8-11	-0.9・-1.42m、室町の包含層2(土師器皿)、-1.58m以下、暗褐色砂泥の地山。	HL073	3
二条四坊三町	中・園之町通竹屋町下る 竹間公園	8/23-26	巡回時、工事終了。	HL188	3
二条四坊三町	中・桶町池 竹間児童公園	12/16	-0.26・-0.71m、2層の肥後層積。	HL339	3
二条四坊四町	中・東院院通二条上る壺屋町530	4/27-28,5/7	№1:-0.85m、時期不明の整地層。№2:-1.6m以下、灰黄褐色粗砂泥の地山。	HL036	3
二条四坊七町	中・竹屋町通橋馬場西入和久屋町101の一部	7/15-22	-1.0mで平安中~末期の火炊御門大路北側溝(土師器皿、白土器高杯・椀、瓦器類、緑釉陶器、白磁、青磁碗、石製鉢、瓦)。HL127と同一調査。本文18ページ。	HL126	3
二条四坊七町	中・竹屋町通橋馬場西入和久屋町101	7/15-22	-1.0mで平安中~末期の火炊御門大路北側溝(土師器皿、白土器高杯・椀、瓦器類、緑釉陶器、白磁、青磁碗、石製鉢、瓦)。HL126と同一調査。本文18ページ。	HL127	3
二条四坊十六町	上・京都御苑3	8/25-11/9	№1:-0.9m、平安後期の包含層、それを切った室町の土層、-1.2m、平安中期の包含層。№2:-0.3m、江戸の東西石組溝。№4:-0.15m、江戸の南北石組溝。№6:-0.2m、江戸の円形石室。南地点でヨーロッパ陶器。№7:-1.3m、室町の土層。№8:-0.4m、江戸の瓦土層。	HL192	3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
三条一坊二町	中・西ノ京職町35-1	5/18-6/1	調査地中央の、0.41mで平安の落込の西側(瓦)を切って、-0.9mで平安の土壌(土師器、須恵器、瓦)、共に朱雀大路東側遺。本文18ページ、-2.2m以下、にふい黄褐色砂礫の地山。	HL058	2
三条一坊七町	中・西ノ京職町67-79地3兼	12/22-24・25		HL342	2
三条二坊四町	中・三条通福館西入御供町297	4/19-20	-1.12m、灰オリーブ色砂泥の地山を切って近世の東西溝(幅0.9m以上・深さ0.38m、陶器類、三条大路北側溝)。	HL024	2
三条二坊五町	中・三条通堀川西入横西町664	4/16-19-20	-0.9m、室町の包含層(土師器類)、-1.3m、時期不明の土壌。	HL020	2
三条二坊五町	中・三条通堀川西入横西町676、676-2、677-1-2	12/6-8	No1:-0.57・-0.69m、三条大路の路面、No2:-0.33m、近世の土壌(土師器、天目陶器類)、それに切られて時期不明の土壌(土師器)。本文18ページ。	HL321	2
三条二坊九町	中・押小路通東堀川東入土樋町〜押小路通西洞院東入二条西洞院町 地先	7/28-9/13	No1:-1.4m、時期不明の地状堆積、No3:-0.1m、時期不明の路面、No4:-1.6m以下、黄灰色粘土の地山、No5:-0.6m、時期不明の包含層(土師器)、-0.85m、時期不明の路面、-0.86m以下、黄褐色砂泥の地山、No7:-1.15m、室町の包含層(土師器類)。	HL149	2
三条二坊十三町	中・三条通小川堀屋町〜小川通御地下古城町 地先	10/12-12/10	No1-3:-0.15-0.6mで時期不明の路面、No2:-1.2m以下、にふい黄褐色砂泥の地山、No9:-0.96m、中世の包含層(土師器)、-1.19mでにふい黄褐色砂泥の地山を切って室町の落込(土師器)、No11:-0.14-0.77mで時期不明の堀小路の路面10面、No12:-1.05m、明黄褐色砂泥の地山、No13:-0.85m、時期不明の包含層(陶器類)。	HL261	2
三条二坊十五町	中・堀川通御池岸町〜御池通鳥丸西入龍池町 地先	11/22-12/3	No2:-1.3m、流木の掘入した敷砂、-2.0m以下、オリーブ色砂礫の地山。	HL304	2-3
三条三坊二町	中・御池通西洞院東入横之町738、738-5-6	4/5	-0.3mまで現代産土。	HL005	3
三条三坊二町	中・釜淵通御池上る下松屋町723-1	6/16-17-22	-0.8mで時期不明の整地層(時期不明の縄文)、-1.2mで鎌倉の柱穴(土師器類)。以下、平安中期の整地層(土師器類、須恵器類、瓦)。	HL093	3
三条三坊三町	中・釜淵通御池上る津屋町763・764・765、768-1、神明町69	7/14-16-19	-1.63m以下、中世の包含層(土師器、瓦器、陶器)。	HL123	3
三条三坊五町	中・衣櫛通御池下る突抜町135	8/30、9/6-17	-1.65m、江戸の包含層(陶器、染付)、-2.65m、黄灰色粗砂礫の地山。	HL200	3
三条三坊六町	中・室町通御池下る円福寺町353他	11/5、12/3	No2:-1.81m、室町の包含層(土師器類、陶器類)、-2.11m、鎌倉の包含層(土師器類、白磁器、輸入陶器類)、-2.41m以下、砂礫層、No3:-1.4m、江戸の包含層(土師器類、白磁)。	HL290	3
三条三坊九町	中・鳥丸通二条下る秋野々町523、520-1	9/28-30	返留時、工事終了。	HL244	3
三条三坊十町	中・室町通御池上る御池之町306、岡替町通押小路下る金吹町453-3	9/16-10/14	-0.93m以下、洪水層と整地層、-2.13m、時期不明の包含層(土師器類)。	HL228	3
三条三坊十五町	中・秋野々町他(鳥丸通二条通)	6/28-9/13	No1:-1.24m、近世の包含層(陶器類)、No5:-0.58-1.24m、時期不明の路面7。	HL110	3
三条三坊十六町	中・鳥丸通御池二条殿町〜鳥丸通二条秋野々町 地先	5/13-8/18	No9:-1.35m、室町の包含層(土師器類)。	HL053	3
三条四坊一町	中・間之町通二条下る櫛屋町481-4	6/24-7/12	-1.45m以下、褐色砂泥の地山。	HL107	3
三条四坊一町	中・高倉通二条下る瓦町563、左京町140-1	12/3-6-7	No1:-1.32m、時期不明の包含層(瓦、土師器類)、-2.0m以下、黄褐色粘土の地山、No2:-1.0m、江戸の土壌、No3:-2.2m、時期不明の包含層(土師器)、-2.66m以下、暗オリーブ色砂泥の地山。	HL320	3
三条四坊五町	中・三条通御池西入樹屋町〜高倉通御池下る亀甲屋町 地先	9/30	-1.5mまで埋戻。	HL248	3
三条四坊九町	中・二条通御池東入清明町659	8/24-25-30	No2:-2.0m、江戸の包含層(土師器類)、-2.3m以下、灰オリーブ色砂泥の地山、No3:-1.9m以下、オリーブ褐色砂礫の地山。	HL190	3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
三条四坊十三町	中・寺町通三条上る天性寺前町529	9/16~30	No 2 : -1.2m, 中世の包含層 (土師器、瓦器)。 -1.5m, 時期不明の包含層 (土師器)。No 4 : -1.37m, 室町の包含層 (土師器皿、焼締陶器壺、白磁碗)。-1.6~1.85m, 東京橋大路の踏面4層。 -1.9m, 平安後期~末期の甕北溝 (土師器皿、高杯)。No 5 : -2.33~2.98m, 古墳~平安の溝状地積 (土師器皿、甕、布目瓦)。No 6 : -1.93m, 礎倉の落込 (土師器、陶器壺)。以下、黒褐色砂礫の地山。本文28ページ。	HL227	3
三条四坊十六町	中・麩屋町通二条下る尾張町234	4/19~21, 8/16	-1.55mで平安~鎌倉の土壌 (土師器皿、緑釉陶器碗、瓦器類)。-1.95m以下、暗灰色細砂の地山。	HL027	3
三条四坊十六町 四条一坊四町	中・御幸町通二条下る山本町424 中・壬生御所ノ内町26	9/8~10-13 5/12-14	-1.28m, 江戸の包含層 (増埴)。 -0.89m, 流れ堆積。-1.17m以下、明黄褐色砂礫の地山。	HL213 HL052	3 4
四条一坊四町	中・壬生御所ノ内町40	8/26-31	No 1 : -0.82mでオリブ灰色砂礫の地山を切 って礎倉の窪地状地積 (土師器、瓦)。No 2 : -0.6m, 流れ堆積。-0.85m以下、ふよい黄色粗砂礫の地山。	HL195	4
四条二坊四町 四条二坊四町 四条二坊八町	中・新シ町通錦小路下る藤岡町518 中・黒門通四条上る藤岡町514 中・三条通堀川西入横西町660	6/22~23 8/23~24 8/19~27	-0.3m以下、ふよい黄褐色砂礫の地山。 -0.64m以下、暗緑灰色砂礫の地山。 -0.96m, 平安後期の包含層 (土師器皿、須恵器壺)。-1.06m以下、黄褐色粘土の地山。	HL101 HL186 HL179	4 4 4
四条二坊九町	中・六角通池小路西入越後町185	5/26~28・31, 6/1~3	No 1 : -0.9m, 近世の土壌 (土師器皿、青磁碗、染付碗、土師器碗・壺、陶器燗鉢、白磁碗、油物、下駄、漆器碗・盆)。No 3 : -1.75m以下、ふよい黄褐色細砂の地山。本文8ページ。	HL069	4
四条二坊十一町	中・東堀川通錦小路上る四坊堀川町622-2 堀川高校	9/1, 12/20	巡回時、工事終了。	HL204	4
四条二坊十一町	中・東堀川通錦小路上る四坊堀川町622-2 堀川高校	10/22~27・28	-1.57mで時期不明の包含層 (土師器皿)。-1.75m以下、礎倉~室町の包含層 (土師器皿)。-1.79m以下、流れ堆積。	HL272	4
四条二坊十三町	中・池小路通四条上る藤本町540、錦小路 通池小路東入空也町488-1	12/10-13~17-20	No 2 : -1.3m, 平安後期の包含層 (土師器皿)。 No 3 : -0.55m, 礎倉の包含層 (土師器皿、陶器壺)。No 4 : -1.0m ~ -1.1m, 平安後期の包含層 (鉄製品、土師器皿、白磁碗、青白磁、灰釉陶器)。 -1.45m, 平安後期の土壌 (土師器皿、白磁、灰釉陶器碗)。No 5 : -0.7m, 礎倉の包含層 (土師器皿、瓦器、陶器壺)。-1.25m, 平安後期の包含層 (土師器皿・碗)。-1.65m, 平安の包含層 (土師器、緑釉陶器、黒色土師器壺)。-1.85m以下、オリブ色微砂の地山。	HL330	4
四条二坊十四町	中・錦小路通池小路東入空也町493, 493-1	7/5~8	No 1 : -1.22m以下、平安後期・室町の包含層 (土師器皿、白磁、須恵器壺)。No 2 : -1.09m, 平安後期の包含層 (緑釉陶器、灰釉陶器、土師器)。 No 3 : -0.66m, 平安後期の整地層・包含層 (灰釉陶器碗、土師器皿、瓦)。 -0.96m以下、暗灰色砂礫の地山。	HL115	4
四条三坊九町	中・室町通三条下る烏帽子屋町486, 488, 490-1	11/29~12/8	No 2 : -1.06m以下、暗褐色砂礫の地山。No 3 : -0.5m ~ -0.8m, 江戸の包含層 2 (染付・土師器皿)。 -0.95m, 時期不明の包含層 (土師器皿)。 -1.12m以下、黄褐色砂泥の地山。	HL306	5
四条三坊十三町	下・四条通烏丸東入長刀陣町26	9/8~10-13-14	No 2 : -0.9m, 中世の包含層 (陶器壺・皿、瓦)。 -1.18m以下、四条大路の踏面。-1.43m, 灰黄色微砂の地山。No 3 : 近世の井戸 4基。No 4 : -1.1m, 四条大路の北築地。-1.18m, 踏面2と北側溝 (平安末期頃の土師器皿)。本文26ページ。	HL214	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
四条三坊十四町	中・東洞院通納基跡下る元竹田町627-1-3	6/14-17・21-22	No 1 : -1.85m、時期不明の包含層(瓦器、土師器Ⅱ)。-1.9m以下、流降状堆積。No 2 : -1.15~-1.53m、露出4。-1.53m、中世の包含層(瓦器Ⅱ)。-1.9m以下、流降状堆積。No 3 : -2.5m、平安後期の土壌(土師器Ⅱ、須恵器)。	HL089	5
四条四坊八町	中・界町通三条下る遺祐町136,138,140-1	9/20-22-27	-0.99m以下、室町・近世の包含層(土師器)。	HL234	5
五条二坊七町	下・堀川通橋小路下る綾瀬川町298地一筆	8/23-25-27	No 1 : -0.7m、近世の包含層(土師器Ⅱ)。-0.9mでよい褐色砂礫の地山を切って時期不明の土壌。No 2 : -0.13m、近世の包含層。-0.32m、室町の包含層(土師器Ⅱ)。-0.49m、室町・中世の土壌・包含層(土師器Ⅱ、白磁皿、瓦器)。	HL187	4
五条二坊十一町	下・高辻通堀川東入西高辻町197	12/22-24	-0.63m、黄褐色砂礫の地山。-1.1m、平安→室町の包含層(土師器、須恵器、瓦)。	HL343	4
五条二坊十二町	下・松原通堀川小路西入橋町39-2	9/28-10/20	-1.2m以下、褐色砂礫の地山。No 1 : -1.3m、黄褐色砂礫の地山。No 2 : -0.5m、近世の包含層(土師器Ⅱ)。-0.8m、によい黄褐色砂礫の地山。No 3 : -0.7mで室町の包含層(土師器Ⅱ)。	HL245	4
五条三坊一町	下・西洞院通四条下る妙伝寺町692	9/1-3	No 1 : +0.27m、近世の包含層。-0.9m、10cm大の礫散層。No 2 : -1.75m、黄褐色砂礫の地山。No 4 : -1.32m、近世の包含層(陶器)。	HL205	5
五条三坊二町	下・新町通橋小路下る船鉾町399	7/27-8/6	-1.57m、時期不明の包含層。-1.87m以下、暗灰黄色砂礫の地山。No 5 : -1.55m、室町の包含層(須恵器、灰物陶器)。	HL146	5
五条三坊十六町	下・東洞院通四条下る元悪子町46-1	11/29-12/20	-1.85m以下、によい黄褐色砂礫の地山。No 6 : -1.6m、大規模な平安中期の土壌。No 7 : -1.1m、鎌倉の包含層(土師器Ⅱ)。	HL307	5
五条四坊二町	下・綾小路通東洞院東入神明町235,235-4	12/3-17	-1.45mで明黄褐色砂礫の地山。No 1 : -0.7m~-1.15m、江戸の包含層(土師器Ⅱ)。No 2 : -0.95m、時期不明の包含層(土師器Ⅱ)。	HL317	5
五条四坊七町	下・仏光寺通柳馬場西入東前町419-1,421	9/1-21,12/24	-1.23m、平安後期の包含層(土師器Ⅱ)。No 4 : -0.9m、平安→鎌倉の包含層(土師器Ⅱ、須恵器Ⅱ)。	HL206	5
五条四坊八町	下・綾小路通柳馬場西入綾村木町193	7/26-27	-1.5m、平安の包含層(土師器Ⅱ、須恵器Ⅱ、灰物陶器・壺、磁土器)。	HL145	5
五条四坊十一町	下・富小路通仏光寺下る筋屋町141	9/2-8,10/4-7	-0.3m以下、近世の包含層。-1.0mまで現代盛土。No 1 : -0.93m、近世の包含層。No 3 : -0.51m、江戸の包含層(染付碗)。	HL207	5
五条四坊十二町	下・松原通富小路東入松原中之町491	12/6-8-10	-1.21m、中世の包含層(陶器Ⅱ)。	HL322	5
五条四坊十四町	下・寺町通高辻上る恵比須町536-1	8/5-6	-0.13m、近世の埴地層。	HL166	5
五条四坊十四町	下・御幸町通仏光寺下る横町437 学校歴史博物館	11/8	-0.52m、焼土層。	HL291	5
六条二坊一町	下・堀川通五条上る栲本町679-1	4/22-5/6	No 1 : -0.77m、室町の包含層(陶器Ⅱ)。	HL032	4
六条二坊三町	下・黒門通五条下る栲本町594-14	8/17-19	-1.07m、時期不明の落込(土師器Ⅱ、裏、白磁碗)。	HL176	4
六条三坊一町	下・松原通西洞院東入蔵下町2-2-1、西洞院通松原下る永倉町567	6/15-17-21-22	-1.42m、平安後期の包含層(土師器Ⅱ)。No 2 : -1.05m、平安の包含層(土師器、須恵器Ⅱ、灰物陶器Ⅱ)を切って平安末期→鎌倉の土壌1(土師器Ⅱ、須恵器Ⅱ、白磁皿、陶器Ⅱ)。	HL092	5
六条三坊四町	下・西洞院通五条下る小柳町500-3-4	9/22-27	-0.6m、近世の包含層(染付、残瓦)。No 1 : -1.39~-1.69m、時期不明の落込3。1.99m以下、中世の流れ堆積(土師器Ⅱ、瓦器Ⅱ、白磁、陶器Ⅱ)。No 2 : -2.18m、時期不明の落込。-2.38m以下、黄褐色砂礫の地山。-1.5m以下、近世の西洞院川の流れ堆積層。	HL237	5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
六条三坊八町	下・新町通松原下 修徳公園	8/18~21	樋口小路北側溝および内溝と考えられる東西溝2条、近世後半の井戸・土壇数基、本瓦10ページ、-1.84mまで近世層。	HL183	5
六条四坊八町	下・松原通榎町西入杉屋町275	10/12~19		HL260	5
六条四坊十六町	下・結屋町通松原下上納形町520-522	6/17,7/23-26~29	No 1 : -1.02m以下、鎌倉・室町・近世の包含層(土師器皿、陶器鉢、焼締陶器壺、瓦器三足羽釜)。No 2 : -1.38m、平安後期の包含層(土師器皿、羽釜、白磁、須恵器壺)。敷地全体に平安後期一層倉の池。最下層は流れ堆積。	HL094	5
七条三坊一町	下・若宮通六条下る若宮町541	10/25~29,11/2	No 1 : -0.78m、平安の包含層(土師器、黒色土器、蘇州陶器)。No 2 : -0.32m、時期不明の包含層(土師器)。-0.62m、平安~鎌倉の包含層(土師器)。-1.02m以下、灰褐色砂泥の地山。	HL274	7
七条三坊三町	下・西洞院通正面下る鍛冶屋町450	8/3~30	-1.4m、平安後期の包含層(土師器皿)。-1.8m以下、暗灰褐色砂泥の地山。	HL160	7
七条三坊三町	下・新町通正面下る平野町772	9/28,10/1~4	-0.9mで黒褐色砂泥層を検出。発掘調査済の地山。	HL246	7
七条三坊四町	下・七条通新町西入興之町694	4/20~22-26	No 1 : -1.15m、室町の落込(土師器皿、陶器壺)。No 2 : -0.9m、近世の包含層。-1.25m以下、暗灰褐色砂泥の地山。	HL029	7
七条三坊九町	下・深坊町通六条下る上柳町215他7兼	9/8~10,13-16	No 1 : -0.85m、中世の包含層(土師器)。No 2 : -1.0m、室町の包含層(土師器皿)。	HL215	7
七条三坊十六町	下・不明門通花屋町上る仏具屋町 地先 不明門通梅地を下る上平野屋町 地先	6/14~8/3	No 3 : -1.2m以下、平安・室町の包含層(土師器皿、灰褐色陶器)。-1.55m以下、ふい貴褐色細砂の地山。No 4 : -0.45m以下、時期不明の路面4。	HL090	5
七条四坊三町	下・東洞院通数津屋町下る廿人蔵町35-49	8/6-10	-1.63m以下、灰褐色粗砂の地山。	HL167	7
七条四坊五町	下・七条通間之町東入村木町484	6/9~14	-0.51m、時期不明の包含層(土師器皿)。-1.41m以下、明灰褐色砂泥の地山。	HL085	7
七条四坊五町	下・間之町通七条上る囃子町~七条通高倉東入村木町 地先	7/29~8/3	-1.9mまで攪乱。	HL151	7
七条四坊十町	下・河原町通若宮町472他	6/22~7/29	-0.9m以下、流れ堆積。	HL102	7
八条一坊一町	下・観音寺町10-18	6/8	-0.95m以下、湿地堆積。	HL083	6
八条二坊一町	下・榎通木津屋橋上る榎屋町380-1,382,382-1	10/28-29	-0.15mで黒色砂泥を検出。	HL277	6
八条二坊十町	下・池小路通木津屋橋下る北不動堂町483,486	12/15	-0.9mまで現代盛土。	HL338	6
八条二坊十三町	南・西九条北ノ内町5	7/13~19	-0.8mまで現代盛土。	HL122	6
八条二坊十三町	南・西九条北ノ内町42-13-14-16の各一部	8/30	-0.99mまで現代盛土。	HL202	6
八条二坊十五町	下・塩小路通西洞院西入南不動堂町 地先	5/17~6/10	-1.11m、時期不明の包含層(土師器)。	HL056	6
八条三坊一町	下・七条通新町西入興之町721	5/14~6/2	-1.6m、平安の包含層(土師器皿、須恵器壺)。	HL055	7
八条三坊一町	下・西洞院通七条下る東塩小路町603他	10/28-29,11/2	巡回時、工事終了。	HL276	7
八条三坊五町	南・西九条北ノ内町5-5	4/12~5/31	-0.65m、コークス盛土内より近代の汽車土族の本体・蓋・湯呑が多量に出土。土族に「経路」「大津」等の駅名が記入されている。	HL008	7
八条三坊十四町	下・東塩小路町 地内	12/1~15	-1.4mまで現代盛土。	HL314	7
八条四坊十一町	下・東七条上ノ町15~西ノ町197	6/17~7/15	-3.0m以下、褐色砂泥の地山。	HL095	7
八条四坊十五町	下・川崎町12,10-2,56	12/8	-0.5mまで現代盛土。	HL327	7
九条二坊十四町	南・西九条春日町13 九条弘道小学校	11/8	-1.26m、近世の包含層(陶器)。	HL292	6
九条四坊五町	南・東九条上御堂町12-1	11/4~12/7	No 1 : -0.85m、室町の包含層(土師器皿)。No 3 : -0.7m、時期不明の包含層(土師器)。No 5 : -1.05m、平安後期の包含層(土師器皿、九瓦)。No 7 : -0.73m、時期不明の落込(土師器皿)。No 8 : -0.55m、時期不明の落込(土師器皿)。-0.7m以下、ふい貴褐色砂泥の地山。No 11 : -0.39m、時期不明の南北溝。	HL285	7
九条四坊十二町	南・東九条字賀辺町8-2・5	11/8~10	-0.97mまで現代盛土。	HL293	7
九条四坊十三町	下・東九条字賀辺町~東九条河西町 地内	8/2~30	-0.85m、時期不明の包含層(土師器皿)。以下、泥炭流れ堆積の砂層層。	HL158	7
九条四坊十六町	下・屋形町7-1	6/7~16	-1.13m以下、旧河川の流れ堆積。	HL080	7

平安京右京 (HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図説
一条大路 一条大路 一条大路 北辺三坊一町	上・一条通御前東入西町25	4/12	巡回時、工事終了。	HR011	9
	上・一条通御前東入西町25	4/12	巡回時、工事終了。	HR013	9
	上・一条通御前東入西町25	4/20	巡回時、工事終了。	HR030	9
	北・大將軍一条町173	5/17~31	調査地中央から南にかけて、-0.57mで平安前期の池状堆積 (土師器壺、須恵器杯・甕・鉢、緑釉陶器)。調査地北東部、-0.86m以下、にふい褐色砂礫の地山。	HR057	8
北辺三坊三町 一条二坊五町	北・大將軍南一条町48-2 大將軍小学校	10/13	耕作土層のみ。	HR264	8
	中・西ノ京門町19-4	10/29,11/2	-2.58m、江戸の包含層。-2.98m、時期不明の包含層。-3.43m以下、黒色礫の地山。紙屋川西岸の江戸の盛土部分。	HR280	9
一条四坊十二町	右・太秦安井小山町8-1	8/27-30	No 1 : -0.71m、室町の包含層 (土師器皿)。-0.89m、にふい褐色砂礫の地山を切って室町の土層と平安中期の池状堆積。No 2 : -0.85mで無蓋小路の西側溝。本文21ページ。	HR198	8
二条二坊一町 二条二坊十六町	中・西ノ京門町9-5	9/7~13	-1.0mまで現代盛土。	HR212	9
	中・西ノ京門町8,西門町1-1	6/4-8-9	No 1 : -0.55m、時期不明の南北方向の溝状遺構 (幅0.85m以上・深さ0.5m以上)。その西側で土積3。1基は室町 (土師器皿)。No 2 : -2.68m、厚さ0.1mのアホヤヤ火山灰層。	HR077	9
二条二坊十六町	中・九太町通南側、佐井通~西大路通 地内	11/2~24	No 6 : -0.6m、御土居の盛土。西側斜面の肩口、-1.15m、火山灰。No 7 : -0.65m、時期不明の包含層。その他は-0.64~1.15m以下、地山。	HR281	9
二条三坊七町	中・西ノ京春日町16-43	7/14~21	No 1 : -1.01m以下、にふい黄褐色微砂の地山。No 2 : -0.44m、灰黄色粘土の地山を切って平安中期の春日小路北側溝 (土師器高杯、褐釉陶器、須恵器壺)。本文22ページ。	HR124	8
二条三坊八町	中・西ノ京春日町9,16-6	6/23/24-30	No 1 : -0.43m、黄褐色泥砂の地山を切って時期不明の柱穴3、南北溝1。No 2 : -0.54mで平安中期の包含層 (土師器皿・高杯)。-0.73m以下、明褐色粘土の地山。No 3 : -0.43mで平安中期の南北溝。No 4 : -2.0mで時期不明の井戸。本文22ページ。	HR104	8
二条三坊十一町	中・西ノ京小堀池町4-1・11.5-2,16,27-1	4/1~12	-1.56mで時期不明の包含層 (土師器皿)。-1.64mで平安中期の包含層 (土師器皿)。-1.86m以下、オリブ色粘土の地山。	HR001	8
二条三坊十六町	右・花園八ツ口町10-6	11/4-5-8~12-15	No 1 : +0.13m以下、灰黄褐色砂礫の地山。No 2 : +0.6m、平安前期~中期の柱穴 (土師器・須恵器)。No 5 : +0.3m、時期不明の土層と落込。No 6 : +0.36m、時期不明の柱穴。+0.4mで時期不明の柱穴。	HR286	8
二条四坊八町	右・花園車道町1 花園小学校	11/9	-1.6mまで現代盛土。	HR297	8
二条四坊十二町	右・太秦安井柳通町14-1 安井小学校	11/8	-0.58mまで現代盛土。	HR294	8
三条一坊七町	中・西ノ京基池町 地内	10/28	-0.3m以下、にふい黄褐色砂礫の地山。	HR278	9
三条一坊十四町	中・西ノ京月光町1-13	4/1-2-5,9/20	No 1 : -0.8m以下、明褐色砂泥の地山。No 2 : -0.4m以下、黄褐色泥砂の地山。	HR002	9
三条二坊十町	中・西大路通西側、太子道~三条通 地内	5/6~6/23	No 1 : -0.57m、平安の土層 (幅0.52m・深さ0.23m、土師器)。-0.9m以下、褐色砂泥の地山。No 4 : -0.33~0.37m、路面2 (推定二条大路内)。-0.42m以下、灰色砂礫の地山。No 10 : -1.23mで時期不明の池状堆積 (土師器皿)。No 13 : -1.0m、池状堆積。No 15 : -0.65m、にふい黄褐色粘土の地山を切って弥生~古墳の落込。No 16 : -0.49m、平安の包含層 (土師器、灰釉陶器)。-0.67m、時期不明の包含層 (土師器)。-1.0m以下、明褐色粘土の地山。No 22 : -0.45~0.8m、時期不明の包含層2 (土師器)。No 23 :	HR040	9



遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No.	図版
三条四坊九町	右・太善安井二条裏町15	6/10-17	-0.45mで中世の包含層(瓦器)。-0.7m以下、明褐色砂泥の地山。No25:-0.8m、明黄褐色砂泥の地山を切って平安後期の落込(土師器皿、須恵器壺・鉢、灰釉陶器壺、緑釉陶器皿)。No26:-1.55m、平安中期の包含層(土師器、黒色土器類)。-1.65m以下、褐色粘土の地山。	HR087	8
四条一坊一町	中・壬生朱雀町27-3・4	11/30-12/8	-0.21m、時期不明の包含層(土師器皿)。-0.43m以下、褐色砂泥の地山。	HR311	11
四条一坊十五町	中・壬生中川町20-1 朱雀中学校	9/13-16	No1:-0.87m、江戸の耕作土(土師器)。-1.32m以下、黒褐色砂泥の地山。	HR223	11
四条二坊六町	中・壬生潤田町18-2	5/25-26-31	-0.4mまで現代盛土。 No1:-0.15・-0.27m、中世の包含層2(土師器皿、陶器壺)。-0.4m、池状堆積。-0.6m以下、灰色粗砂礫の地山。No2:-0.1m、時期不明の包含層(土師器皿、瓦)。-0.3m、平安中期の包含層(土師器壺)。-0.56m以下、灰褐色微砂の地山。No3:-0.31m、平安前期の踏小跡北側溝、東西11mにわたって確認。-0.56mで灰黄褐色微砂の地山。本文22ページ。	HR063	11
四条三坊三町	右・西院春日町3-1 西院小学校	11/10	-0.3mまで現代盛土。	HR299	11
四条三坊十二町	右・西院範町66.97-3.100	9/24-28	-1.1mで埋地状堆積。	HR240	10
四条四坊十町	右・山ノ内中畑町~西園町他 地内	7/29-8/30	-0.9m以下、にぶい黄色粘土の地山。	HR153	10
四条四坊十五町	右・山ノ内前町21.21-1	9/3	-0.35mまで現代盛土。	HR208	10
四条四坊十六町	右・山ノ内前町53.17-1.16の一部	11/26	-0.4mまで現代盛土。	HR305	10
五条一坊六町	中・壬生松原町53-4	5/10-13-14-17-20	調査地西側、-1.15-1.57m、平安前期の池状堆積(土師器皿、須恵器杯・壺、黒色土器碗、瓦、木片、木簡2)。本文12ページ。 No2:-0.23m、平安-鎌倉の包含層(土師器、陶器)。-0.3m、時期不明の包含層(土師器)。-0.4m、明褐色砂泥の地山。No3:-0.2m、室町の包含層(土師器皿)。-0.45m、灰色微砂の地山。No4:-0.2m、室町の包含層(土師器皿)。No1:-0.12m、平安の包含層(緑釉陶器、土師器、須恵器)。-0.36m以下、灰黄褐色砂泥の地山。No2:-0.22m、平安前期の包含層(土師器碗・高杯・壺・鉢)。-0.66m以下、灰オリーブ色砂泥の地山。No3:-0.3mで時期不明の柱穴3。-0.47m以下、暗灰黄色砂泥の地山。	HR044	11
五条二坊一町	中・壬生東土居ノ内町20 朱雀第七小学校	12/21-22-27	-0.75m、時期不明の包含層(土師器、瓦)。-0.69m以下、明黄褐色粘土の地山。	HR341	11
五条二坊十五町	右・西院北矢掛町39-3	10/12-15	No1:-1.01m以下、にぶい褐色粘土の地山。No2:-1.36m以下、灰オリーブ粘土の地山。	HR263	11
五条三坊五町	右・西院太田町14	7/19-21-23	-0.6m、室町の包含層(土師器皿)。-0.69m、包含層(土師器皿)。-1.07m以下、明褐色粘土の地山。	HR135	10
五条三坊十町	右・西院久田町77	11/9-11	+0.5-0.05m、現代盛土。	HR296	10
五条三坊十四町	右・西院日照町94.95-1-2	5/19-31	-0.9m、時期不明の包含層(瓦)。-1.15m以下、黄褐色砂泥の地山。	HR059	10
五条四坊十三町	右・西院西田町33	4/27	-0.45mまで現代盛土。	HR038	10
六条一坊二町	下・中堂寺北町9-6	9/13-14	-0.9m、時期不明の包含層(瓦)。-1.15m以下、黄褐色砂泥の地山。	HR222	11
六条一坊六町	下・中堂寺南町63-1	5/10	-0.3mまで現代盛土。	HR045	11
六条一坊八町	下・中堂寺北町23 朱雀第三小学校	10/19	調査地東端、-0.69m、時期不明の六条坊門小路北側溝、調査地西端でも確認。調査地北東角、-0.68m、北西から南東方向の時期不明の道路、-1.03m以下、にぶい黄色砂礫の地山。本文23ページ。	HR270	11
六条一坊十町	下・中堂寺庄ノ内町56-9-10-12の一部	5/13-14	-0.9m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。	HR054	11
六条二坊三町	下・西七条赤杜町31.32.50	8/9-18	-0.48m以下、暗灰黄色砂泥質の地山。	HR169	11
六条二坊四町	下・西七条赤杜町8-3	10/6	-0.56m、時期不明の包含層。	HR254	11
六条二坊六町	下・西七条東御前町23	8/25-27		HR193	11

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
六条二坊十一町	右・西院東中水町下・西七条赤土町地先	9/7~12/15	No7: -0.5m, 時期不明の土壌。No9: -0.45m, 時期不明の落込。No13: -0.27m, 時期不明の土壌。No24: -0.5m, 時期不明の包含層。No25: -0.77m, 養生~古墳の包含層(須恵器類)。 -0.46m, 耕作土。	HR211	11
六条三坊一町	右・西院神町14地	7/2-5		HR114	10
六条三坊三町	右・五条通南側, 佐井西通~西大路通 地内	9/20-22		HR235	11
六条三坊十五町	右・西院久保田町6-6の一部, 6-7の一部, 6-13の一部, 6-15の一部	8/30~12/24		HR201	10
七条一坊一町	下・朱雀分木町28-1地	11/10-29	No1・2: -0.95m以下, 黄灰色粘土の地山。	HR298	13
七条一坊十四町	下・西七条御領町32 七条中学校	7/29-9/2	-0.7m, 包含層(土師器)。-0.8m以下, 暗灰黄色砂泥の地山。	HR152	13
七条一坊十四町	下・西七条御領町32 七条中学校	9/27~10/20	-1.12m以下, 暗褐色砂泥の地山。	HR243	13
七条一坊十五町	下・東御前通, 西高瀬川~七条通 地内	7/16-9/10	No2: -0.25m, 時期不明の包含層(須恵器)。 No5: -0.47~1.07m, 路面及び壁地層5(北小路の路面?)。-1.07m以下, 黄褐色粗砂礫の地山。No12: -0.42m, 近世の包含層(陶器)。 -0.54m, 時期不明の包含層(土師器)。-0.76m以下, 黄褐色砂泥の地山。No16~20: -1.02m以下, 黄褐色砂泥の地山。	HR130	13
七条二坊五町	下・西七条北西野町39-1	12/8-10	No1: -0.33m, 窪地状堆積。-0.7m, 鎌倉の包含層(土師器, 須恵器, 瓦器, 白磁)。No2: -0.5m, 平安のピット(土師器・須恵器)。-0.6m, 平安~鎌倉のピット(土師器・瓦器)。-0.63mで暗オリーブ色砂泥の地山を切って鎌倉の土壌(土師器・瓦器・須恵器)。	HR328	13
七条二坊十五町	下・西七条八幡町~西七条番地町	8/26-9/10	-1.15m以下, 黄褐色砂礫の地山。	HR196	13
七条三坊一町	右・西院西中水町3, 清崎町20, 下・西七条八幡町5 名倉児童公園	12/10-13-15	-0.91m以下, 褐色砂泥の地山。	HR332	12
七条三坊四町	下・花屋町通~七条通, 佐井通~西大路通 地内	6/14~10/18	No27: -0.9m, 時期不明と平安の落込2。No28: -0.6m, 佐井川の底状堆積。No33: -1.05m, 野寺小路の路面。No36-37: -0.96~1.17m, 北小路の路面。No39: -1.04m, 佐井大路路面と平安~中世の佐井川の落込。No40: -0.57m, 佐井大路の路面。No41-42・44・46: -0.5m以下, 佐井川の堆積。No43: -1.0~1.35m, 佐井大路の路面。本文28ページ。	HR091	13
七条三坊十一町	右・西京極中溝町 地内	8/19-20	-0.8~0.9m, 平安の包含層(須恵器蓋, 土師器)。	HR180	12
八条二坊十二町	下・七条御所ノ内木町89-2-3の一部	10/12	+0.4~0mまで現代盛土。	HR262	13
八条二坊十六町	下・西七条南衣田町12-3	12/20~21	-0.43m, 時期不明の包含層(土師器)。-0.6m, 時期不明の包含層(陶器)。-0.9m, 平安前期~鎌倉の窪地状堆積(土師器, 灰輪陶器)。	HR340	13
八条三坊十六町	右・西京極佃田町11-4-9-40	8/2-4	-2.2m以下, 耕作土。	HR155	12
九条一坊十三町	南・唐橋西寺町20-1	8/2-9/21		HR156	13
九条一坊十三町	南・唐橋西寺町20-2	8/2-10/13		HR157	13
九条二坊八町	下・南・西大路通河原, 八条通~九条通地内	6/21~10/26	No4: -0.4m, 時期不明の包含層(土師器, 須恵器)。-0.96m, 板を横出, 板の下層から横山~江戸の包含層(土師器類, 陶器類)。墓の可能性あり。No5: -0.6m, 中世の包含層。No10: -0.5~1.32m, 池状堆積。以下, 灰オリーブ砂礫の地山。No16: -1.06m, 時期不明の包含層(須恵器杯・甕)。No27: -0.85m以下, 黄灰色砂礫の地山。	HR098	13
九条二坊十二町	南・唐橋西平垣町7	4/26	-1.11m以下, 泥れ堆積。	HR035	13
九条二坊十三町	南・唐橋西平垣町13-1	6/9, 8/16		HR086	13
九条三坊十五町	南・吉神橋河原町22, 23, 24, 25	12/3-15	No1: -1.06m以下, 黄灰色粘土の地山。	HR318	12

洛北地区 (RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
植物園北遺跡	北・上賀茂岩ヶ垣内町100	4/14-15-19	調査地東北端で古墳の整柱住居2 (庄内~布留式の土器)。本文2階ベージュ。 -0.47m以下、オリブ灰色粘土の地山。	RH018	15-5
植物園北遺跡	左・下鴨南芝町47-3	6/4-8-9		RH076	15-5
植物園北遺跡	北・上賀茂神田町90	6/7-10	-0.48m、室町の包含層 (土師器Ⅱ)。-0.8m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。	RH081	15-5
植物園北遺跡	左・松ヶ崎芝本町12-1	6/28-29	-0.5mで古墳の包含層 (土師器Ⅱ)。-0.55mで古墳の柱穴 (土師器Ⅱ・Ⅲ)。-0.67m以下、明褐色砂泥の地山。	RH111	15-5
植物園北遺跡	北・上賀茂本山~北大路町他 地内	8/24~10/26	No 3 : -0.36m、時期不明の包含層。-0.5m以下、褐色砂泥の地山。No 5 : -0.25m ~ -0.38m、時期不明の踏面2。-0.5m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。No 6 : -0.55m、時期不明の踏面。No 18 : -0.2m、時期不明の包含層。-0.8m以下、明褐色砂泥の地山。	RH191	15-5
植物園北遺跡	左・下鴨南芝町51.51-4	8/26-27	-0.05m、耕作土。-0.85m以下、灰黄色粗砂の地山。	RH197	15-5
植物園北遺跡	北・上賀茂神崎町81	10/18-20-22	No 1 : -0.06m、耕作土。-0.26m、時期不明の包含層。-0.74m以下、褐色砂泥の地山。No 2 : +0.03m、耕作土。-0.06m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。	RH268	15-5
植物園北遺跡	北・上賀茂烏帽子ヶ垣内町1 上賀茂小学校	12/3	No 1 : -1.4m以下、褐色砂泥の地山。No 2 : -0.73m、褐色粘土の地山を切って時期不明の層達。No 3 : -1.0m、褐色砂泥の地山。	RH316	15-5
植物園北遺跡・ 神宮寺跡	北・上賀茂山本町53、54	10/13-20	No 1 : -0.88mまで近世以降の包含層。No 2 : -0.49m、岩盤。	RH265	15-5
北野遺跡	上・一条通御前西入西町27.26-1.25-1-2-4	5/11-21	-1.0mで近世の層達 (瓦)。-1.25m以下、黄褐色砂泥の地山。	RH048	14-3
北野遺跡	上・一条通御前西入西町	7/19-29	平安前期の南北溝1条、室町の柱穴3基。本文2階ベージュ。	RH132	14-3
北野遺跡	上・一条通御前西入西町2-3	7/21	-0.4mまで現代遺土。	RH138	14-3
北野遺跡	北・北野紅梅町22	10/8	+0.1mまで現代遺土。	RH255	14-3
北野廃寺・ 北野遺跡	北・北野東紅梅町 地先	8/23	-1.05mまで現代遺土。	RH184	14-3
北野廃寺・ 北野遺跡	北・北野下白梅町44-2	9/6	巡回時、工事終了。	RH210	14-3
専重寺跡	上・五辻通淨福寺東入一色町3.5-2	8/17-18	No 1 : -0.45m、近世の整地層。-0.83m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。No 2 : -1.66m以下、黄褐色粗砂の地山。	RH175	14-1
相国寺旧境内	上・室町通上立売上室町額町266-2-3	12/7-9	No 2 : -1.8m、時期不明の包含層 (土師器Ⅱ)。	RH325	14-2
聚楽第跡	上・一条通、千本通~智恵光院通	4/5-6/9	No 3 : -0.2~1.0m、時期不明の踏面・整地層。	RH003	14-4
聚楽第跡	上・一条通千本通入伊勢殿横町~一条通智恵光院西入北新在家町 地先	8/20-10/21	No 3・9・18 : 江戸以降の踏面。No 18 : -0.74mで室町~近世の包含層 (土師器Ⅱ、Ⅲ)。	RH182	14-4
岩倉忠在地遺跡	左・岩倉下在地町 洛北第二区画整理地区公園	8/26-27	No 1 ~ 4 : 黄褐色系の地山。 -1.7m以下、褐色砂泥の地山。	RH194	15-3

太秦地区 (UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
円宗寺跡・ 円宗寺跡	右・一条通鳴滝本町~御室大内	9/20-22-28	巡回時、工事終了。	UZ236	17-1
円宗寺跡	右・御室大内~電安寺塔ノ下町	8/9-9/17	-0.18~0.35m以下、黄褐色系の地山。	UZ170	17-1
常盤仲之町遺跡	右・常盤藤町1-16-17-141	4/19-22-26	-0.65m以下、灰オリブ色砂泥の地山。	UZ262	16
広隆寺旧境内	右・太露崎岡町31 右京区役所	6/23	-0.7mまで現代遺土。	UZ105	16

## 北白川地区 (KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
法成寺跡	上・寛神口通河原町東入上生州町197	5/11~14, 12/8/10	調査地南西部、-1.0mで近世の北西から南東方向の中川の放水跡を検出。水路は水路幅約1.8m、兩岸は3段(1.1m)以上の石積。水路上に長さ約2.3mの重石を10本確認。重石はこれより北側では検出できず。	KS050	19-1
田中橋之跡	左・田中門前町他 地内	5/28	巡回時、工事終了。	KS068	18
北白川廃寺	左・北白川大堂町53	6/8-9	調査地南西部、-0.71m、室町の包含層(土師器Ⅱ)、-0.91m、時期不明の包含層(平瓦、縄文土師)。-1.06m、飛鳥の包含層(土師器杯・甕)。	KS082	15-2
北白川廃寺・上杉町遺跡	左・北白川東瀬ノ内町15-2・4	5/11-13	0m、白黒期の包含層(瓦)。	KS049	15-2
北白川廃寺・上杉町遺跡	左・北白川東瀬ノ内町50-1の一部	10/4-5	-0.4mまで現代盛土。	KS249	15-2
亀田町古墳群	左・北白川下池田町109-1	9/9-10	-0.66m~-0.74m、時期不明の包含層2(土師器)。	KS216	15-2
岡崎遺跡	左・岡崎入江町1 錦林小学校	11/11-15	0m、近世の包含層。	KS300	18
白河街区跡	左・岡崎東福ノ川町9 白河養護学校	4/12	-2.0mまで現代盛土。	KS009	18
白河街区跡	左・岡崎北御所町	4/19~21, 8/16	-0.67m以下、灰白色微砂の地山。	KS025	18
白河街区跡	左・岡崎道両側、春日北通~九水町通 地内	12/6~22	№2: -0.3m以下、黄褐色粗砂の地山。№4: -0.65m以下、灰白色砂泥の地山。№6: -0.4m以下、黒褐色粘土の地山。№7: -1.07m以下、灰白色砂礫の地山。№8: -0.65m以下、にぶい黄褐色粘土の地山。	KS323	18
岡崎遺跡・延勝寺跡隣地	左・仁王門通新高倉東入北門前町488	5/7-10	-0.15mまで現代盛土。	KS041	18
岡崎遺跡・草勝寺跡	左・室議院岡嶺英町	4/20	-0.9m以下、にぶい黄褐色細砂の地山。	KS028	18
岡崎遺跡・得長寿院跡	左・岡崎徳成町5	4/13-19	-0.5m以下、流れ堆積。	KS017	18

## 南・桂地区 (MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
中久世遺跡	南・久世中久世町四丁目19, 20	8/3-4	-0.52m、飛鳥の包含層(須恵器)、-0.6m、庄内期の土師器を含む強地状の堆積。	MK161	27-2
中久世遺跡	南・久世中久世町4丁目61-1	10/19~22, 25	№1: -0.15m、時期不明の包含層、-0.27m~-0.37m、平安中期の包含層(土師器杯)、-0.53m、時期不明のピット、-0.53m以下、黄灰色砂礫の地山。№2: -0.35m、古墳時代の包含層(土師器、須恵器)、-0.48m、古墳時代の落込(土師器高杯・甕・壺)。№3: -0.22m以下、灰褐色砂礫の地山。	MK269	27-2
中久世遺跡	南・久世殿崎町1.2, 6, 7, 9, 10	11/29-30	99年試掘調査決地。試掘調査で検出した遺構の延長部を確認。	MK310	27-2
松尾十三家古墳群	西・松室追上ヶ町他 地内	4/16~5/12	調査地北側、-1.0m前後で黄色系砂泥・粘土の地山。調査地南側、-1.0m前後で灰色系粘土の乱地堆積。	MK021	19-5
草嶋館跡	西・川島玉須町38	11/11	-0.4mまで現代盛土。	MK301	19-4
上里北ノ町遺跡	西・大原野石見町61-2	7/16-19	-1.04m以下、明黄褐色粘土の地山。	MK131	27-1

洛東地区 (RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
法興院跡	中・河原町通奥川上る指物町325	11/16-18・19	No.2 : -1.3m ~ -1.45m. 近世の流れ堆積層2 (陶器)。No.3 : -1.6m. 流れ堆積層 (平瓦)。 -1.5m以下、明褐色砂泥粘質の地山。	RT302	21-3
高辻野・志山遺跡	東・今熊野阿弥陀寺跡町	5/25~9/21	No.16・17・19 : -0.75~0.9m. 朝日通の路面・ 整地層3~5。No.24・25 : -0.96m ~ -1.13m. 近世の正面通路層2 (陶器瓦)。	RT064 RT034	21-1 20
六波羅政庁跡	東・朝日通五条下る朝町一丁目~正面通川 堀東入壁屋町 地先	4/26~7/8	調査地南側、-0.35m. 時期不明の包含層 (土 師器)。-0.5m以下、灰白色砂泥の地山。調査 地北側、-2.0mまで近代の清水會羽川を進めた 礎土。	RT096	20
六波羅政庁跡	東・五条橋東4丁目417	6/17~22	No.7 : -1.3m. 室町の包含層 (土師器瓦多量)。 No.6 : -1.22m以下、暗灰黄色粘土の地山。 0m. 江戸の包含層。-1.3m以下、流れ堆積。 +0.41mで時期不明の柱穴2 (土師器)・土塼。 No.1 : -0.8m以下、暗灰黄色砂泥の地山。No.2 : -0.95m. 時期不明の土塼。 -0.3m. 時期不明の包含層。-0.46m以下、褐 色砂泥の地山。	RT273	20
六波羅政庁跡	東・本町2丁目194	10/22~11/10	No.7 : -1.3m. 室町の包含層 (土師器瓦多量)。 No.6 : -1.22m以下、暗灰黄色粘土の地山。 0m. 江戸の包含層。-1.3m以下、流れ堆積。 +0.41mで時期不明の柱穴2 (土師器)・土塼。 No.1 : -0.8m以下、暗灰黄色砂泥の地山。No.2 : -0.95m. 時期不明の土塼。 -0.3m. 時期不明の包含層。-0.46m以下、褐 色砂泥の地山。	RT303 RT217	20 20
六波羅政庁跡	東・本町2丁目74.76-2	11/19・22	No.1 : -0.8m以下、暗灰黄色砂泥の地山。No.2 : -0.95m. 時期不明の土塼。 -0.3m. 時期不明の包含層。-0.46m以下、褐 色砂泥の地山。	RT121	21-6
法住寺遺跡	東・今熊野橋ノ森町15-1・2・3・4・42	9/9-10	-0.3m. 時期不明の包含層。-0.46m以下、褐 色砂泥の地山。	RT039	21-2
安永遺跡	山・安永中小路町4-2	7/9-12-13	-0.85m. 近世の耕作土。 -0.4mまで耕作土。 -0.4m以下、黄褐色砂泥の地山。 -0.8mまで現代盛土。 -0.3mまで現代盛土。 -0.5mまで現代盛土。 -0.2mまで現代盛土。	RT165 RT172 RT226 RT242 RT309 RT315 RT074	21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2
中臣遺跡	山・西野山中臣町26-57	5/6-7	-0.85m. 近世の耕作土。 -0.4mまで耕作土。 -0.4m以下、黄褐色砂泥の地山。 -0.8mまで現代盛土。 -0.3mまで現代盛土。 -0.5mまで現代盛土。 -0.2mまで現代盛土。	RT165 RT172 RT226 RT242 RT309 RT315 RT074	21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2
中臣遺跡	山・勤修寺東栗畑野町42 勤修小学校	8/5~6.12/24	-0.85m. 近世の耕作土。 -0.4mまで耕作土。 -0.4m以下、黄褐色砂泥の地山。 -0.8mまで現代盛土。 -0.3mまで現代盛土。 -0.5mまで現代盛土。 -0.2mまで現代盛土。	RT165 RT172 RT226 RT242 RT309 RT315 RT074	21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2
中臣遺跡	山・東野森野町1-1	8/9	-0.85m. 近世の耕作土。 -0.4mまで耕作土。 -0.4m以下、黄褐色砂泥の地山。 -0.8mまで現代盛土。 -0.3mまで現代盛土。 -0.5mまで現代盛土。 -0.2mまで現代盛土。	RT165 RT172 RT226 RT242 RT309 RT315 RT074	21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2
中臣遺跡	山・栗野野打越町7-10	9/14	-0.85m. 近世の耕作土。 -0.4mまで耕作土。 -0.4m以下、黄褐色砂泥の地山。 -0.8mまで現代盛土。 -0.3mまで現代盛土。 -0.5mまで現代盛土。 -0.2mまで現代盛土。	RT165 RT172 RT226 RT242 RT309 RT315 RT074	21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2
中臣遺跡	山・栗野野打越町41-1	9/27	-0.85m. 近世の耕作土。 -0.4mまで耕作土。 -0.4m以下、黄褐色砂泥の地山。 -0.8mまで現代盛土。 -0.3mまで現代盛土。 -0.5mまで現代盛土。 -0.2mまで現代盛土。	RT165 RT172 RT226 RT242 RT309 RT315 RT074	21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2
中臣遺跡	山・西野山中臣町72-26-5	11/29	-0.85m. 近世の耕作土。 -0.4mまで耕作土。 -0.4m以下、黄褐色砂泥の地山。 -0.8mまで現代盛土。 -0.3mまで現代盛土。 -0.5mまで現代盛土。 -0.2mまで現代盛土。	RT165 RT172 RT226 RT242 RT309 RT315 RT074	21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2
中臣遺跡	山・東野舞台町74-4	12/1	-0.85m. 近世の耕作土。 -0.4mまで耕作土。 -0.4m以下、黄褐色砂泥の地山。 -0.8mまで現代盛土。 -0.3mまで現代盛土。 -0.5mまで現代盛土。 -0.2mまで現代盛土。	RT165 RT172 RT226 RT242 RT309 RT315 RT074	21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2
中臣遺跡	山・西野山中臣町44-5	5/31	-0.85m. 近世の耕作土。 -0.4mまで耕作土。 -0.4m以下、黄褐色砂泥の地山。 -0.8mまで現代盛土。 -0.3mまで現代盛土。 -0.5mまで現代盛土。 -0.2mまで現代盛土。	RT165 RT172 RT226 RT242 RT309 RT315 RT074	21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2 21-2
中臣十三塚					

鳥羽地区 (TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
吉祥院竹瓦城跡	南・吉祥院西ノ内町27	7/19	-1.4mまで現代盛土。	TB136	19-3
深草遺跡	伏・深草町通町19	11/2・4・5・8・9	No.1・2・3 : -0.4~0.92m. 弥生の流路 (弥 生土器類)。No.4 : -1.1mで弥生の包含層。-1.31 m以下、にぶい褐色粘土の地山。 -0.16mまで現代盛土。 No.2 : -1.33m. 平安後期の包含層 (瓦師器)。 No.6 : -1.2m. 埋地堆積。 -1.35mまで耕作土。 -0.9m. 江戸の包含層 (陶器、抱衣蓋)。 返田時、工事終了。	TB284	23-5
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄智観院町82.84.86	4/21	-0.16mまで現代盛土。 No.2 : -1.33m. 平安後期の包含層 (瓦師器)。 No.6 : -1.2m. 埋地堆積。 -1.35mまで耕作土。 -0.9m. 江戸の包含層 (陶器、抱衣蓋)。 返田時、工事終了。	TB031	22
鳥羽離宮跡	伏・中島北ノ口町 地先	7/15~28	-0.16mまで現代盛土。 No.2 : -1.33m. 平安後期の包含層 (瓦師器)。 No.6 : -1.2m. 埋地堆積。 -1.35mまで耕作土。 -0.9m. 江戸の包含層 (陶器、抱衣蓋)。 返田時、工事終了。	TB128	22
鳥羽離宮跡	伏・竹田浄智観院町 地先	8/31.9/1・2	-0.16mまで現代盛土。 No.2 : -1.33m. 平安後期の包含層 (瓦師器)。 No.6 : -1.2m. 埋地堆積。 -1.35mまで耕作土。 -0.9m. 江戸の包含層 (陶器、抱衣蓋)。 返田時、工事終了。	TB203	22
鳥羽離宮跡	伏・中島山町123	12/3	-0.16mまで現代盛土。 No.2 : -1.33m. 平安後期の包含層 (瓦師器)。 No.6 : -1.2m. 埋地堆積。 -1.35mまで耕作土。 -0.9m. 江戸の包含層 (陶器、抱衣蓋)。 返田時、工事終了。	TB319	22
鳥羽離宮跡	伏・竹田真地木町~竹田西種ノ井町	5/28.5/31	-0.16mまで現代盛土。 No.2 : -1.33m. 平安後期の包含層 (瓦師器)。 No.6 : -1.2m. 埋地堆積。 -1.35mまで耕作土。 -0.9m. 江戸の包含層 (陶器、抱衣蓋)。 返田時、工事終了。	TB070	22
鳥羽遺跡	伏・竹田真地木町153.154.179	5/28	-0.16mまで現代盛土。 No.2 : -1.33m. 平安後期の包含層 (瓦師器)。 No.6 : -1.2m. 埋地堆積。 -1.35mまで耕作土。 -0.9m. 江戸の包含層 (陶器、抱衣蓋)。 返田時、工事終了。	TB071	22
鳥羽遺跡	伏・中島御所ノ内町35	9/16	-0.16mまで現代盛土。 No.2 : -1.33m. 平安後期の包含層 (瓦師器)。 No.6 : -1.2m. 埋地堆積。 -1.35mまで耕作土。 -0.9m. 江戸の包含層 (陶器、抱衣蓋)。 返田時、工事終了。	TB231	22
鳥羽遺跡	伏・中島御所ノ内町35	11/29	-0.16mまで現代盛土。 No.2 : -1.33m. 平安後期の包含層 (瓦師器)。 No.6 : -1.2m. 埋地堆積。 -1.35mまで耕作土。 -0.9m. 江戸の包含層 (陶器、抱衣蓋)。 返田時、工事終了。	TB308	22
鳥羽遺跡	伏・竹田内畑町53	11/29~12/10	-0.16mまで現代盛土。 No.2 : -1.33m. 平安後期の包含層 (瓦師器)。 No.6 : -1.2m. 埋地堆積。 -1.35mまで耕作土。 -0.9m. 江戸の包含層 (陶器、抱衣蓋)。 返田時、工事終了。	TB312	22
鳥羽遺跡	伏・竹田内畑町53	11/29~12/10	-0.16mまで現代盛土。 No.2 : -1.33m. 平安後期の包含層 (瓦師器)。 No.6 : -1.2m. 埋地堆積。 -1.35mまで耕作土。 -0.9m. 江戸の包含層 (陶器、抱衣蓋)。 返田時、工事終了。	TB312	22
下鳥羽遺跡	伏・下鳥羽家原川町17.18	6/11・21	-1.2mで灰褐色砂泥を検出。 No.1 : -0.4m. 時期不明の路面。No.2~4 : - 0.75m以下、埋地堆積。No.6 : -0.95m. 中世 の包含層 (染織陶器)。-1.25m. 流れ堆積層。	TB097 TB118	22 26-2
久我遺跡	伏・久我本町~久我御旗町	7/7~19	-1.2mで灰褐色砂泥を検出。 No.1 : -0.4m. 時期不明の路面。No.2~4 : - 0.75m以下、埋地堆積。No.6 : -0.95m. 中世 の包含層 (染織陶器)。-1.25m. 流れ堆積層。	TB097 TB118	22 26-2

## 伏見・醍醐地区 (FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
深草寺跡・寺本跡跡	伏・深草西出町6-3・4	10/5-6-18-21	No 1 : +1.14m以下、 No 2・6 : +1.41m、壺町の土壌(土師器重)、 No 7 : +0.48m、江戸の包含層。	FD253	23-3
醍醐南寺跡	伏・醍醐西大路町 地内	6/8-9	-0.8m以下、黄褐色粘土の地山、	FD078	23-2
小栗稻造跡	伏・小栗橋石川町地 地内	9/16-28	-0.3m以下、灰白色微砂の地山、-1.05m、灰 色砂泥の火山灰。	FD232	23-4
伏見城跡	伏・桃山町鶴島18-1 地先	4/6-12	-1.4mまで現代盛土。	FD007	24
伏見城跡	伏・片原町286-1-2	4/14	-0.7mまで現代盛土。	FD019	24
伏見城跡	伏・両替町十一丁目250、251	5/24-8/18	-1.11m以下、明赤褐色砂泥の地山、	FD065	24
伏見城跡	伏・魚屋町566、564-1	6/21-24	No 1 : -0.79m、-1.11m、江戸の包含層2 (陶 器碗・皿・盤、瓦)、No 2 : -0.34m、-0.4m、 聖地層2、-0.61m以下、黄褐色粗砂の地山、	FD099	24
伏見城跡	伏・東組町681	6/21-22	-0.41mで褐色砂泥を被出。	FD100	24
伏見城跡	伏・桃山豊上町~桃山井伊掃部東町地 内(国道24号越西側及び東側歩道)	7/1-8/18	-0.45mで時期不明の路面、-0.55mで時期不明 の溝、-0.8m以下、明黄褐色砂泥の地山、	FD112	24
伏見城跡	伏・桃山町伊藤12 桃山東小学校	7/27-28、8/3-9	-1.6mまで現代盛土。	FD147	25
伏見城跡	伏・大亀谷万輪堂町 地先	9/17-11/2	-0.5-1.1m以下、黄褐色系の地山、	FD229	25
伏見城跡	伏・両替町四丁目314	9/16-17-20	-0.72m以下、 No 1 : -1.71m、近世の包含層、No 2 : -2.11m、 No 3 : -0.6m以下、灰白色粗砂の地山、-0.97 m、褐色粘土の火山灰、No 3-8 : -0.25-0.39 m、細砂・粗砂の地山、No12-26 : -0.2-0.6 m、粗砂・粘土の地山、	FD230	24
伏見城跡	伏・新町五丁目507、508	12/10-13-14	に No 1 : -1.71m、近世の包含層、No 2 : -2.11m、 No 3 : -0.6m以下、灰白色粗砂の地山、-0.97 m、褐色粘土の火山灰、No 3-8 : -0.25-0.39 m、細砂・粗砂の地山、No12-26 : -0.2-0.6 m、粗砂・粘土の地山、	FD333	24
伏見城跡・ 黄金塚古墳1号墳	伏・桃山町道山 地先	6/22-8/26	No 2 : -0.6m以下、灰白色粗砂の地山、-0.97 m、褐色粘土の火山灰、No 3-8 : -0.25-0.39 m、細砂・粗砂の地山、No12-26 : -0.2-0.6 m、粗砂・粘土の地山、	FD103	25
伏見城跡・ 金堀出雲遺跡	伏・桃山羽樂長吉中町46-1-37	7/7-9	No 1 : -2.97mで包含層(土師器、布目瓦)、-3.11 m以下、明褐色粘土の地山、No 2 : -0.65m、 近世の土壌。	FD119	24

## 長岡京地区 (NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
左京北道四町一町・ 大蔵遺跡	南・久世大蔵町330	5/12	巡回時、工事終了。	NG651	27-2
左京一条三坊十四町 左京二条四坊一町・ 東土川遺跡	南・久世東土川町252の一部 南・久世東土川町367-1	9/10 4/5-7-12-16	-0.55mまで現代盛土。 -0.3mまで現代盛土。	NG219 NG006	28 28
左京三条四坊十三町 左京五条三坊十一町 左京五条西坊十六町・ 長黒遺跡	伏・久我森の宮町 地先 伏・羽東師妻川町221他 伏・羽東師妻水町185-1、186-1	11/1-18 11/11 8/9	No 6 : -0.95m、時期不明の包含層(須恵器)。 -0.95m、耕作土。 -1.0mまで現代盛土。	NG282 NG287 NG171	28 28 28
左京七条三坊十三町	伏・淀橋町386、387	8/6-9	-0.3m、近世の包含層(陶器鉢)。 -0.34m以下、 砂礫層。	NG168	26-4
右京一条四坊三町・ 上里遺跡	西・大原野石見町~大原野上里南ノ町 地 内	10/26-11/19	-0.6m、耕作土、No 7 : -0.83m、時期不明の 道路の整地層。	NG275	27-1

III 1997年度

長岡京地区 (NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査No	図版
左京六条四坊・久我東町遺跡	伏・羽東跡古川町 地先～役大下津町 地先	'97/1/6～ '99/12/8	No 3 : -3.6m、鎌倉の溝状遺構 (土師器皿、瓦器碗)。底部で同時代の土壇とピット。No 5 : -3.6m、江戸の河川。No 6 : No 5 の河川の延長部を確認。枕列が残存。No 7 : -4.55m以下、平安～中世の沓履層積層 (土器)。No 8 : 羽東跡構、-3.8m以下、鎌倉の沓履層積層 (土器)。本文41ページ。	97NG384	26- 3・4
右京北辺田村町・上里城跡	西・大原野上里南ノ町	'98/2/23～ '99/12/8	No 1 : -0.23m、時期不明の土壇。No13 : -0.8 m、室町の露込。No16 : -0.35m、古墳の包含層 (土師器・須恵器)。No15 : -0.49m、古墳の包含層 (土師器)。No19 : -0.25m、中世の包含層 (陶器・須恵器)。No22 : -0.06m、路面 6。-0.32 m、時期不明の南北の溝状遺構。No29 : -0.2～0.3m、時期不明の土壇 2、露込 1。	97NG462	27-1
右京一条西拾十四町	西・大原野石見町	'97/4/28～ '99/12/8	No 1 : -1.6m以下、褐色砂の地山。No 2 : -0.5 m以下、暗褐色砂礫の地山。No 3 : -2.3m以下、灰黄褐色砂礫の地山。No 4 : -0.2m、時期不明の路面。-0.3m、時期不明の包含層 (土師器皿)。-0.95m以下、よい黄褐色砂礫の地山。No 5 : -0.62m以下、黄褐色砂礫粘質の地山。	97NG048	27-1

## 報告書抄録

ふりがな	きょうとしなにいせきたちあいちょうさかいほう							
書名	京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	加納敬二、近藤幸子、菅田 薫、長戸尚男、西村洋子、平尾政幸、吉本健吾、モンベティ恭代、電子正彦							
編集機関	朝京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	〒602-8435 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1 TEL075-415-0521							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-0925 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488 TEL075-222-3108							
発行年月日	西暦2000年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北 緯	東 緯	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京跡 左京北辺四坊、 一条三坊・四坊	京都府京都市上京区 京都御苑	26100		35度1分19秒	135度45分52秒	1999.1.26～ 8.24		上水道布設・ 電気配線・ 下水道工事
平安京跡 左京二坊	京都府京都市中京区 六角通油小路西入 越後町	26100		35度0分15秒	135度45分18秒	1999.5.26～ 6.3		集合住宅
平安京跡 左京三坊	京都府京都市下京区 新町通松原下る藤原 公園	26100		34度59分40秒	135度45分36秒	1999.8.18～ 8.21		防火水槽
平安京跡 右京五条 一坊六町	京都府京都市中京区 王生松原町	26100		34度59分51秒	135度44分37秒	1999.5.10～ 5.20		集合住宅
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
平安京跡 左京北辺四坊、 一条三坊・四坊	都城	江戸	石組み構		土器類			
平安京跡 左京四条 二坊九町	都城	江戸	池		土器類・漆器類			
平安京跡 左京六条 三坊八町	都城	鎌倉～江戸	溝・井戸		土器類			
平安京跡 右京五条 一坊六町	都城	平安	池状堆積		土器類・木簡			



ふりがな	きょうとしなにいせきたちあいちょうきがいはう							
書名	京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	加納敬二、近藤幸子、菅田 薫、長戸潤男、西村洋子、平尾政幸、吉本健吾、モンベティ恭代、電子正彦							
編集機関	京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	〒602-8435 京都市上京区今出川通大宮東人元伊伎町285-1 TEL075-415-0521							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-0925 京都市中京区寺町通御池上、上本能寺前町488 TEL075-222-3108							
発行年月日	西暦2000年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京跡右京七条二坊・西院跡衣田町遺跡	京都府京都市下京区西七条西石ヶ坪町・他	26100		34度59分17秒	135度44分20秒	1999. 1. 26～ 3. 2		公共下水道工事
朱雀大路・他	京都府京都市中京区西ノ京職町・他	26100		35度0分29秒	135度44分45秒	1999. 2. 8～ 12. 8		公共下水道工事・他
植物園北遺跡	京都府京都市北区上賀茂若ヶ塚内町	26100		35度2分58秒	135度46分11秒	1999. 4. 14～ 4. 19		集合住宅
北野遺跡	京都府京都市上京区一条通御南西入西町	26100		35度1分26秒	135度44分9秒	1999. 7. 19～ 7. 29		集合住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京右京七条二坊・西院跡衣田町遺跡	都城	弥生・平安	竪穴住居・溝	土器類				
朱雀大路・他	都城	平安～江戸	溝・路面	土器類				
植物園北遺跡	集落	古墳・平安	竪穴住居・溝	土器類				
北野遺跡	集落	平安～室町	溝・屋柱建物	土器類				

ふりがな	きょうとしなにいせきたちあいちようきがいはう							
書名	京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編者名	加納敏二、近藤幸子、菅田 薫、長戸潤男、西村洋子、平尾政幸、吉本健吾、モンベディ恭代、電子正彦							
編集機関	御京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	〒602-8435 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1 TEL075-415-0521							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-0925 京都市中京区寺町通御池上も上本能寺前町488 TEL075-222-3108							
発行年月日	西暦2000年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
伏見城跡	京都市伏見区 桃山御土町	26100		34度55分50秒	135度46分25秒	1999.3.10- 4.28		住宅
長岡京跡	京都市伏見区 別所古川町・他	26100		34度54分31秒	135度43分7秒	1998.1.6- 1999.12.6		河川改修
堀七ツ塚古墳群	京都市右京区 北地地調ノ内町・他	26100		35度1分37秒	135度41分12秒	1998.11.24- 1999.2.15		農業関連道路 整備工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
伏見城跡	城郭	桃山～江戸	石垣	瓦類				
長岡京跡	都城	鎌倉～江戸	溝・河川	土器類				
堀七ツ塚古墳群	古墳	古墳・平安	土壇・溝	土器類				

圖 面

### 凡 例

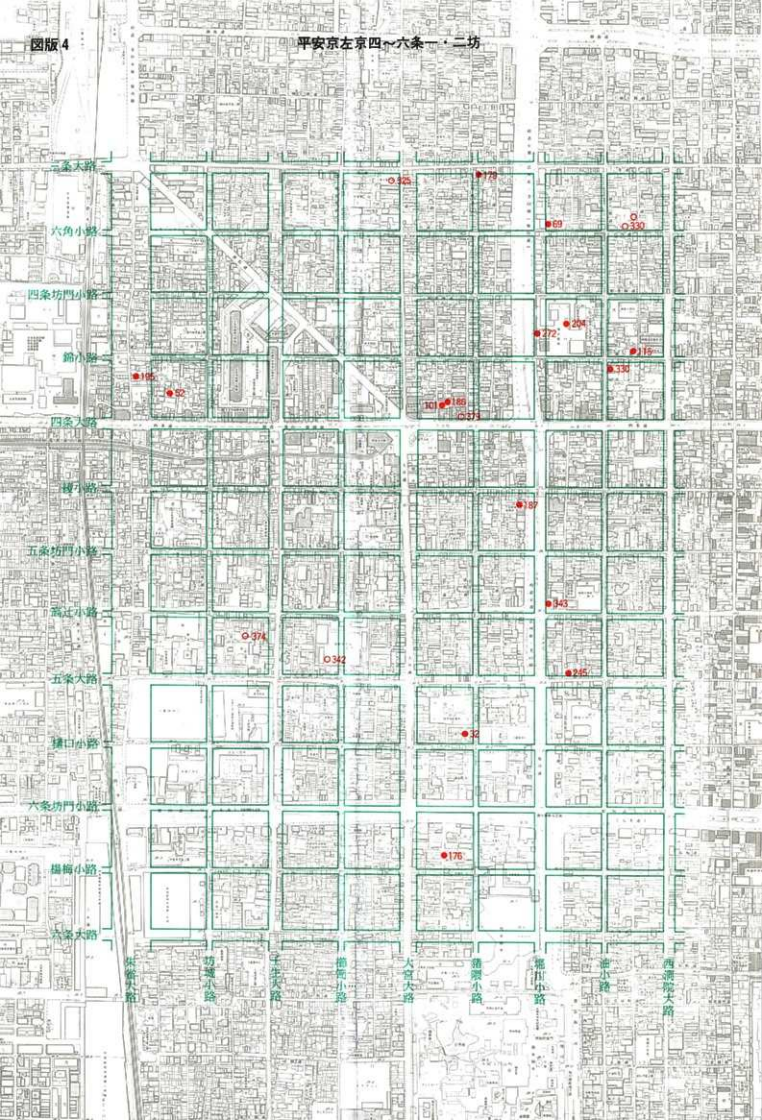
- 1997年度立会調査地点
- ..... 1998年度立会調査地点
- —— 1999年度立会調査地点



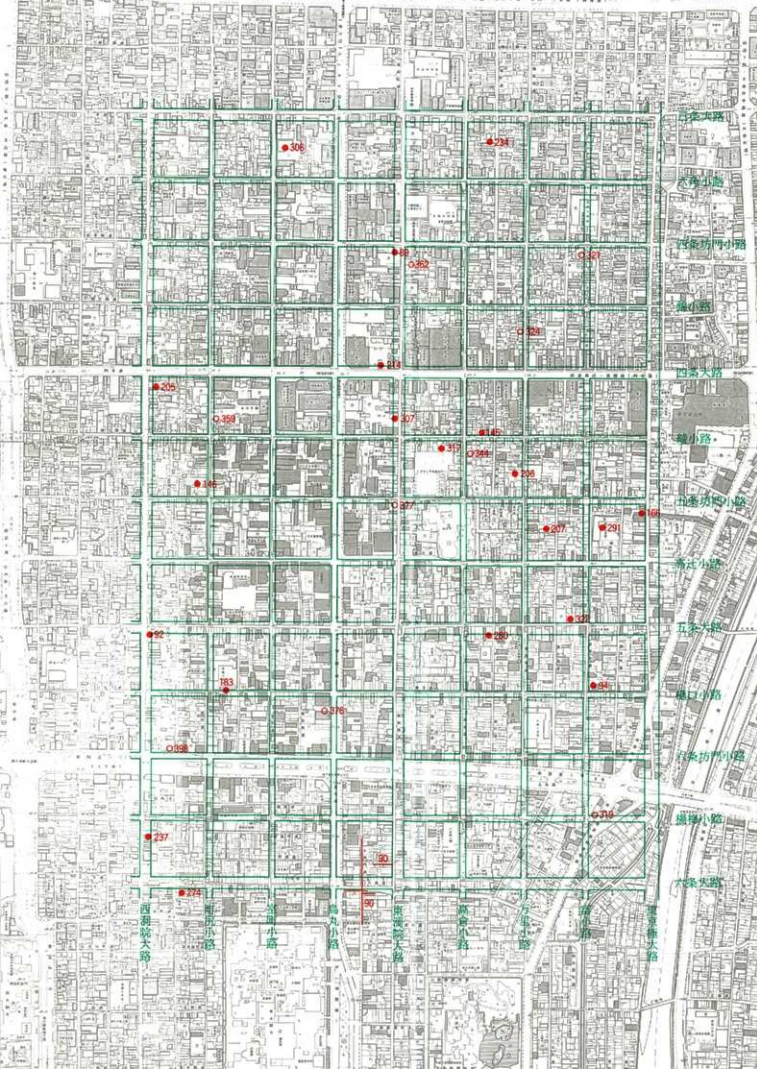












三条大路

西條坊門小路

西條坊門小路

藤小路

四條大路

藤小路

西條坊門小路

高倉小路

五條大路

堀口小路

西條坊門小路

藤小路

六條大路

東邊坊門大路

西邊坊門大路

高倉小路

高倉小路

高倉小路

高倉小路

高倉小路

高倉小路

高倉小路

高倉小路

高倉小路

西邊坊門大路

高倉小路

高倉小路

高倉小路

高倉小路

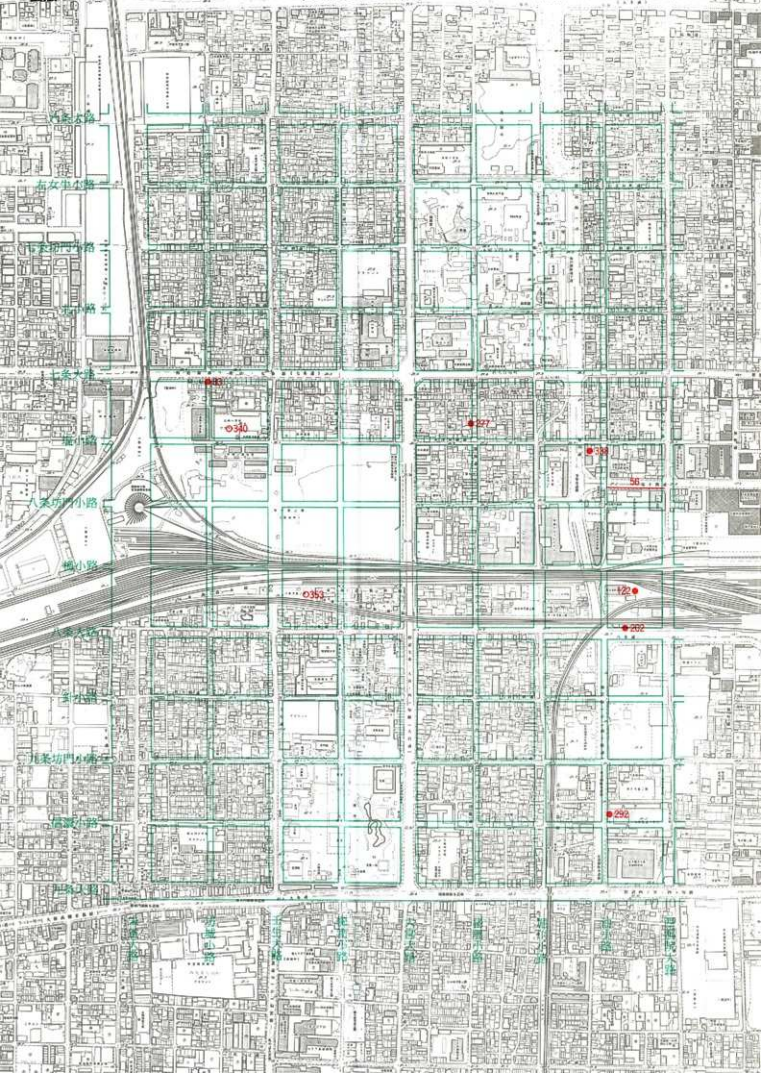
高倉小路

高倉小路

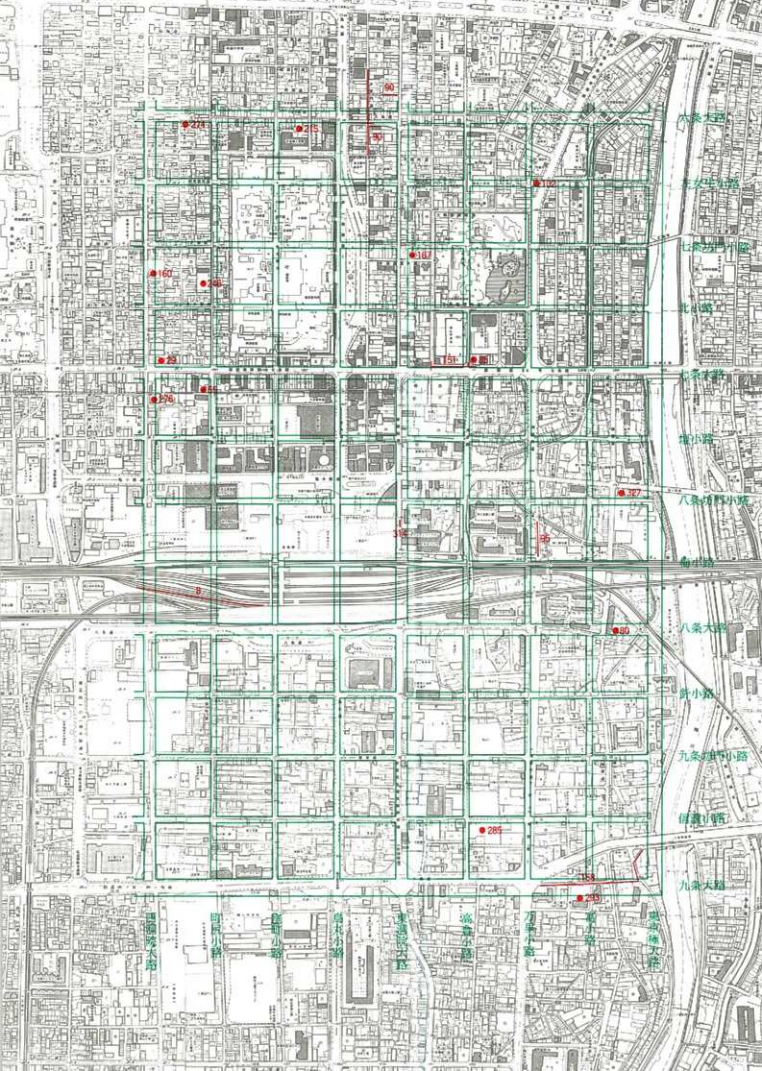
高倉小路

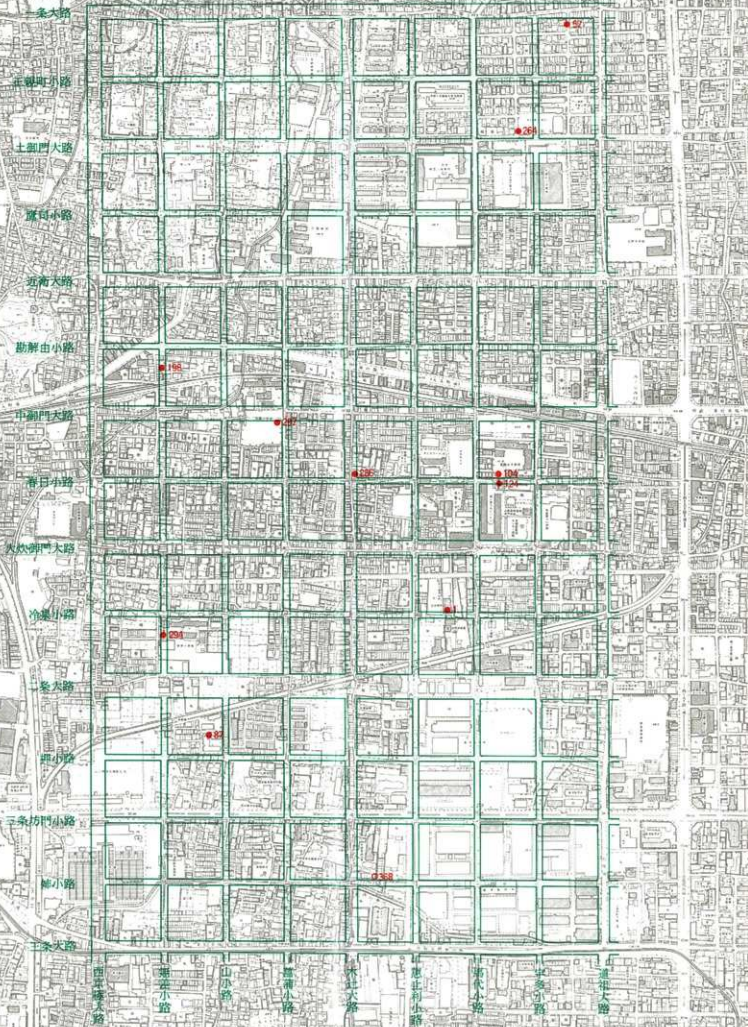
高倉小路

高倉小路

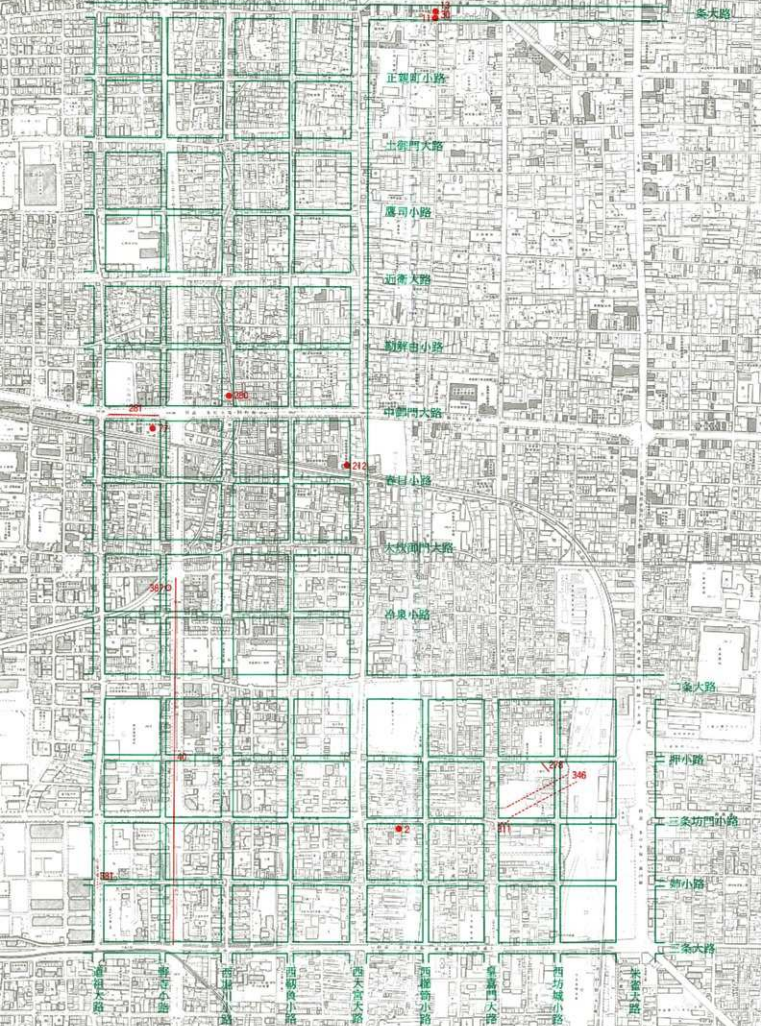


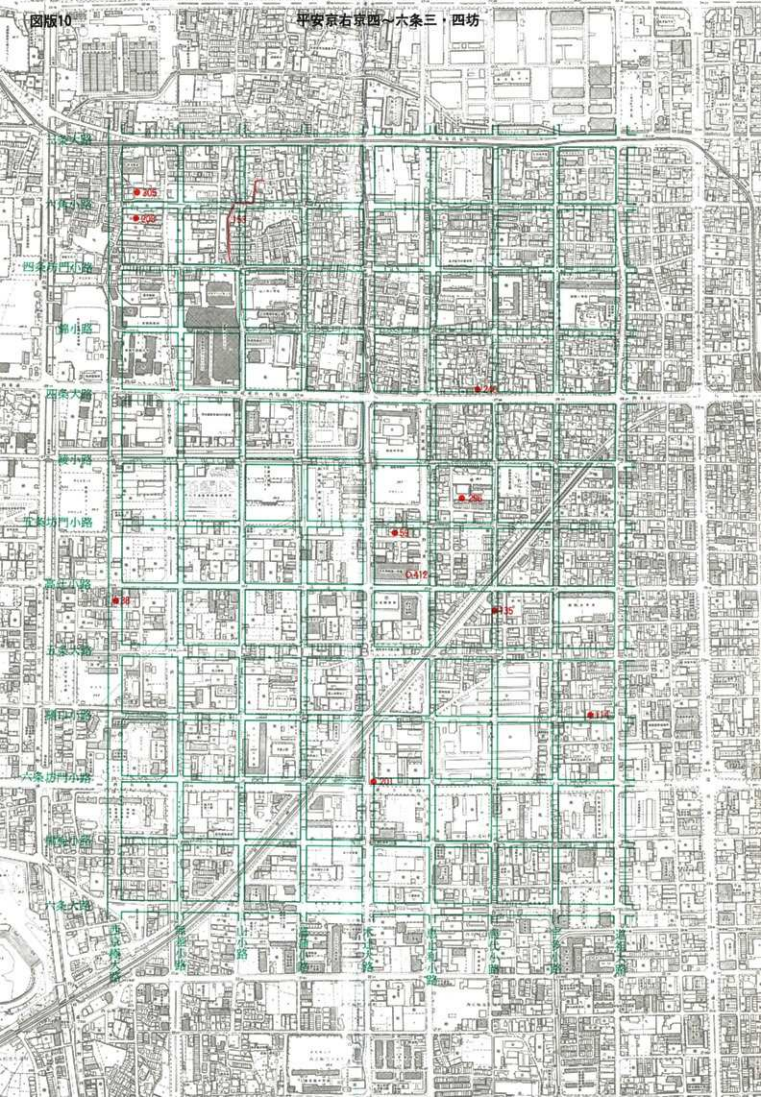




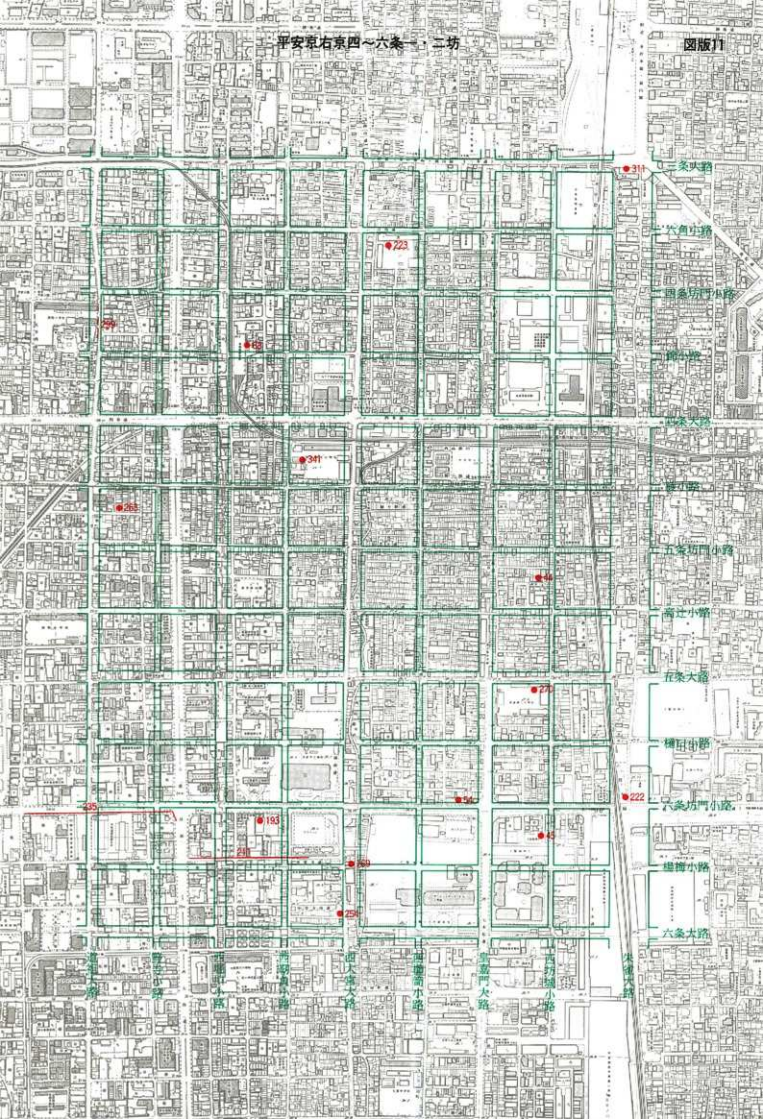


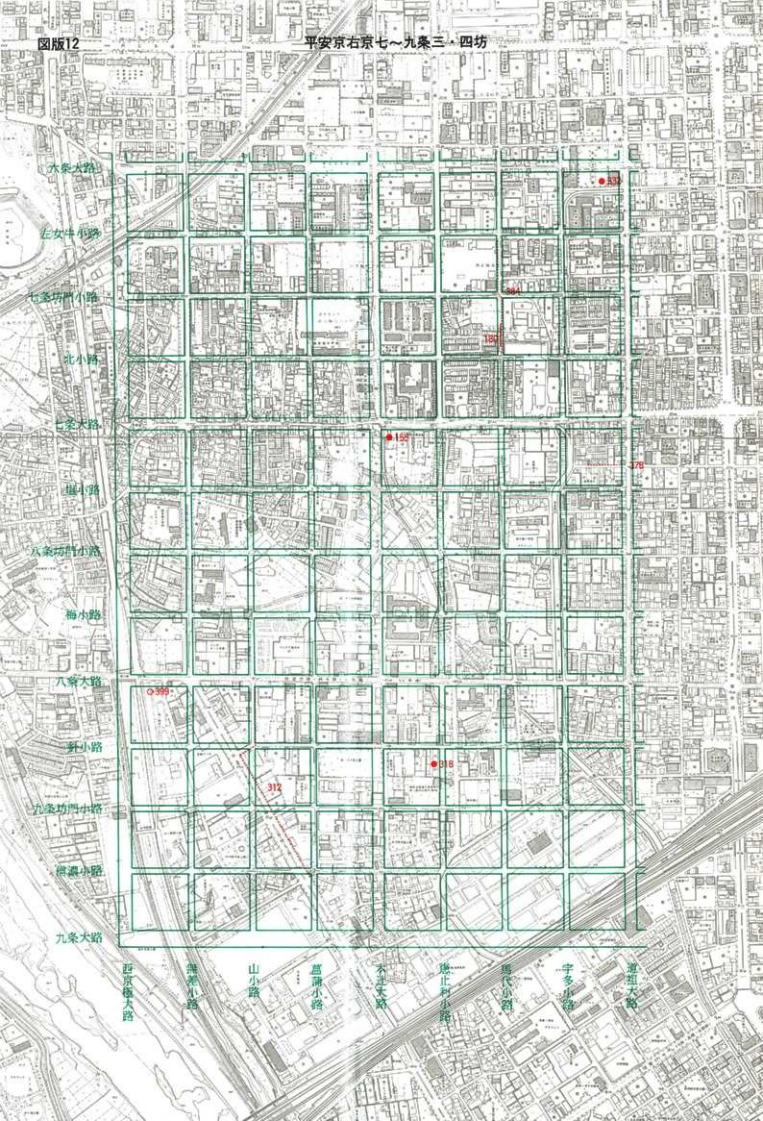












六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

堀小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

菅瀨小路

九条大路

西京橋大路

無名小路

山小路

高瀬小路

木立大路

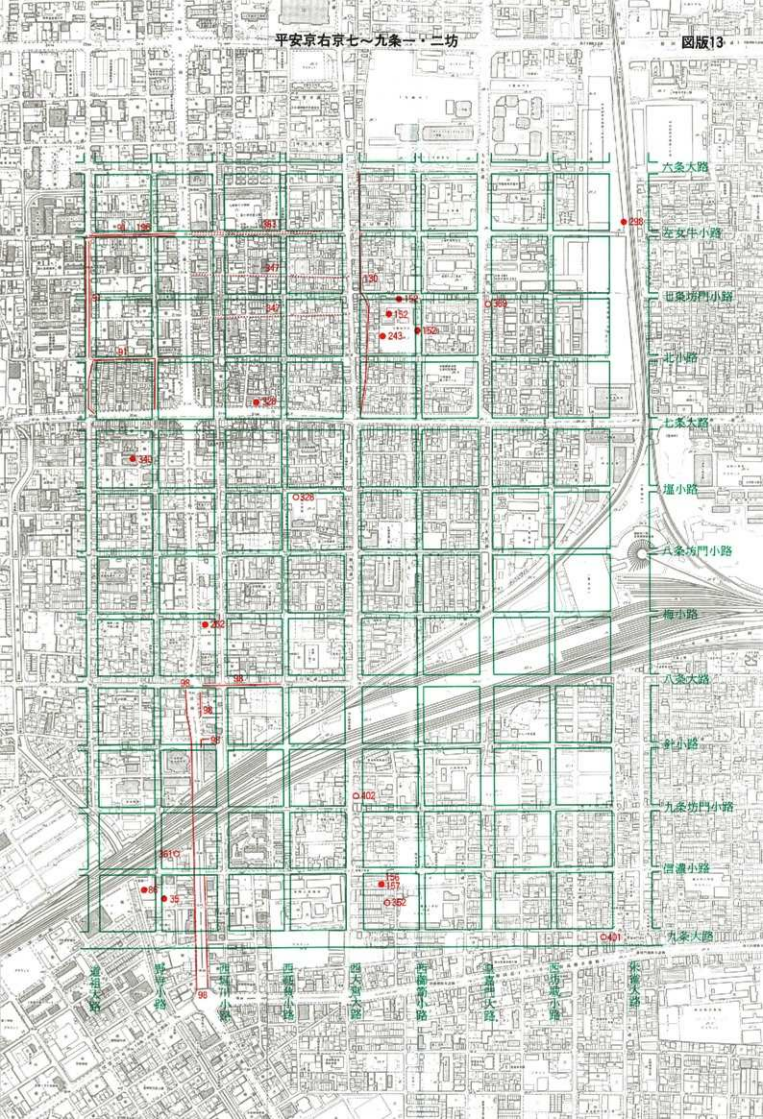
藤止町小路

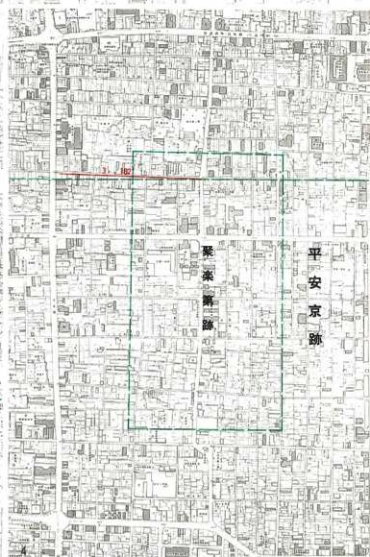
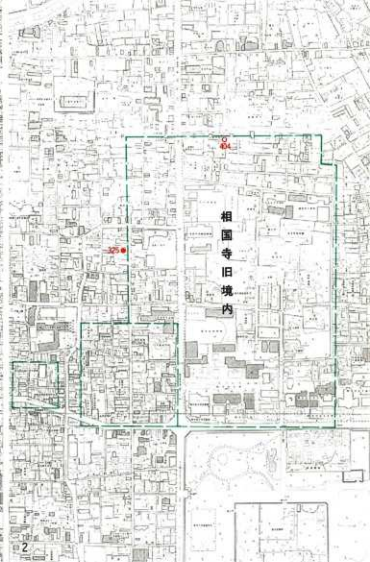
馬代小路

宇多小路

道祖大路













仁和寺院家跡

村ノ内町遺跡

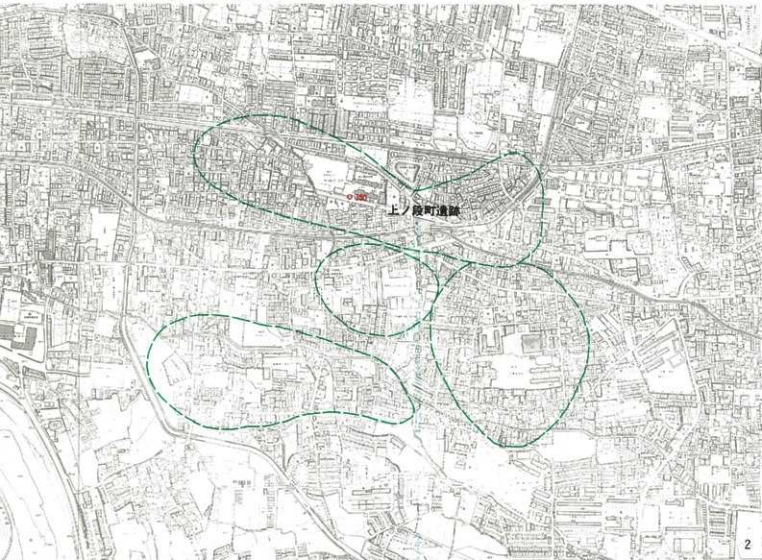
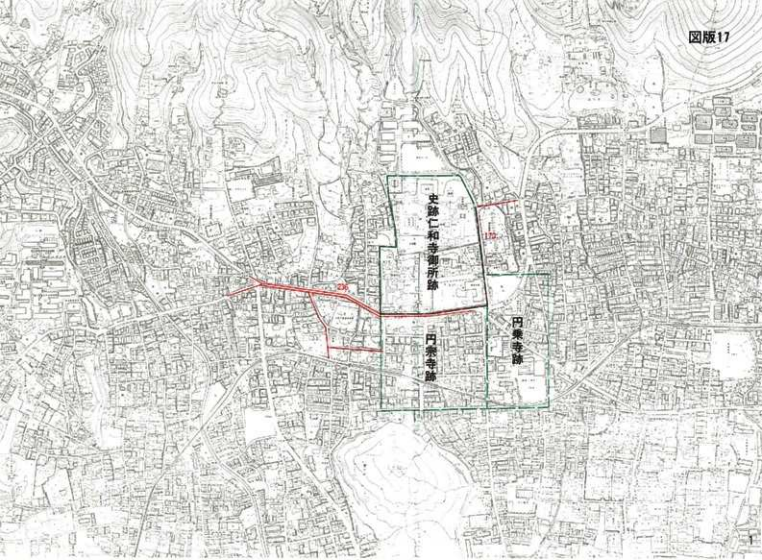
常盤仲之町遺跡

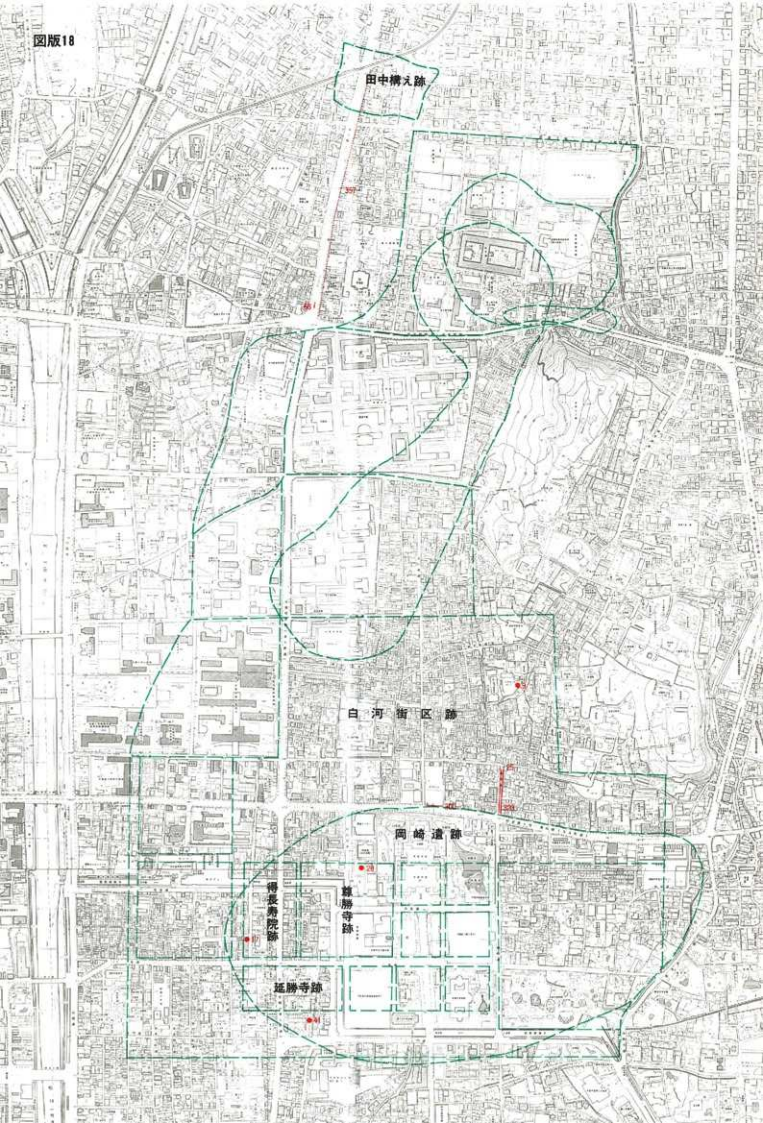
瓜蓬寺旧境内

平安京跡

100







田中構入跡

白河街区跡

岡崎遺跡

得長壽院跡

蓮勝寺跡

延勝寺跡







六波羅政庁跡

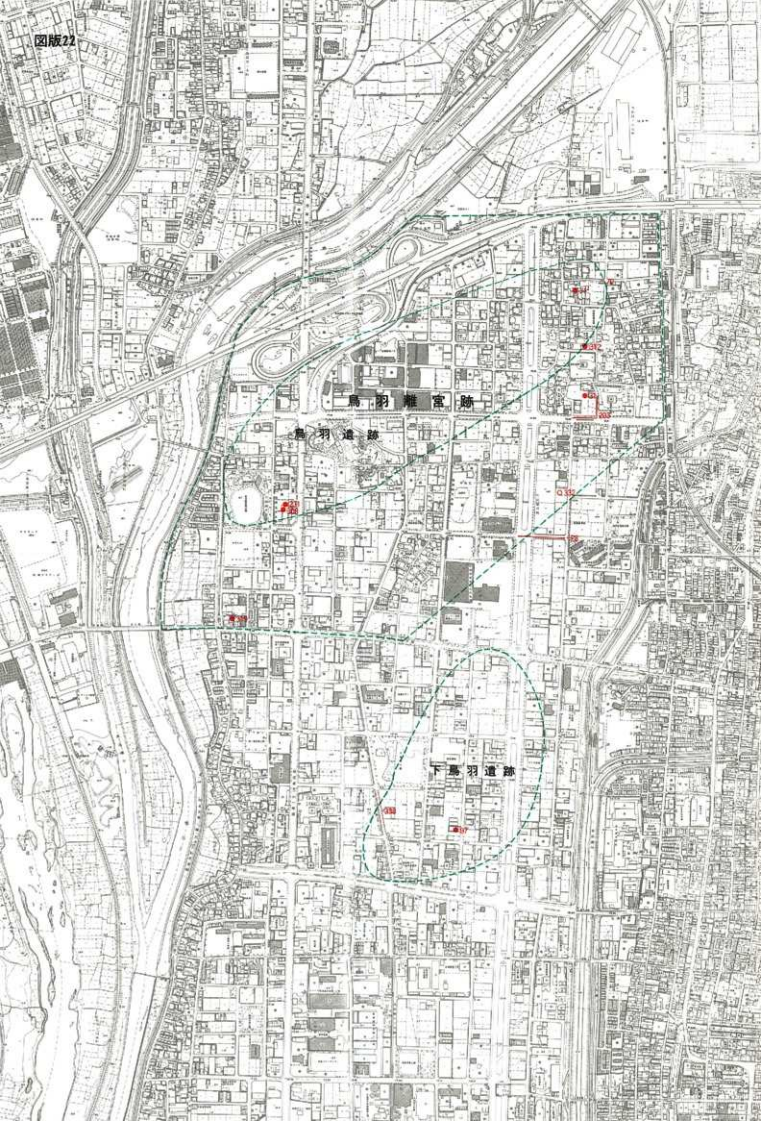
鳥辺野

法住寺殿跡

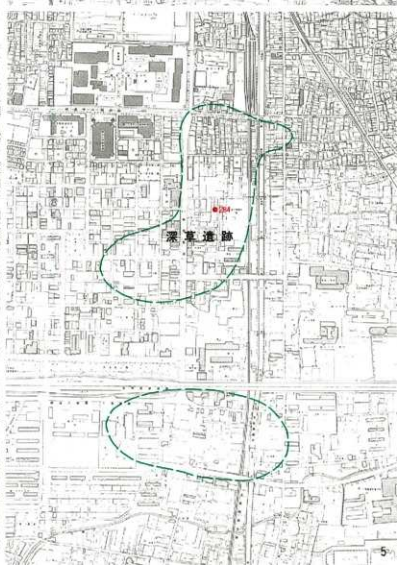
南日吉町遺跡

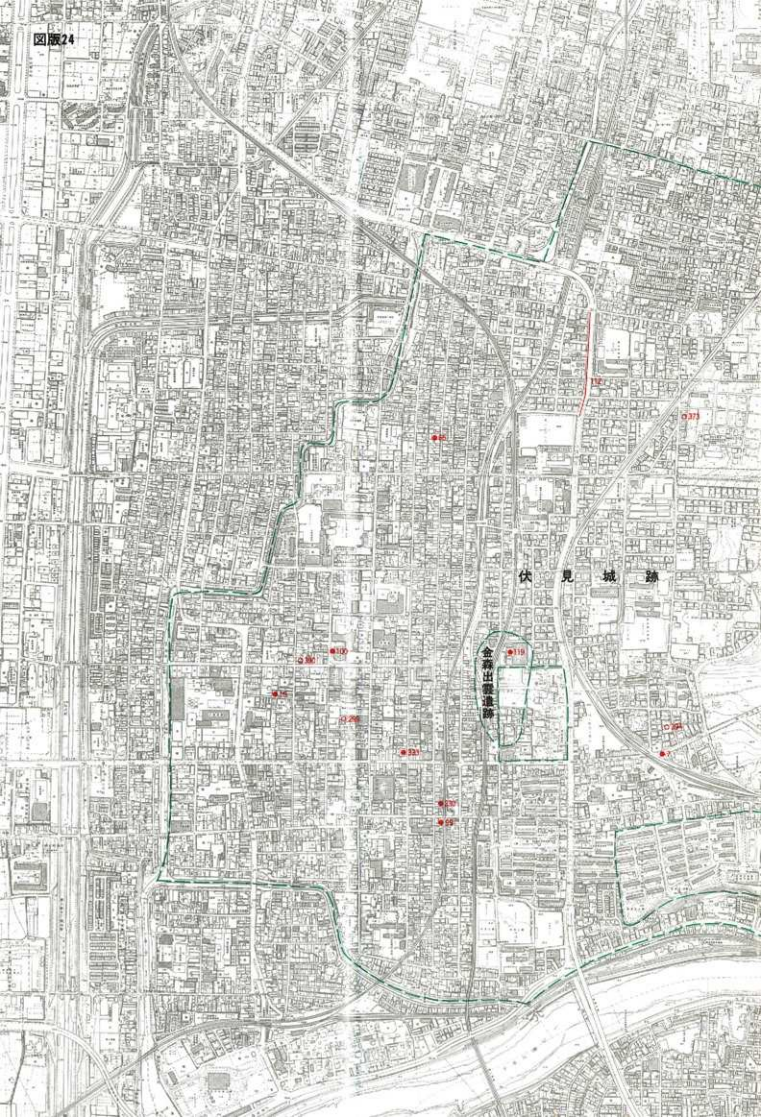












伏見城跡

金吾出雲進跡

315

310

320

321

330

35

319

37

373

373

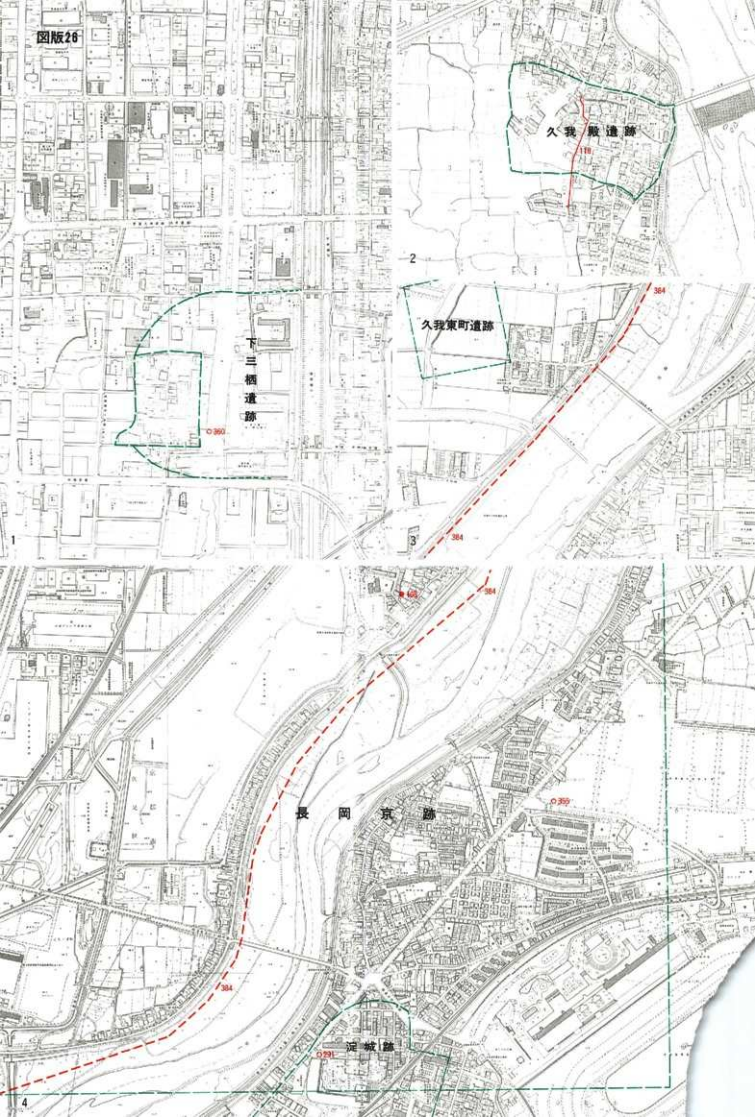




伏見城跡

黄金塚古墳  
1号墳

147



久我殿遺跡

下三橋遺跡

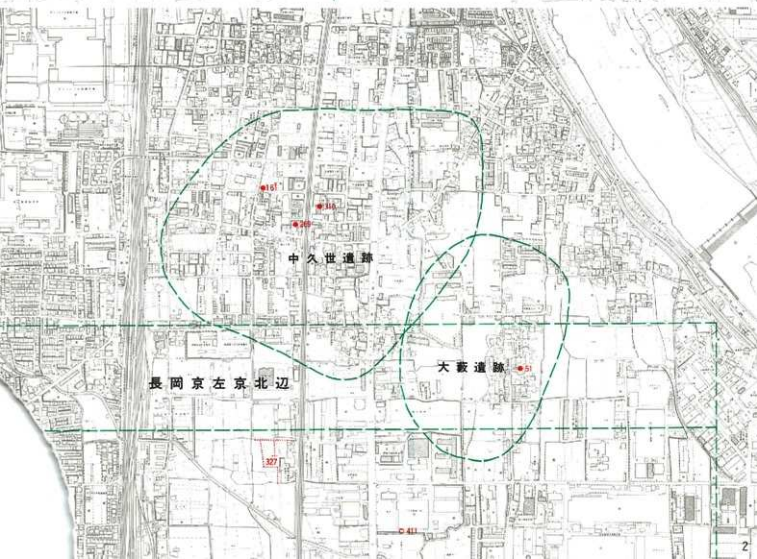
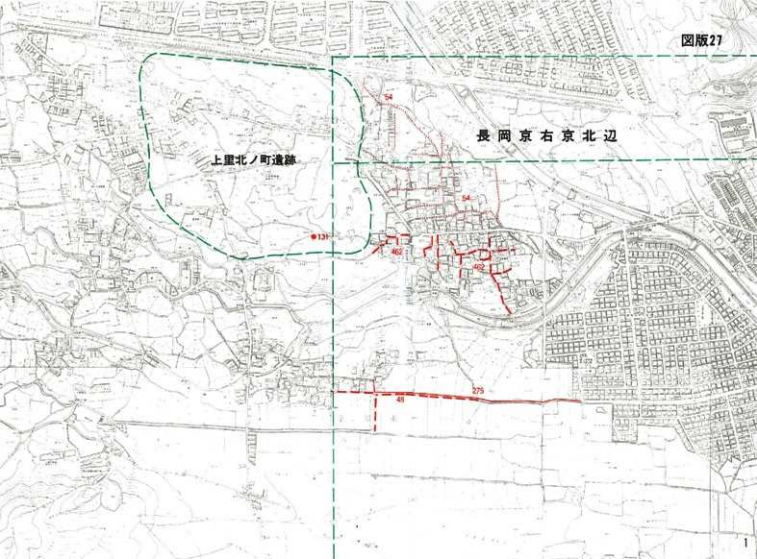
久我東町遺跡

長岡京跡

定城跡

2

4









写 真



10



11



12



13



7



1



2



3



5



6

平安京左京四條二坊九町 (99HL69)

平安京右京五條一坊六町 (99HR44)

植物園北遺跡 (99RH18)

99HL69 漆器類 (10-13)

99HR44 木簡 (7)

99RH18 出土土器 (1-3・5・6)



1



2



3



4



5



6



7



8

瓦類 (1~8)



9



13



10



14



11



15



12



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



29



26



30



27



31



28



32



33



36



34



37



35



38



39



40



41



42



44



43



45



46



47



50



48



51



49



52





53



59



54



60



55



61



56



62



57



63



58



64

瓦類 (53~64)



65



66



68



67



69



70

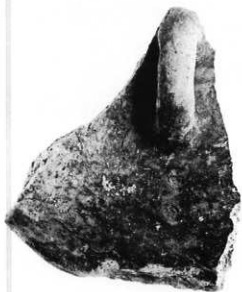


71

瓦類 (65~71)



瓦類 (72~77)



78



79



80



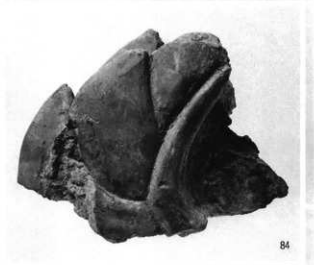
81



82



83



84



5



1



7



2



8



3

98FD394 瓦類 (83・84) 98UZ286 出土土器 (1・3・5・7・8)

## 京都市内遺跡立会調査概報

平成11年度

発行日 2000年3月31日  
発行 京都市文化市民局  
住所 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488  
編集 錦京都市遺産文化財研究所  
住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1  
TEL (075) 415-0521  
印刷 真 陽 社